

令和 7 年度
同和地区生活実態調査報告書

令和 8 年 3 月
佐 久 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	収集・分析	1
7	調査結果の表示方法	1
8	その他	1
II	調査結果【世帯調査】	
◆	基礎資料の内訳	2
1	家族構成	3
2	住宅	6
3	環境	16
4	生活費の源泉	18
III	調査結果【世帯員調査】	
◆	基礎資料の内訳	20
1	健康の状態	21
2	就労の有無・形態	32
3	就職希望	35
4	年収	39
5	結婚	44
6	インターネット環境	54
7	隣保館（人権文化センター）活動	56
8	被差別体験	59
9	自由記述欄の回答	67
IV	調査結果の考察とテーマ分析	69
V	調査様式	75

I. 調査の概要

1. 調査の目的

同和地区住民の生活実態の現状を把握し、今後の人権同和教育・啓発活動の課題を明らかにするための基礎資料として、「第五次佐久市部落差別撤廃と人権擁護に関する総合計画」策定に活用する。

2. 調査対象

市内に在住する全同和地区関係世帯。ただし、協力が得られない場合は、この限りではない。

3. 調査期間

令和7年10月1日から令和7年10月31日

4. 調査方法

各運動団体の協力を得て、調査員による配布及び回収。なお、回答は無記名とする。

5. 回収状況

配布数	回収数	回収率
141 世帯	140 世帯	99.3%

6. 集計・分析

この調査の集計・分析は佐久市が行う。

7. 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示す。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の設問の場合、選択項目が回答対象者数に対してどのくらいの比率かを示すため、比率の合計が100.0%を超える場合がある。

8. その他

前回（令和2年11月）の調査結果を参考に、各設問の見直し・追加及び回答方法の見直しを行い、無回答が減少するよう工夫している。

II. 調査結果【世帯調査】

◆基礎資料の内訳

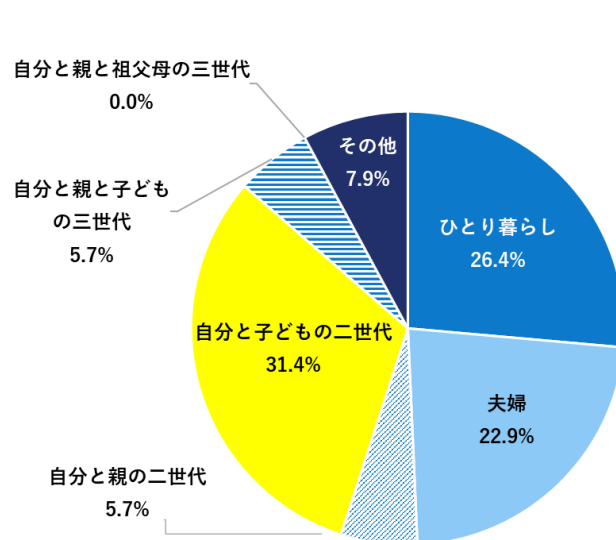
基礎資料とは、他の設問とクロス集計するための「基礎となるデータ」のことである。

世帯調査では、【1】の設問を基礎資料として調査している。

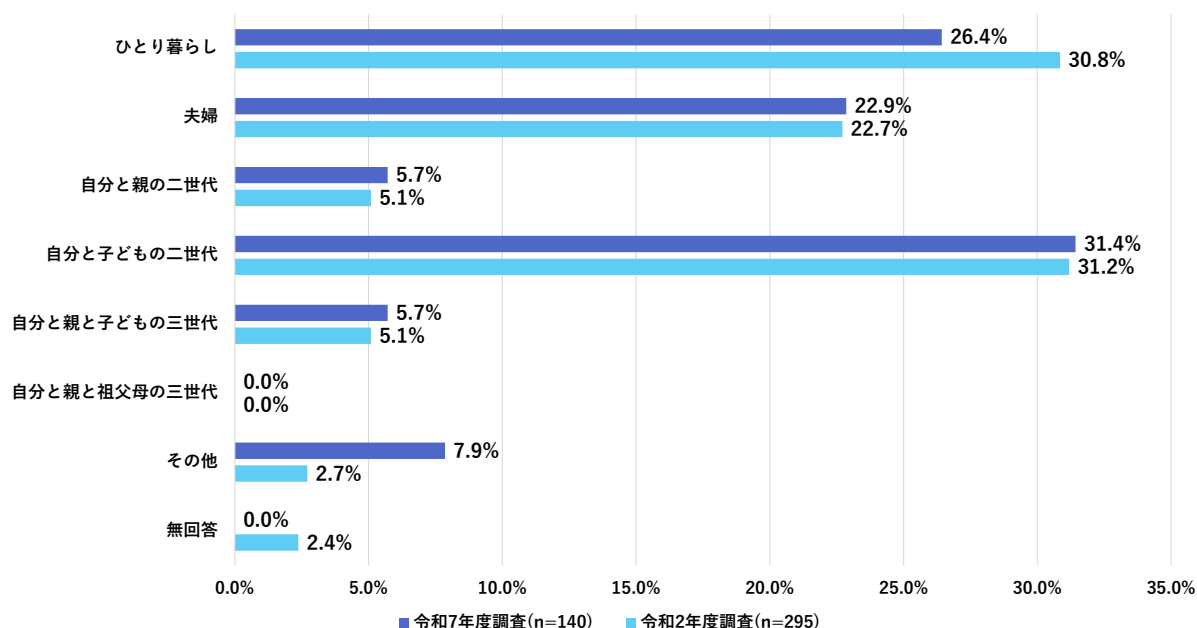
前回調査と比較すると、回答世帯数は295世帯から140世帯と155世帯減った。世帯構成は、「ひとり暮らし」が前回調査30.8%から4.4ポイント減の26.4%、「夫婦」が前回調査22.7%から0.2ポイント増の22.9%、「自分と親の二世帯」が前回調査5.1%から0.6ポイント増の5.7%、「自分と子どもの二世帯」が前回調査31.2%から0.2ポイント増の31.4%、「自分と親と子どもの三世帯」が前回調査5.1%から0.6ポイント増の5.7%となった。

【世帯構成】

	回答世帯数	割合（％）	子どもがいる	子どもはいない	無回答
ひとり暮らし	37	26.4%	22	15	0
夫婦	32	22.9%	24	8	0
自分と親の二世帯	8	5.7%	2	5	1
自分と子どもの二世帯	44	31.4%	44	0	0
自分と親と子どもの三世帯	8	5.7%	8	0	0
自分と親と祖父母の三世帯	0	0.0%	0	0	0
その他	11	7.9%	8	3	0
無回答	0	0.0%	0	0	0
全体	140	100.0%	108	31	1



【過去の調査との比較】



1 家族構成

子どもの有無 子どものいる世帯は 77%

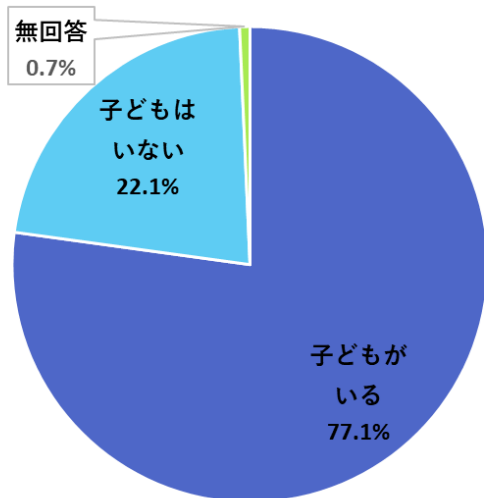
【2】 あなた（世帯主）に子どもはいますか。（同居していない子どもを含みます。）

「子どもがいる」世帯は 77% にのぼり、そのうち子どもと同居している世帯は「自分と子どもの二世帯」40.7% と「自分と親と子どもの三世帯」7.4%、また「その他」の回答のうち「自分と子と孫の三世帯」など 6 世帯を合わせ 53.7% となった。

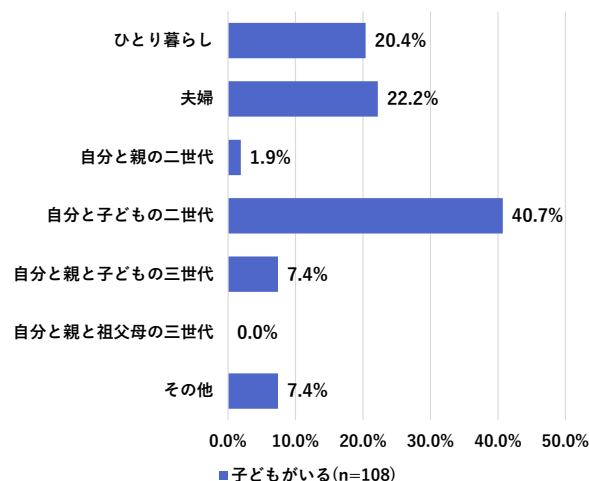
子どもと別居しているのは「夫婦」世帯 22.2%、「ひとり暮らし」世帯 20.4%、「自分と親の二世帯」世帯 1.9%、「その他」の回答のうち別居 2 世帯の合わせて 46.3% となり、子どもと同居している世帯と別居している世帯のはほぼ同じであることがわかった。

また、今回調査で「自分と親と祖父母の三世帯」という回答項目が設定されたが、回答世帯は 0% である。

【子どもの有無】



【子どもがいる家庭の世帯構成】



【2】 あなた（世帯主）に子どもはいますか。（同居していない子どもを含みます。）

(%)

		標 本 数 (世 帯)	子 ど も が い る	子 ど も は い な い	無 回 答
	全体	140	108	31	1
		100.0	77.1	22.1	0.7
世帯 構成	ひとり暮らし	37	59.5	40.5	—
	夫婦	32	75.0	25.0	—
	自分と親の二世帯	8	25.0	62.5	12.5
	自分と子どもの二世帯	44	100.0	—	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	100.0	—	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—
	その他	11	72.7	27.3	—

子どもについて

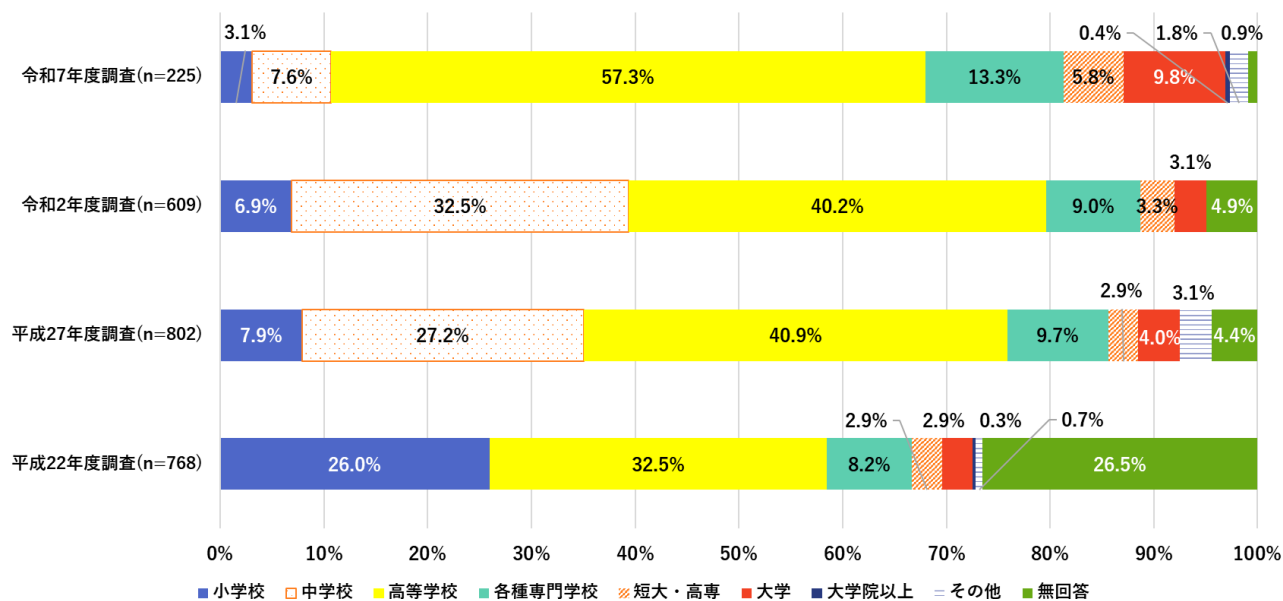
【3】 子どもがいる世帯主の方にお伺いします。

あなた（世帯主）の子どもの最終学歴と現在の居住地をお答えください。

前回までは世帯員調査だった項目が、今回から世帯調査となった。子どもの最終学歴としては、「高等学校」が57.3%と半分以上を占め、次いで「各種専門学校」13.3%「大学」9.8%の順が多い。

また子どもの居住地は「同居」が32.9%と最も多く、「県外」27.1%、「市内」26.2%が僅差である。

【過去の調査との比較】

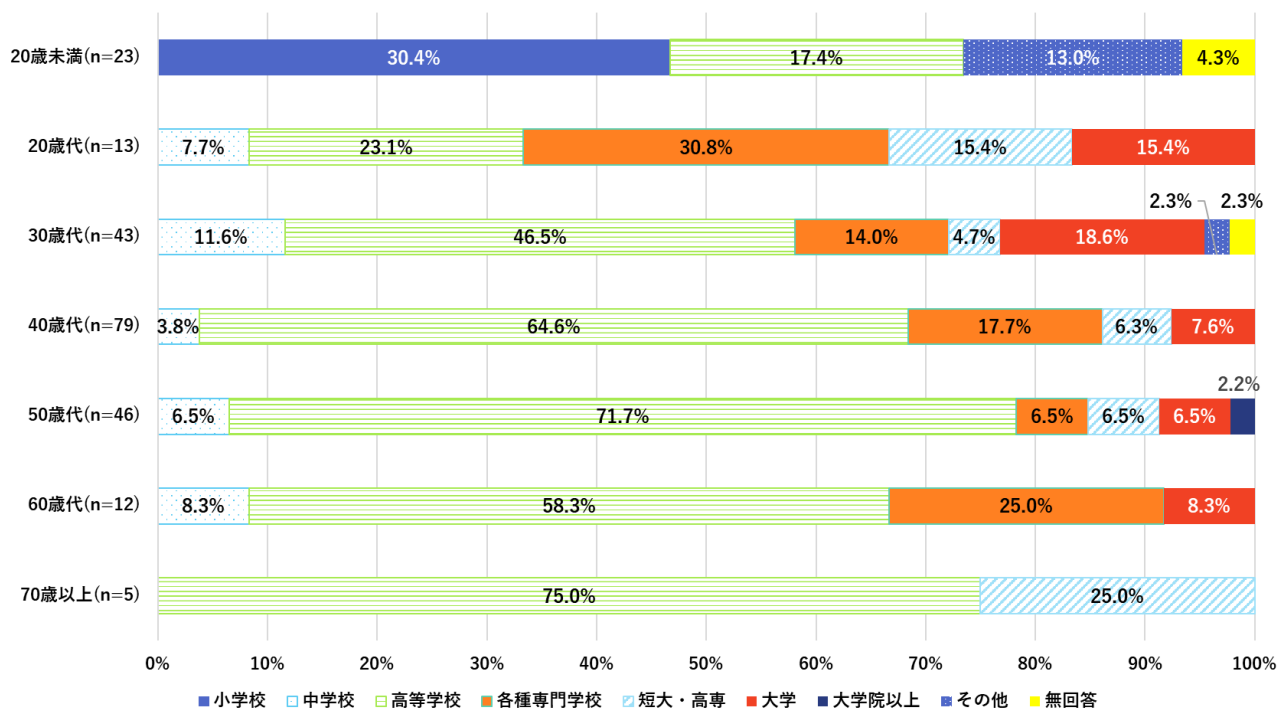


【子どもの年代と最終学歴】

(%)

		子どもの人数	小学校	中学校	高等学校	各種専門学校	短大	高専	大学	大学院以上	その他	無回答
全体		225	7	17	129	30	13	0	22	1	4	2
		100.0	3.1	7.6	57.3	13.3	5.8	0.0	9.8	0.4	1.8	0.9
子どもの年代	20歳未満	23	30.4	13.0	34.8	—	—	—	4.3	—	13.0	4.3
	20代	13	—	7.7	23.1	30.8	15.4	—	23.1	—	—	—
	30代	43	—	11.6	46.5	14.0	4.7	—	18.6	—	2.3	2.3
	40代	79	—	3.8	64.6	17.7	6.3	—	7.6	—	—	—
	50代	46	—	6.5	71.7	6.5	6.5	—	6.5	2.2	—	—
	60代	12	—	8.3	58.3	25.0	—	—	8.3	—	—	—
	70代以上	5	—	20.0	80.0	—	—	—	—	—	—	—
	無回答	4	—	—	75.0	—	25.0	—	—	—	—	—

【年代別】

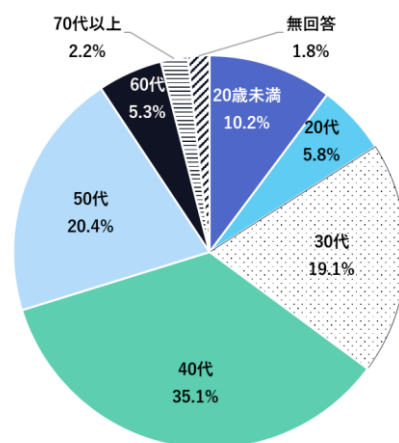


【子どもの年代と居住地】

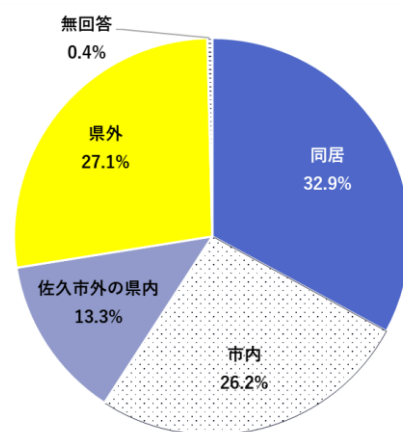
(%)

		子 ど も の 人 数	同 居	市 内	佐 久 市 外 の 県 内	県 外	無 回 答
全体		225	74	59	30	61	1
		100.0	32.9	26.2	13.3	27.1	0.4
子どもの年代	20歳未満	23	78.3	4.3	8.7	4.3	4.3
	20代	13	23.1	38.5	—	38.5	—
	30代	43	37.2	23.3	11.6	27.9	—
	40代	79	26.6	34.2	6.3	32.9	—
	50代	46	28.3	19.6	23.9	28.3	—
	60代	12	16.7	41.7	25.0	16.7	—
	70代以上	5	—	40.0	40.0	20.0	—
	無回答	4	25.0	—	50.0	25.0	—

【子どもの年代】



【子どもの居住地】



2 住宅

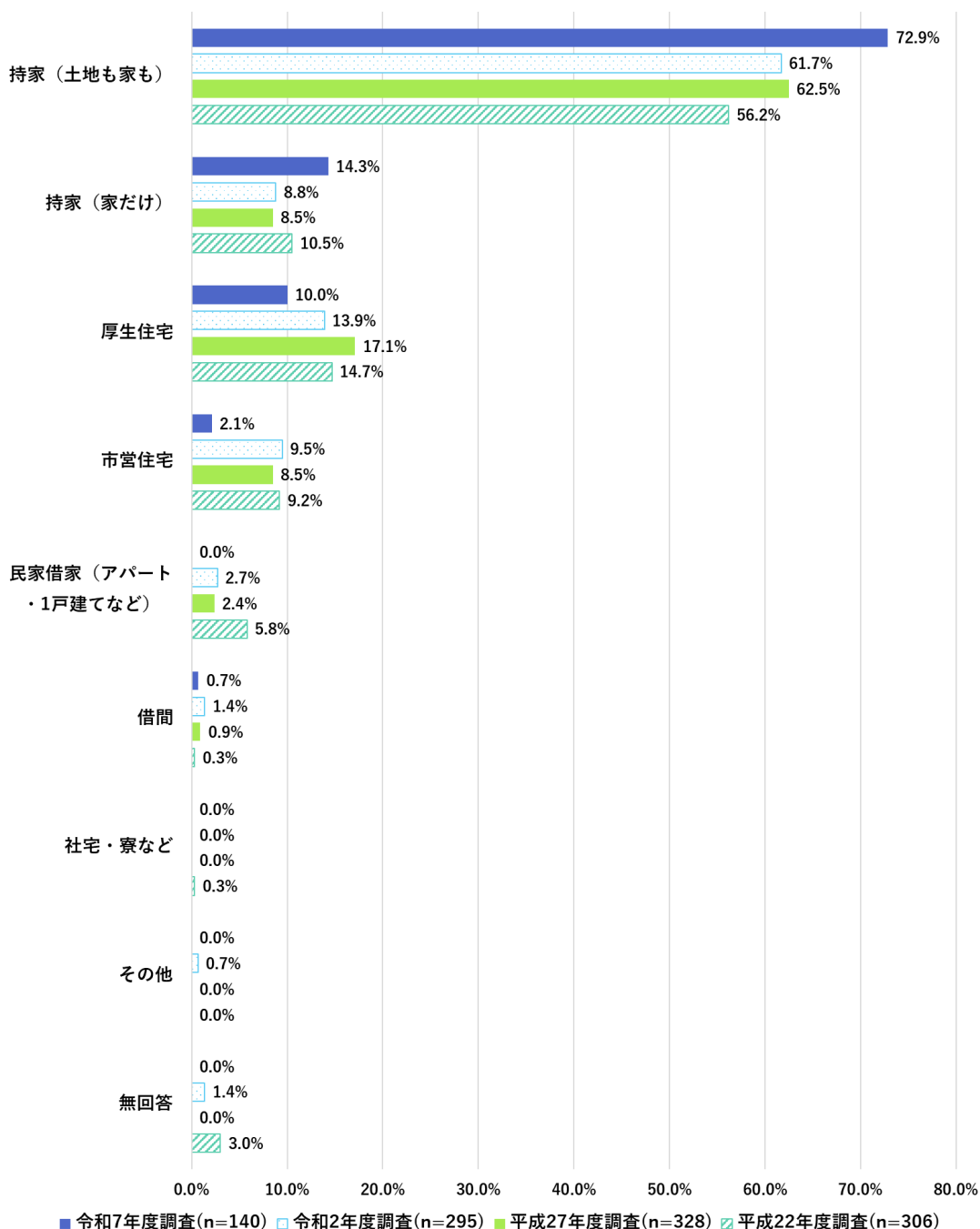
持ち家率の変化 持ち家率は90%弱

【4】あなたの住宅についてお答えください。（〇は一つ）

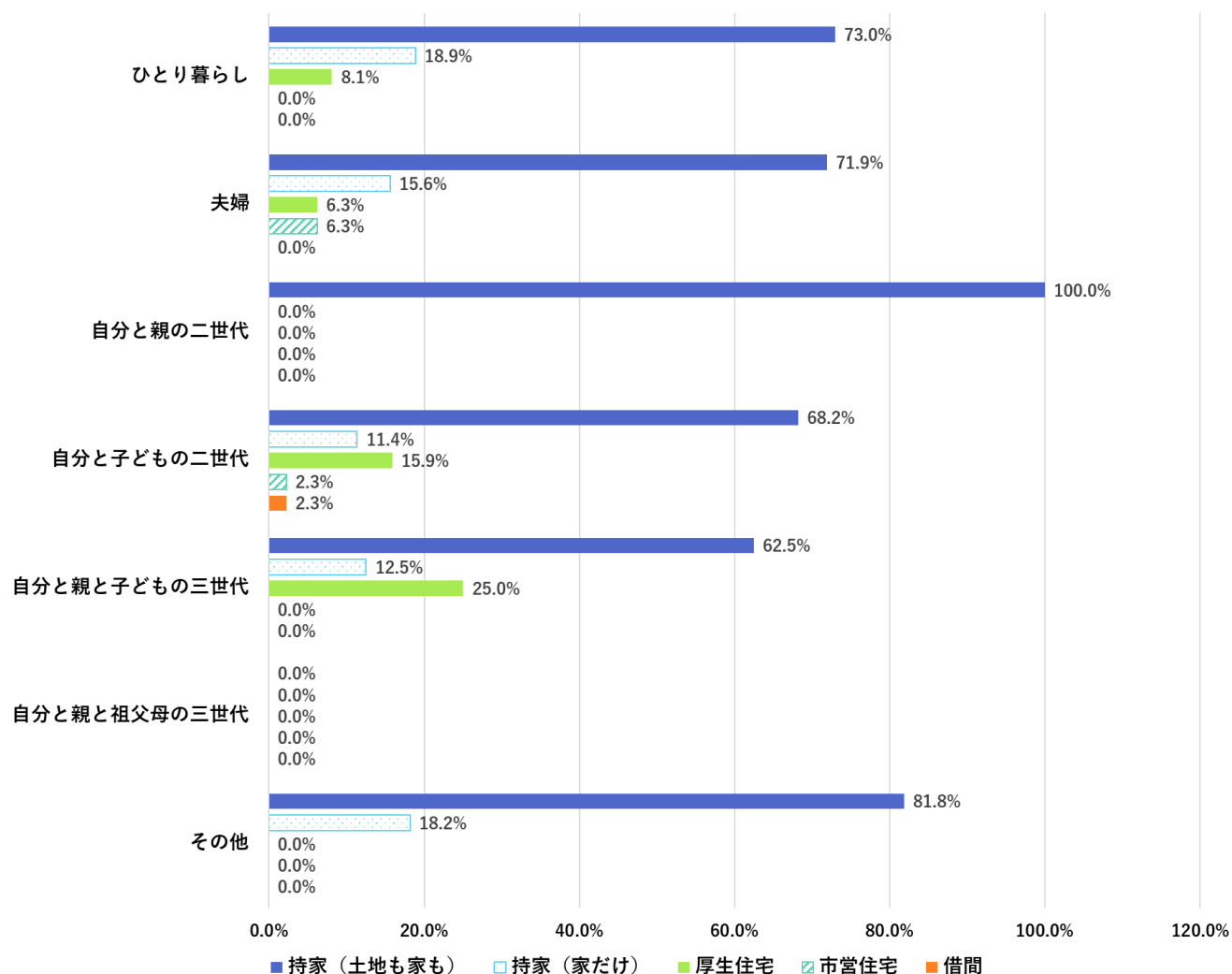
持ち家率は前回調査の「持家（土地も家も）」61.7%と「持家（家だけ）」8.8%を合わせた70.5%だったが、今回調査では「持家（土地も家も）」72.9%と「持家（家だけ）」14.3%を合わせた87.2%となり、前回調査より16.7ポイント増えた。

また令和5年住宅・土地統計調査によると、長野県の持ち家率は約71.7%、佐久市の持ち家率は約72.1%である。

【過去の調査との比較】



【世帯構成ごとの住居】



【４】あなたの住居についてお答えください。

		回答 世帯 数	持家 （土 地も 家も ）	持家 （家 だけ ）	厚生 住宅	市 営 住宅	・ 民 1 家 戸 借 建 家 て （ア パ ー ト	借 間	社 宅 ・ 寮 など	そ の 他	無 回 答
全体		140	102	20	14	3	0	1	0	0	0
		100.0	72.9	14.3	10.0	2.1	—	0.7	—	—	—
世帯 構成	ひとり暮らし	37	73.0	18.9	8.1	—	—	—	—	—	—
	夫婦	32	71.9	15.6	6.3	6.3	—	—	—	—	—
	自分と親の二世帯	8	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	自分と子どもの二世帯	44	68.2	11.4	15.9	2.3	—	2.3	—	—	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	62.5	12.5	25.0	—	—	—	—	—	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	11	81.8	18.2	—	—	—	—	—	—	—
無回答		0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

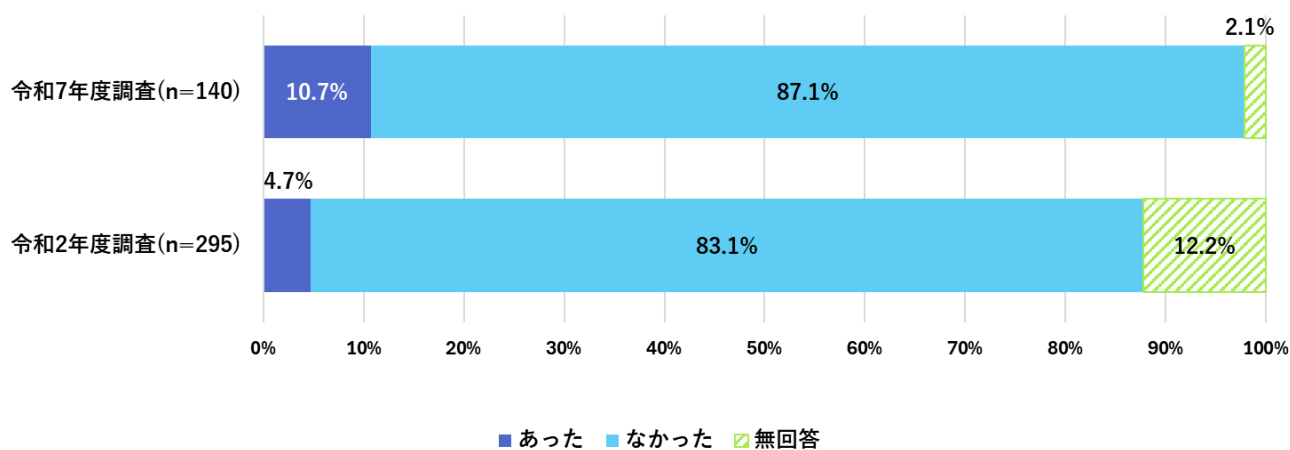
住居の変化 「5年間に住居の変化なし」が87%

【5】この5年間で、あなたの住居に変化（新築、改築、転居等）はありましたか。

住居に変化のあった世帯は140世帯中15世帯で、全体の10.7%だった。また【6】で変化の内容を聞いたところ、内訳は以下の表のとおりだった。

変化が「あった」のは、前回調査の4.7%から6ポイント増の10.7%となっているが、これは無回答が前回の12.2%から10.1ポイント減の2.1%となったことが影響していると思われる。

【過去の調査との比較】



【5】この5年間で、あなたの住居に変化（新築・改築・転居等）はありましたか。

【6】変化の内容

		回答世帯数	あった	なかった	無回答
全体		140	15	122	3
		100.0	10.7	87.1	2.1
世帯構成	ひとり暮らし	37	2.7	94.6	2.7
	夫婦	32	12.5	84.4	3.1
	自分と親の二世帯	8	—	87.5	12.5
	自分と子どもの二世帯	44	15.9	84.1	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	37.5	62.5	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—
	その他	11	—	100.0	—
	無回答	0	—	—	—

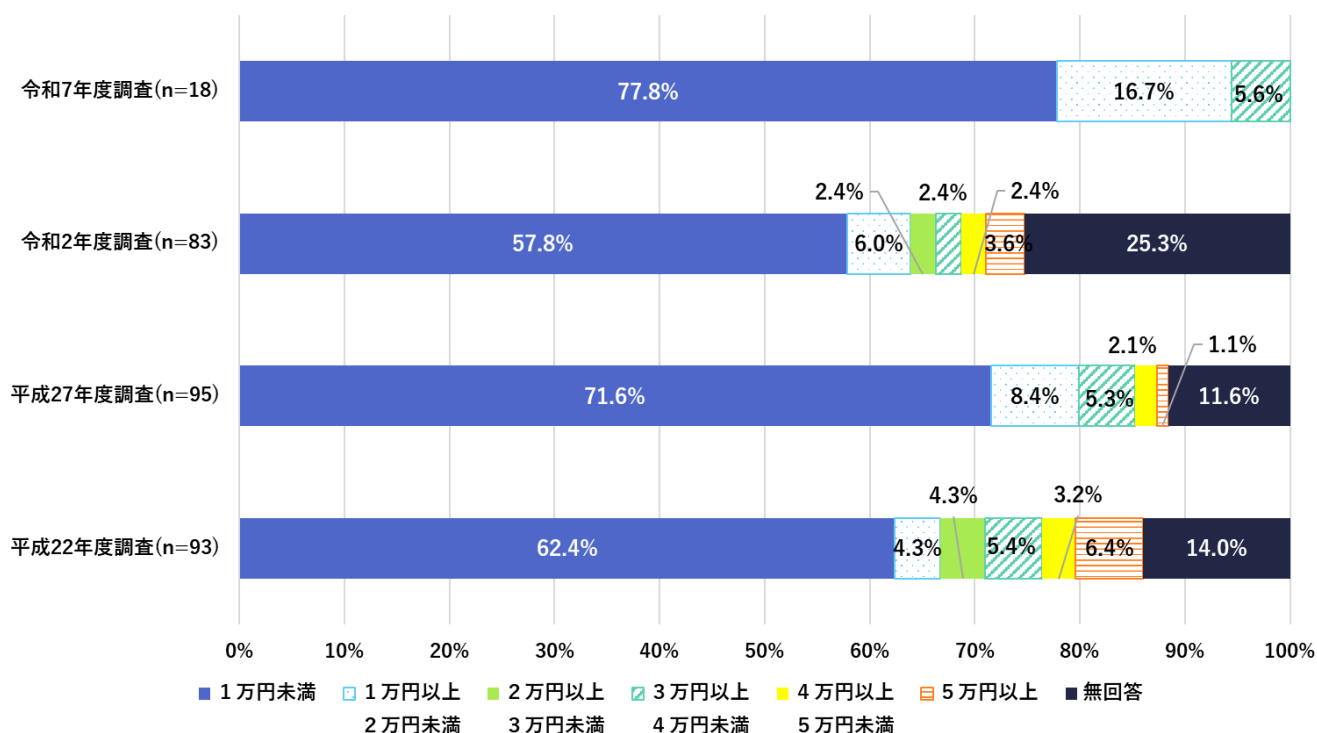
転居	5世帯
改築・改装	6世帯
新築	4世帯

家賃

【7】 借家等に住んでおられる方は家賃をお書きください。

今までの調査と同じく「1万円未満」が最も多いが、前回調査の57.8%から20ポイント増の77.8%となった。ただし前回は25.3%と全体の四分の一を占めていた無回答が今回は0%のため、「1万円未満」が大きく増えているとは言い切れない。

【過去の調査との比較】



【7】 借家等に住んでおられる方は家賃をお書きください。

(%)

		回答 世帯 数	1 万 円 未 満	2 万 円 未 満 上	3 万 円 未 満 上	4 万 円 未 満 上	5 万 円 未 満 上	5 万 円 以 上	無 回 答
全体		18	14	3	0	1	0	0	0
		100.0	77.8	16.7	—	5.6	—	—	—
世帯 構成	ひとり暮らし	3	66.7	33.3	—	—	—	—	—
	夫婦	4	50.0	25.0	—	25.0	—	—	—
	自分と親の二世帯	0	—	—	—	—	—	—	—
	自分と子どもの二世帯	9	88.9	11.1	—	—	—	—	—
	自分と親と子どもの三世帯	2	100.0	—	—	—	—	—	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—	—
	その他	0	—	—	—	—	—	—	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—

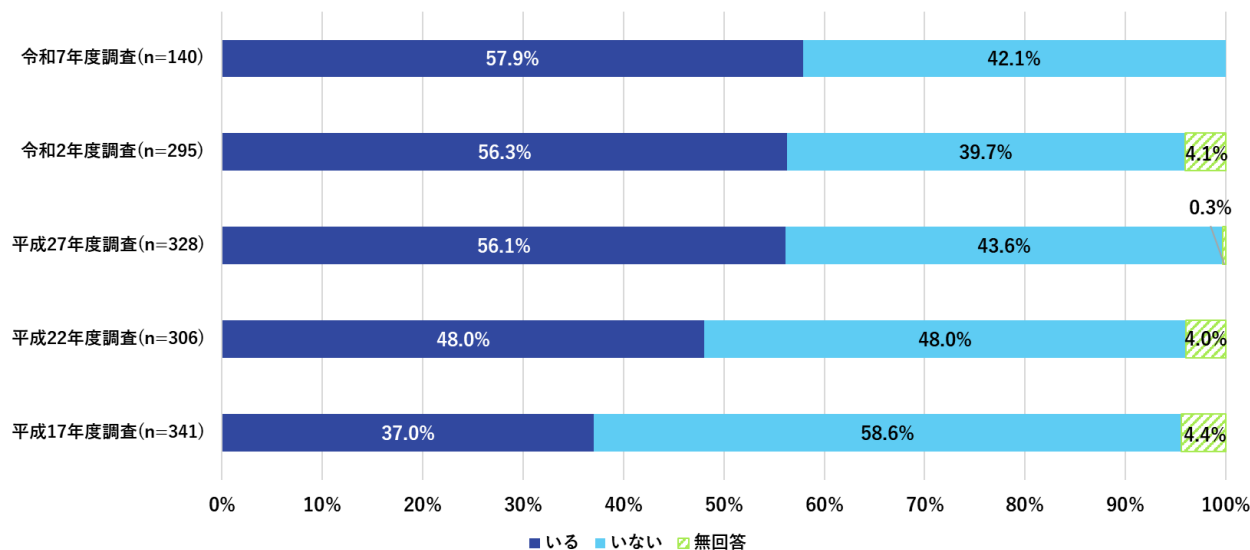
水洗化 水洗化率（使用率）は60%に満たず

【8】現在の住宅は水洗化されていますか。

「いる」が前回調査の56.3%から1.6ポイント増の57.9%で、さらにその前の平成27年調査から比べてもほとんど変わらない。佐久市全体の水洗化率は令和3年度末時点で95.1となっており、今回調査と37.2ポイントの差がある。

（注）今回調査した「水洗化率（使用率）」とは、どれくらいの人が実際に下水道に接続し、水洗化しているかを示すものである。

【過去の調査との比較】



【8】現在の住宅は水洗化されていますか。

(%)

		回答世帯数	いる	いない	無回答
全体		140	81	59	0
		100.0	57.9	42.1	—
世帯構成	ひとり暮らし	37	59.5	40.5	—
	夫婦	32	59.4	40.6	—
	自分と親の二世帯	8	37.5	62.5	—
	自分と子どもの二世帯	44	56.8	43.2	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	87.5	12.5	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—
	その他	11	45.5	54.5	—
	無回答	0	—	—	—

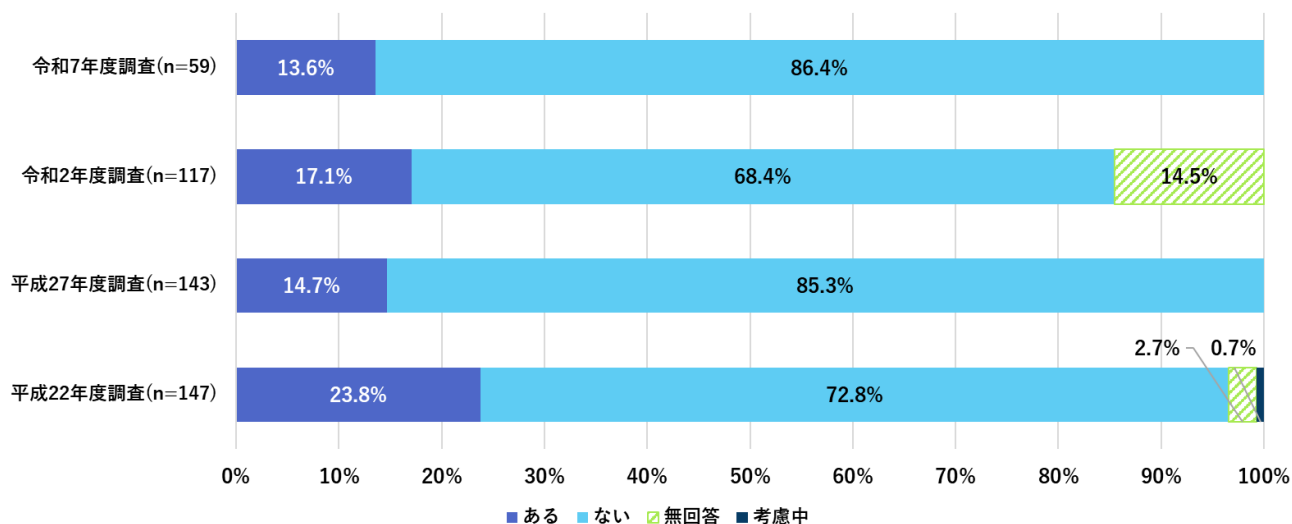
水洗化の予定 「ある」が13.6%

【9】（【8】で2と答えた方に）今後水洗化する予定はありますか。

「ある」が前回調査の17.1%から3.5ポイント減の13.6%という結果となった。

水洗化する予定のない理由としては、「経済的理由」が30世帯、「近くに下水がない」が14世帯だった。

【過去の調査との比較】



【9】 今後水洗化する予定はありますか。

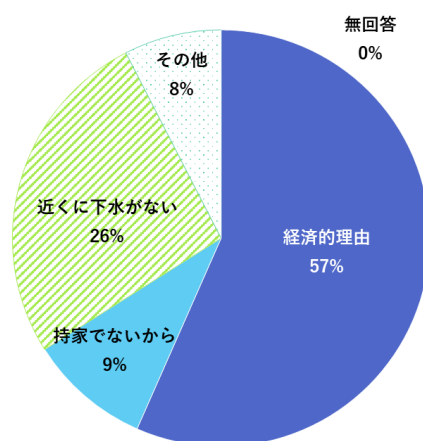
(%)

		回答世帯数	ある	ない	無回答
全体		59	8	51	0
		100.0	13.6	86.4	—
世帯構成	ひとり暮らし	15	—	100.0	—
	夫婦	13	23.1	76.9	—
	自分と親の二世帯	5	20.0	80.0	—
	自分と子どもの二世帯	19	21.1	78.9	—
	自分と親と子どもの三世帯	1	—	100.0	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—
	その他	6	—	100.0	—
	無回答	0	—	—	—

【10】 水洗化する予定のない理由をお答えください。

経済的理由	30世帯
持家でないから	5世帯
近くに下水がない	14世帯
その他	4世帯
無回答	0世帯

(複数回答あり)



住宅について困っていること

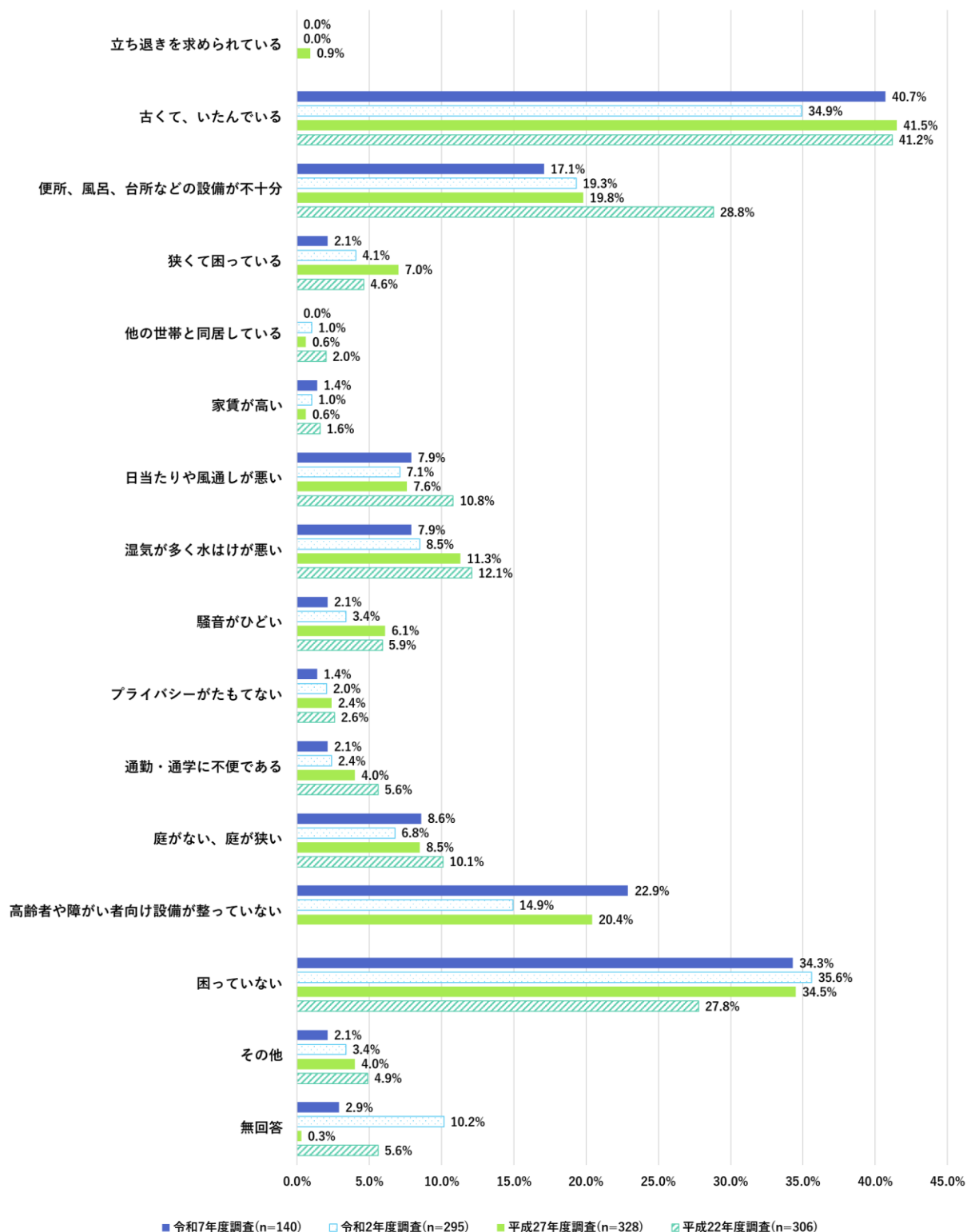
「古くて、いたんでいる」が40%超

【11】現在の住宅について、何か困っていることがありますか。（〇はいくつでも）

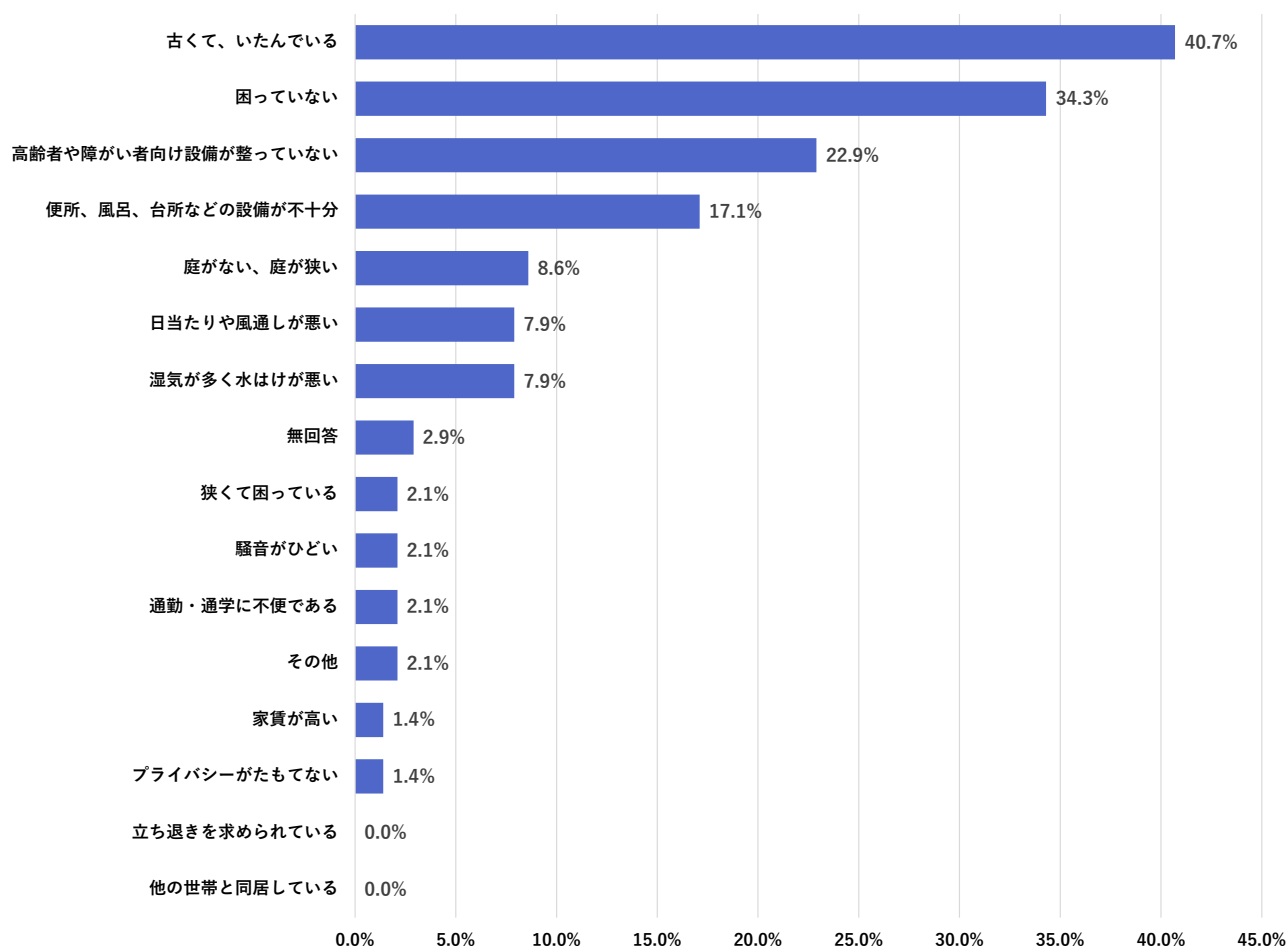
「困っていない」が34.3%と、半数以上が現在の住宅に対し困っていることがわかった。

内容としては「古くて、いたんでいる」が前回調査の34.9%から5.8ポイント増の40.7%に、また「高齢者や障がい者向け設備が整っていない」は前回調査の14.9%から8ポイント増え22.9%となった。

【過去の調査との比較】



【回答の多い順での比較】



【11】 現在の住宅について、何か困っていることがありますか。

(%)

	回答世帯数	立ち退きを求められている	古くて、いたんでいる	便所、風呂、台所などの設備が不十分	狭くて困っている	他の世帯と同居している	家賃が高い	日当たりや風通しが悪い	湿気が多く水はけが悪い	騒音がひどい	プライバシーがたもてない	通勤・通学に不便である	庭がない、庭が狭い	高齢者や障がい者向け設備が整っていない	困っていない	その他	無回答
全体	140	0	57	24	3	0	2	11	11	3	2	3	12	32	48	3	4
	100.0	—	40.7	17.1	2.1	—	1.4	7.9	7.9	2.1	1.4	2.1	8.6	22.9	34.3	2.1	2.9
世帯構成	ひとり暮らし	37	—	40.5	24.3	—	—	2.7	8.1	10.8	—	—	—	5.4	32.4	37.8	—
	夫婦	32	—	43.8	12.5	—	—	—	9.4	6.3	—	3.1	—	9.4	21.9	34.4	—
	自分と親の二世帯	8	—	37.5	—	—	—	—	12.5	12.5	—	—	—	—	25.0	62.5	—
	自分と子どもの二世帯	44	—	40.9	11.4	4.5	—	2.3	4.5	6.8	6.8	2.3	6.8	11.4	13.6	22.7	6.8
	自分と親と子どもの三世帯	8	—	25.0	25.0	12.5	—	—	—	—	—	—	—	25.0	25.0	62.5	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	11	—	45.5	36.4	—	—	—	18.2	9.1	—	—	—	—	27.3	27.3	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

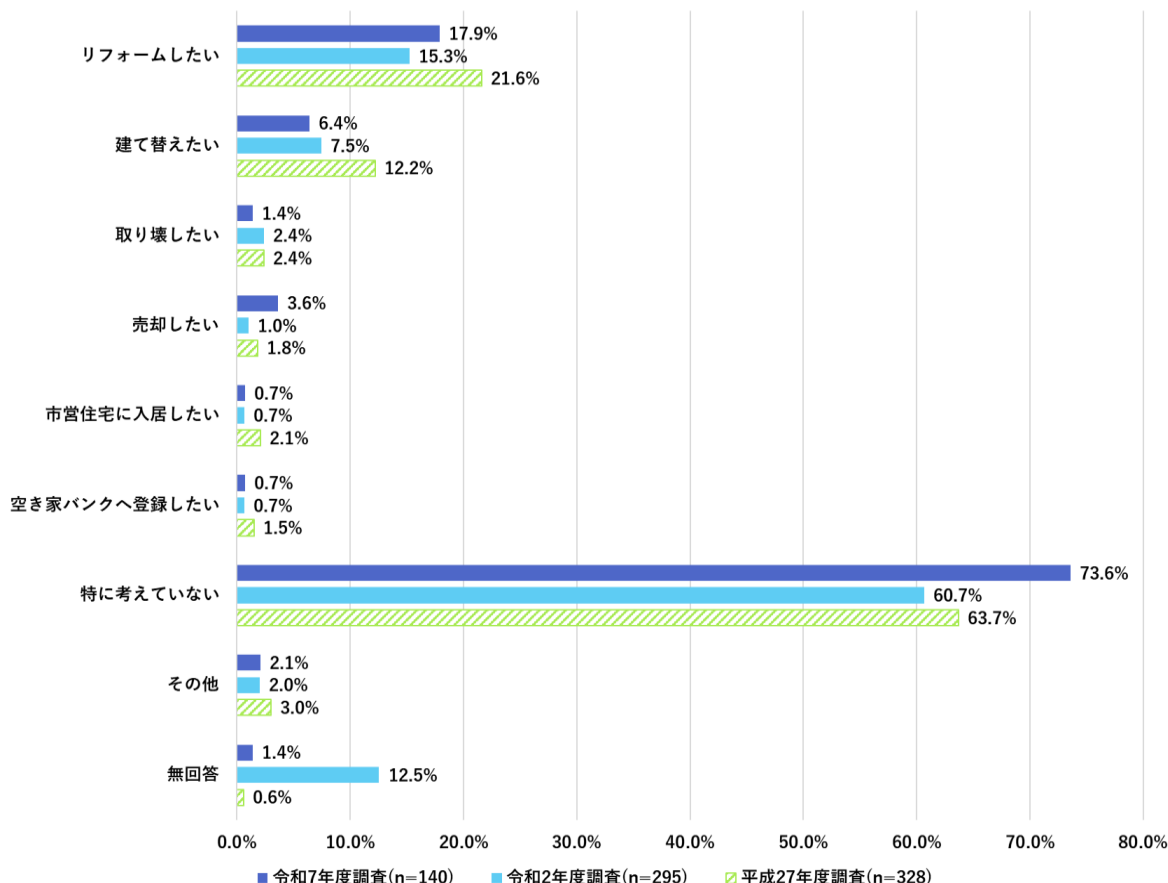
今後の住宅の予定

「特に考えていない」が73%

【12】 今後の住まいについて、どのようにお考えですか。（〇はいくつでも）

前回調査と同様に「特に考えていない」が最も多く、73.6%だった。次いで「リフォームしたい」が前回調査の15.3%から2.6ポイント増えて17.9%、「建て替えたい」が前回調査の7.5%から1.1ポイント減って6.4%、の順に多かった。

【過去の調査との比較】



【12】 今後の住まいについて、どのようにお考えですか。

(%)

	回答者数	建て替えたい	リフォームしたい	取り壊したい	市営住宅に入居したい	売却したい	空き家バンクへ登録したい	特に考えていない	その他	無回答
全体	140	9	25	2	1	5	1	103	3	2
	100.0	6.4	17.9	1.4	0.7	3.6	0.7	73.6	2.1	1.4
世帯構成	ひとり暮らし	37	2.7	8.1	5.4	—	8.1	—	78.4	2.7
	夫婦	32	3.1	15.6	—	—	3.1	—	75.0	9.4
	自分と親の二世帯	8	12.5	12.5	—	—	—	—	75.0	—
	自分と子どもの二世帯	44	6.8	25.0	—	—	2.3	—	70.5	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	—	25.0	—	—	—	—	75.0	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	11	27.3	27.3	—	9.1	—	9.1	63.6	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

住宅リフォームに関する支援制度

「制度を知らなかった」が44%

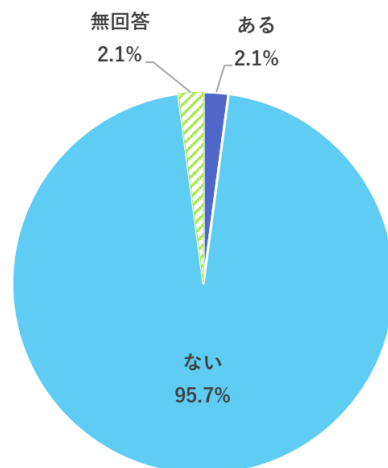
【13】国や県、市では、耐震改修や省エネ化など住宅リフォームに関する支援制度がありますが、利用したことはありますか。

制度を利用したことのある世帯はわずか3世帯（2.1%）。【14】にて利用したことのない理由を尋ねたところ、「制度を知らなかった」が44.0%と市民に支援制度が浸透していないことがわかった。

【13】国や県、市では、耐震改修や省エネ化など住宅リフォームに関する支援制度がありますが、利用したことはありますか。

(%)

		回答者数	ある	ない	無回答
全体		140	3	134	3
		100.0	2.1	95.7	2.1
世帯構成	ひとり暮らし	37	2.7	94.6	2.7
	夫婦	32	—	96.9	3.1
	自分と親の二世帯	8	—	87.5	12.5
	自分と子どもの二世帯	44	4.5	95.5	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	—	100.0	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—
	その他	11	—	100.0	—
	無回答	0	—	—	—



【14】利用したことがない理由をお答えください。

(%)

		回答世帯数	制度を知らなかった	制度が複雑で理解するのが難しかった	制度の条件に合わなかった	支援があっても費用が高額で断念した	その他	無回答
全体		134	59	5	10	24	38	2
		100.0	44.0	3.7	7.5	17.9	28.4	1.5
世帯構成	ひとり暮らし	35	45.7	—	8.6	17.1	25.7	5.7
	夫婦	31	38.7	3.2	9.7	16.1	35.5	—
	自分と親の二世帯	7	14.3	—	—	28.6	71.4	—
	自分と子どもの二世帯	42	45.2	4.8	9.5	21.4	21.4	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	62.5	—	—	—	37.5	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—
	その他	11	54.5	18.2	—	18.2	9.1	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

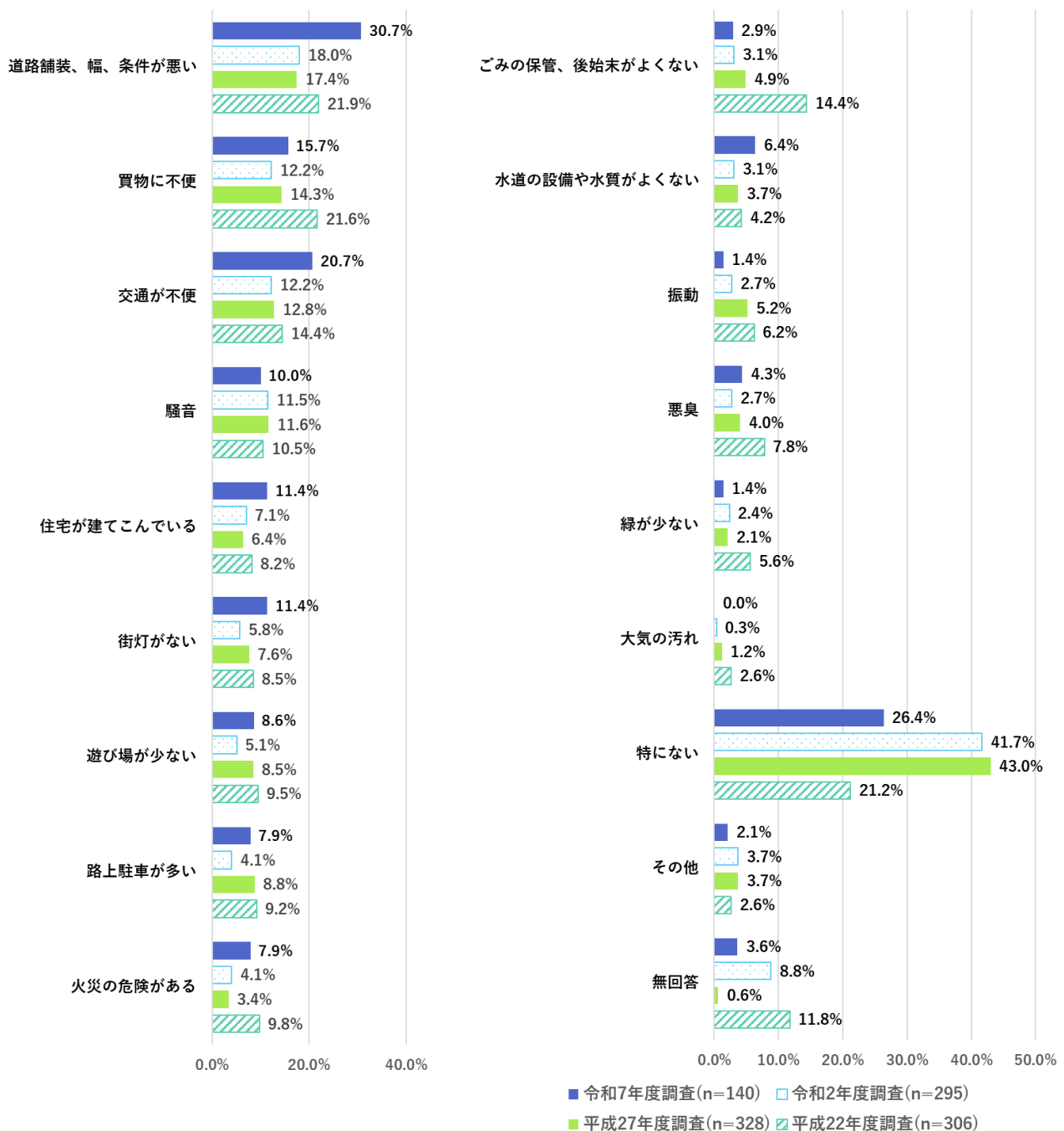
3 環境

まわりの環境 「道路舗装、幅、条件が悪い」が30%超

【15】 お住まい周りの環境について、感じていることがありますか。（〇はいくつでも）

「道路舗装、幅、条件が悪い」が30.7%と最も多く、前回調査から12.7ポイントも増え大きな変動があった。また「交通が不便」も前回調査より8.5ポイント、「街灯がない」も5.6ポイント増え、それぞれ20.7%、11.4%となった。逆に減少したのは、「騒音」が1.5ポイント減の10.0%、「ごみの保管、後始末がよくない」が0.2ポイント減の2.9%、「振動」が1.3ポイント減の1.4%、「緑が少ない」が1ポイント減の1.4%だった。

【過去の調査との比較】



【15】お住いの周りの環境について、感じていることがありますか。

		回答者数	大気 の汚 れ	騒 音	振 動	悪 臭	遊 び 場 が 少 な い	緑 が 少 な い	街 灯 が な い	路 上 駐 車 が 多 い
全体		140	0	14	2	6	12	2	16	11
		100.0	0.0	10.0	1.4	4.3	8.6	1.4	11.4	7.9
世帯 構成	ひとり暮らし	37	—	5.4	—	5.4	5.4	2.7	10.8	5.4
	夫婦	32	—	6.3	—	—	9.4	—	9.4	12.5
	自分と親の二世帯	8	—	—	—	—	—	—	12.5	12.5
	自分と子どもの二世帯	44	—	18.2	4.5	6.8	13.6	2.3	11.4	4.5
	自分と親と子どもの三世帯	8	—	12.5	—	—	—	—	12.5	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	11	—	9.1	—	9.1	9.1	—	18.2	18.2
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—

(%)

交通 が不 便	買 物 に不 便	ご み の保 管、 後始 末が よく ない	住 宅 が 建 て こ ん で い る	道 路 舗 装、 幅、 条 件 が 悪 い	水 道 の 設 備 や 水 質 が よ く な い	火 災 の 危 険 が あ る	特 に な い	そ の 他	無 回 答
29	22	4	16	43	9	11	37	3	5
20.7	15.7	2.9	11.4	30.7	6.4	7.9	26.4	2.1	3.6
18.9	8.1	—	8.1	16.2	2.7	8.1	45.9	—	2.7
18.8	21.9	—	12.5	31.3	3.1	—	21.9	9.4	3.1
25.0	—	—	12.5	37.5	—	12.5	25.0	—	12.5
22.7	18.2	2.3	11.4	43.2	11.4	11.4	15.9	—	4.5
12.5	25.0	12.5	12.5	50.0	12.5	—	37.5	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27.3	18.2	18.2	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

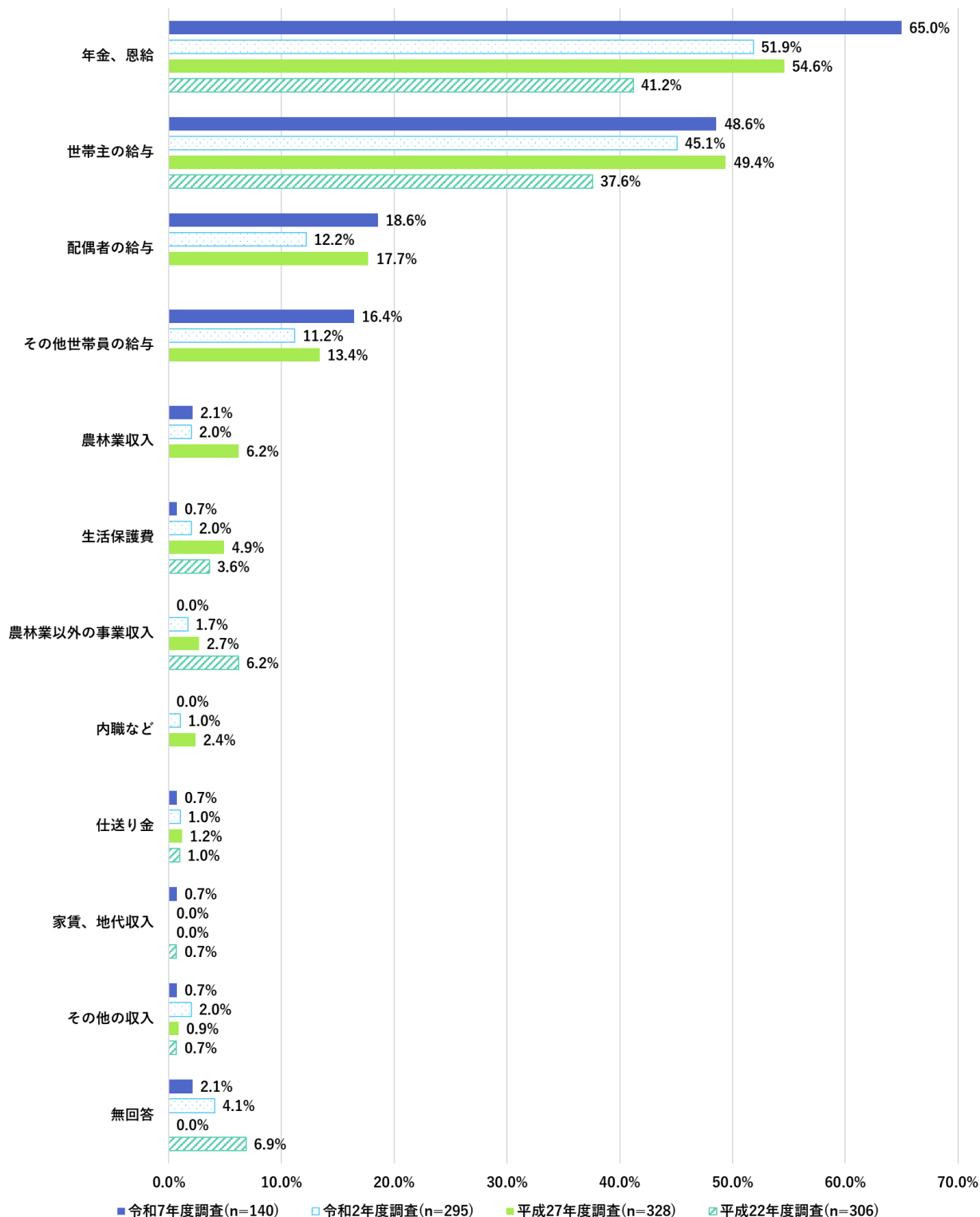
4 生活費の源泉

世帯収入の割合 「年金」が65%

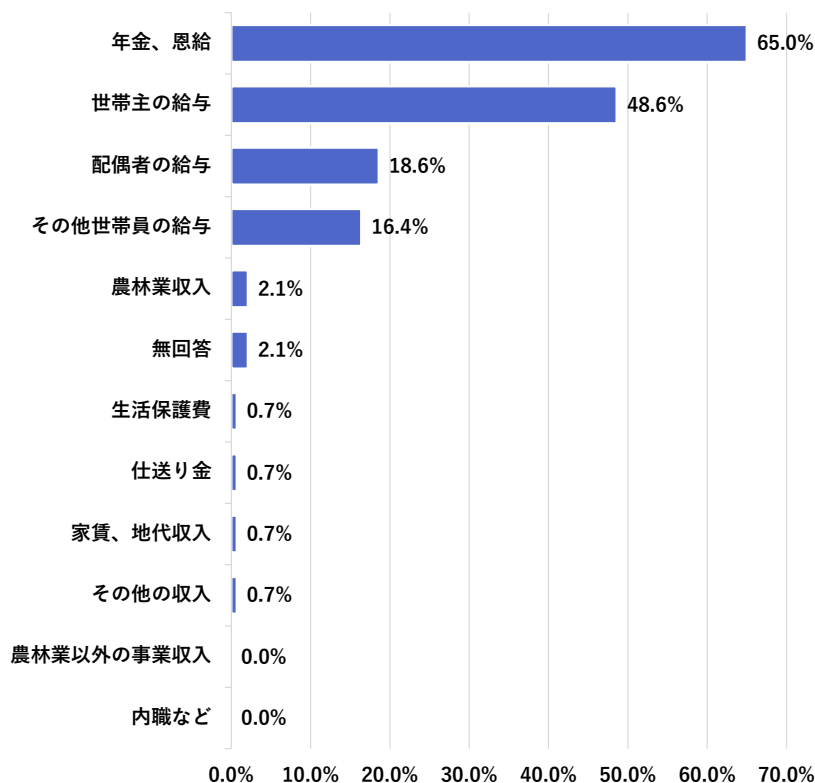
【16】あなたの世帯の収入はどれに該当しますか。（〇は3つまで）

「年金、恩給」は前回調査 51.9%から 13.1 ポイント増の 65.0%、「世帯主の給与」は前回より 3.5 ポイント増の 48.6%と、この二つが全体に占める割合は変わらずに大きい。

【過去の調査との比較】



【回答の多い順の比較】



【16】 あなたの世帯の収入はどれに該当しますか。

(%)

		回答者数	年金、恩給	世帯主の給与	配偶者の給与	その他世帯員の給与	農林業収入	生活保護費	農林業以外の事業収入	内職など	仕送り金	家賃、地代収入	その他の収入	無回答
全体		140	91	68	26	23	3	1	0	0	1	1	1	3
		100.0	65.0	48.6	18.6	16.4	2.1	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	2.1
世帯構成	ひとり暮らし	37	20.7	10.0	—	1.4	—	—	—	—	0.7	—	—	0.7
	夫婦	32	15.7	7.9	5.0	—	0.7	—	—	—	—	0.7	0.7	0.7
	自分と親の二世帯	8	3.6	3.6	0.7	—	0.7	—	—	—	—	—	—	0.7
	自分と子どもの二世帯	44	18.6	18.6	9.3	7.1	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—
	自分と親と子どもの三世帯	8	1.4	5.0	2.1	2.1	—	—	—	—	—	—	—	—
	自分と親と祖父母の三世帯	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他	11	5.0	3.6	1.4	5.7	—	—	—	—	—	—	—	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

III. 調査結果【世帯員調査】

◆ 基礎資料の内訳

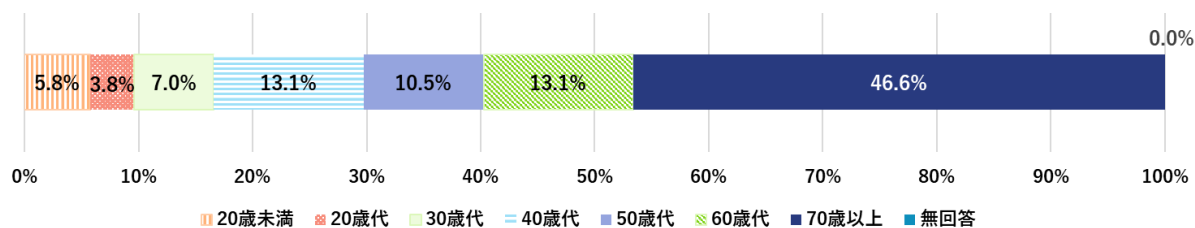
基礎資料とは、他の設問とクロス集計するための「基礎となるデータ」のことである。世帯員調査では、【1】～【3】の設問を基礎資料として調査している。

年齢では、70歳以上が46.6%と半数近くを占め、次いで60代と40代が13.1%と多くなっている。20歳未満はわずか5.8%であった。

また性別では男女差にはほぼ差がないが、1.0ポイント差で女性の方が多かった。今回初めて設定された「その他」の回答は0%であった。

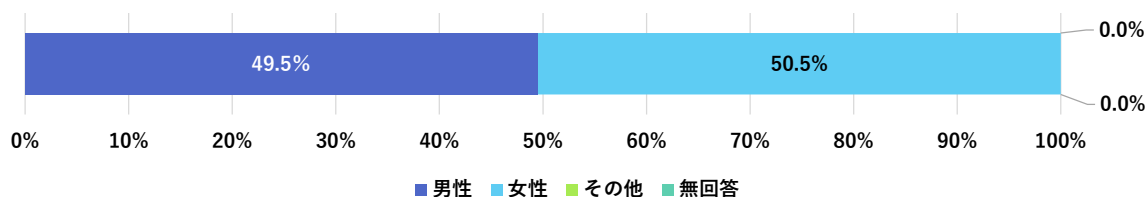
【年齢】

	回答者数	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	313	18	12	22	41	33	41	146	0
	100.0	5.8	3.8	7.0	13.1	10.5	13.1	46.6	0.0



【性別】

	回答者数	男性	女性	その他	無回答
全体	313	155	158	0	0
	100.0	49.5	50.5	0.0	0.0



1 健康の状態

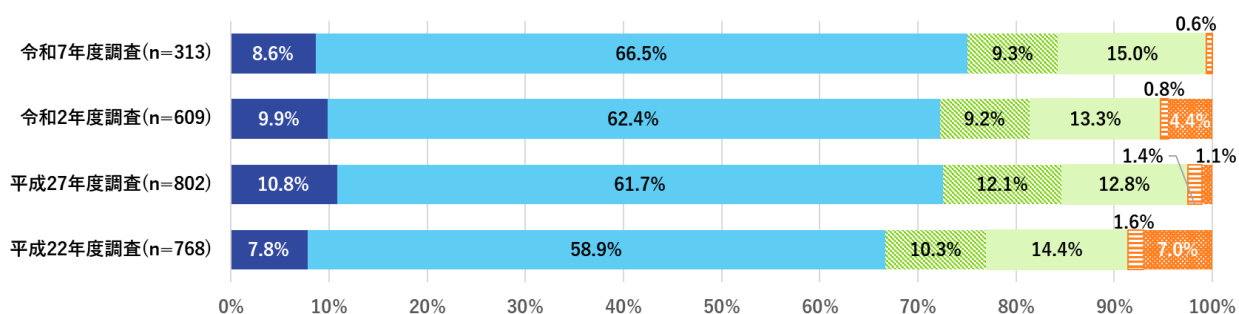
現在の健康状態 「普通」が66.5%

【4】現在の健康状態をお答えください。

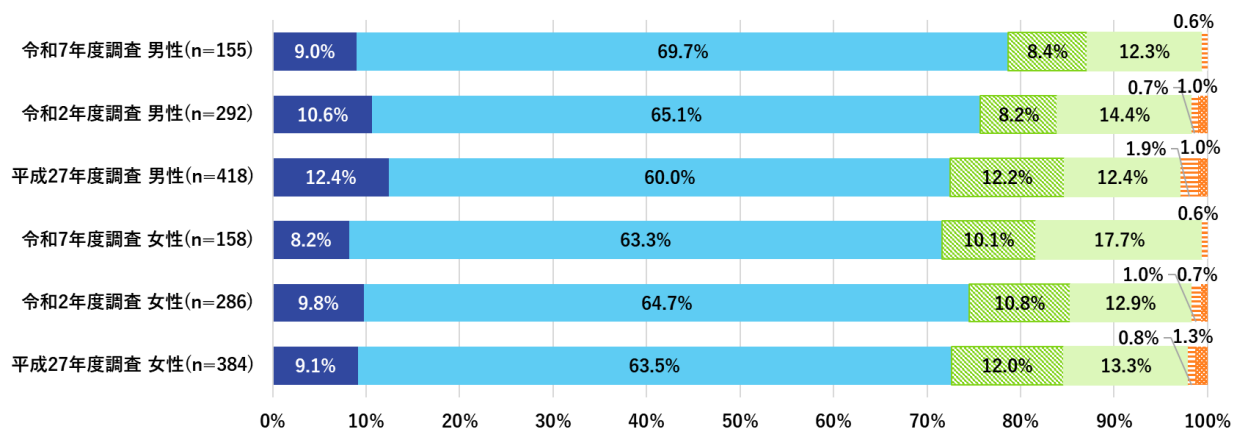
全体の割合としては、前回調査からほとんど変化が見られないが、70歳以上では「普通」が前回調査の57.0から2.6ポイント増の59.6%、「弱い方である」が前回調査の13.0%から1.4ポイント減の11.6%とやや改善が見られたが、「病気がち」が前回調査の23.7%から0.3ポイント増の24.0%という結果となった。

■ 非常に健康 ■ 普通 ■ 弱い方である ■ 病気がち ■ 寝たきり ■ 無回答

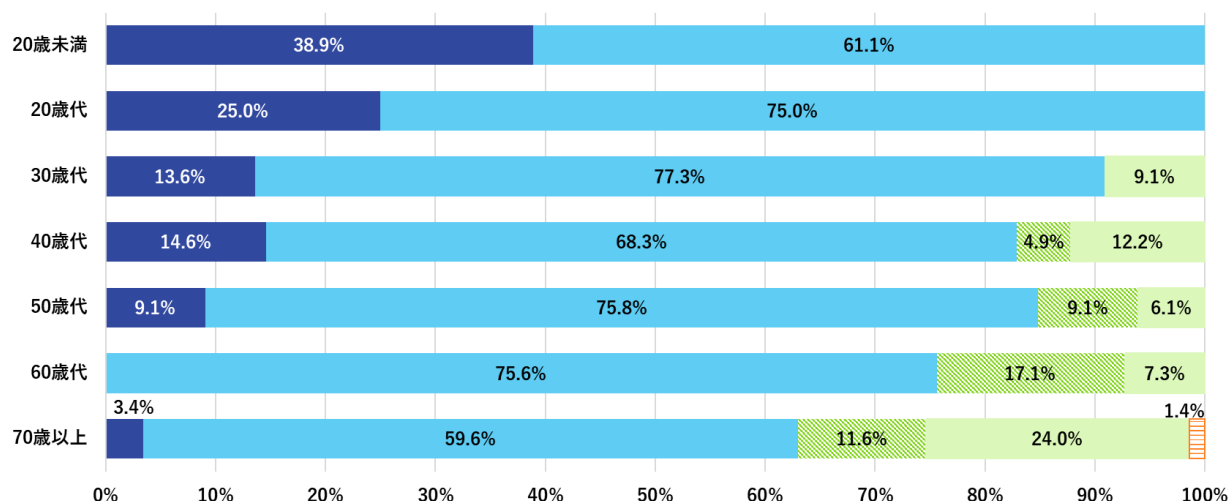
【過去の調査との比較】



【男女別】



【年代別】



【４】現在の健康状態をお答えください。

(%)

		回 答 者 数	非 常 に 健 康	普 通	弱 い 方 で あ る	病 気 が ち	寝 た き り	無 回 答
全体		313	27	208	29	47	2	0
		100.0	8.6	66.5	9.3	15.0	0.6	—
性別	男性	155	9.0	69.7	8.4	12.3	0.6	—
	女性	158	8.2	63.3	10.1	17.7	0.6	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	18	38.9	61.1	—	—	—	—
	20歳代	12	25.0	75.0	—	—	—	—
	30歳代	22	13.6	77.3	—	9.1	—	—
	40歳代	41	14.6	68.3	4.9	12.2	—	—
	50歳代	33	9.1	75.8	9.1	6.1	—	—
	60歳代	41	—	75.6	17.1	7.3	—	—
	70歳以上	146	3.4	59.6	11.6	24.0	1.4	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

【令和2年度調査】

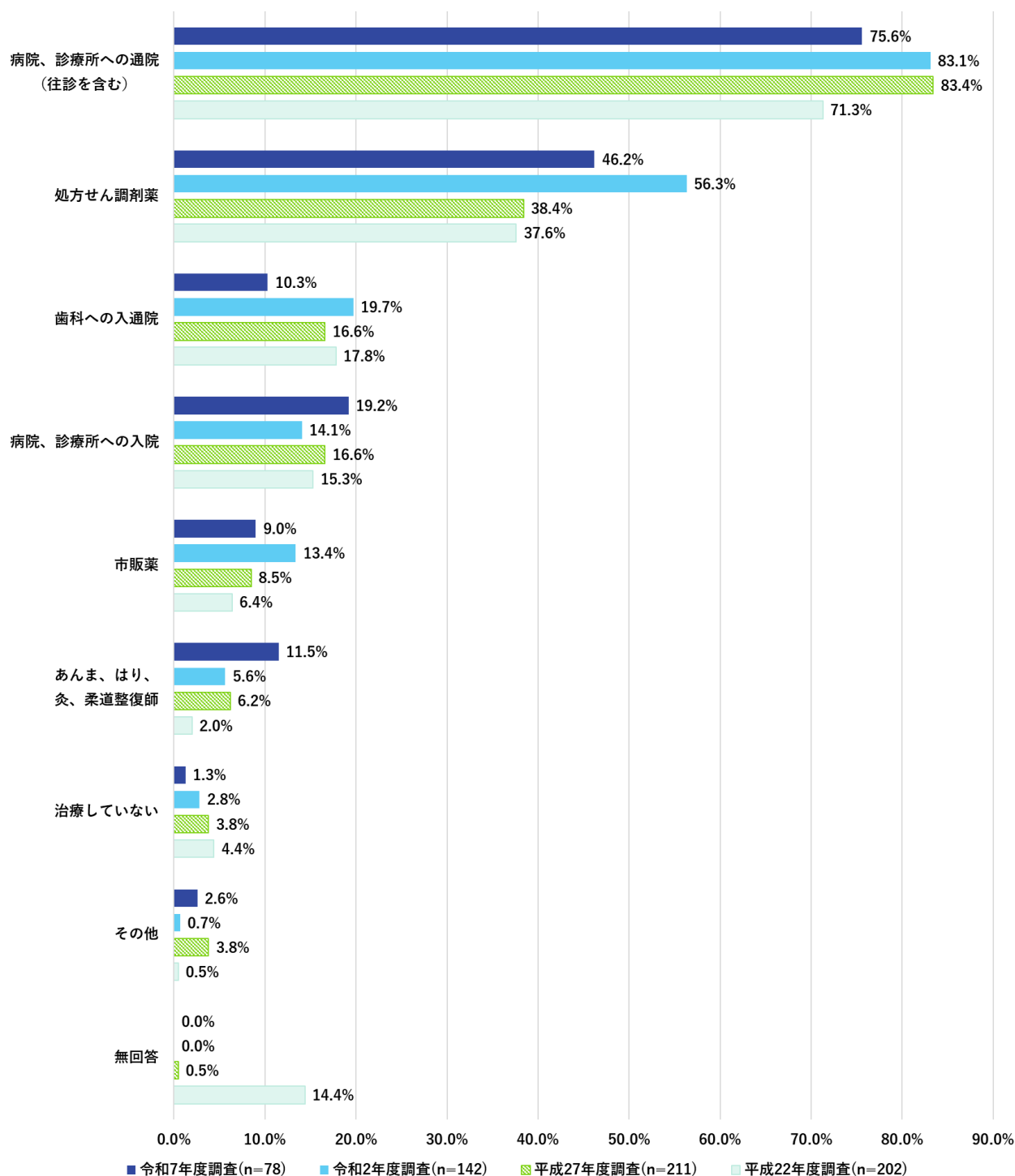
(%)

		回 答 者 数	非 常 に 健 康	普 通	弱 い 方 で あ る	病 気 が ち	寝 た き り	無 回 答
全体		609	60	380	56	81	5	27
		100.0	9.9	62.4	9.2	13.3	0.8	4.4
性別	男性	292	10.6	65.1	8.2	14.4	0.7	1.0
	女性	286	9.8	64.7	10.8	12.9	1.0	0.7
	無回答	31	3.2	16.1	3.2	6.5	—	71.0
年代	20歳未満	40	50.0	47.5	—	—	—	2.5
	20歳代	26	26.9	69.2	3.8	—	—	—
	30歳代	50	20.0	68.0	2.0	10.0	—	—
	40歳代	63	7.9	82.5	1.6	7.9	—	—
	50歳代	71	8.5	77.5	8.5	4.2	—	1.4
	60歳代	102	4.9	60.8	18.6	14.7	—	1.0
	70歳以上	207	2.9	57.0	13.0	23.7	2.4	1.0
	無回答	50	2.0	44.0	2.0	8.0	—	44.0

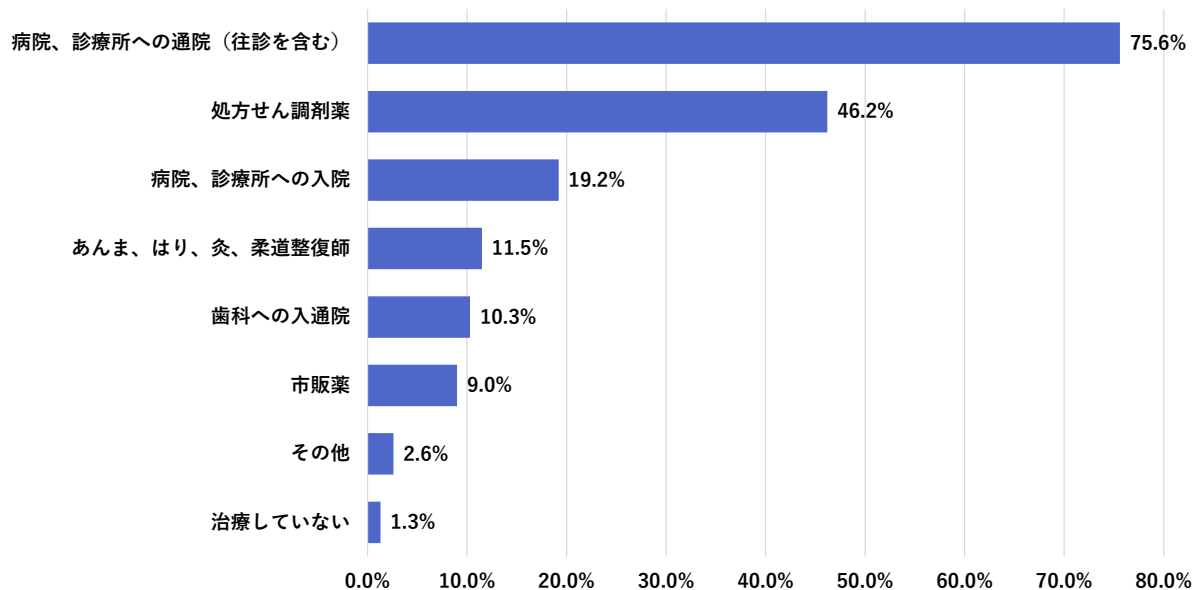
【5】※（【4】で「③体は弱い方である」、「④病気がち」、「⑤寝たきり」と答えた方へ）治療方法は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。

「処方せん調剤薬」が前回調査の56.3%より10.1ポイント減の46.2%、次いで「歯科への入通院」が前回調査の19.7%から9.4ポイント減の10.3%とそれぞれ大きく減った。また「病院、診療所への通院（往診含む）」が83.1%から7.5ポイント減の75.6%であったが、一方で「病院・診療所への入院」が前回調査の14.1%から5.1ポイント増えて19.2%となり、通院から入院へと切り替わった回答者が多かったと思われる。

【過去の調査との比較】



【回答の多い順での比較】



【5】（【4】で「③体は弱い方である」、「④病気がち」、「⑤寝たきり」と答えた方へ）

治療方法は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。

(%)

		回答者数	病院、診療所への入院	病院、診療所への通院（往診を含む）	歯科への入通院	処方せん調剤薬	あんま、はり、灸、柔道整復師	市販薬	治療していない	その他	無回答
全体		78	14	59	8	36	9	6	1	2	0
		100.0	17.9	75.6	10.3	46.2	11.5	7.7	1.3	2.6	—
性別	男性	33	21.2	69.7	3.0	42.4	9.1	15.2	3.0	3.0	—
	女性	45	15.6	80.0	15.6	48.9	13.3	2.2	—	2.2	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30歳代	2	—	100.0	—	50.0	—	—	—	—	—
	40歳代	7	14.3	57.1	14.3	28.6	—	14.3	—	—	—
	50歳代	5	—	80.0	—	40.0	20.0	—	—	—	—
	60歳代	10	30.0	70.0	—	30.0	20.0	10.0	—	—	—
	70歳以上	54	18.5	77.8	13.0	51.9	11.1	7.4	1.9	3.7	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

介護者

「家族」が88%を超える

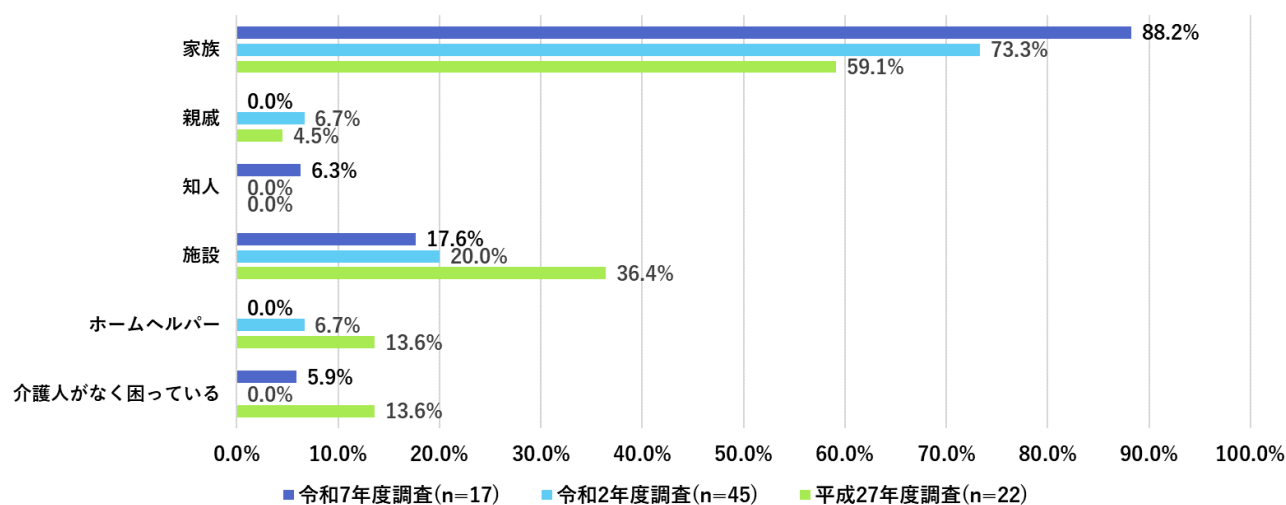
(障害のある方、寝たきりの方へ)

【6】介護に携わっている方は誰ですか。次の中からいくつでもあげてください。

総回答者数は前回調査の609人から296人減って313人と半減しており、「障害のある方、寝たきりの方」は前回調査の45人から28人減って17人となっている。

介護に携わっている方の割合は「家族」が前回調査の73.3%から14.9ポイント増の88.2%となっている反面、「施設」は調査の度に減少して今回調査では17.6%となっており、家族への負担が年々増加していることがわかる。

【過去の調査との比較】



【6】（障がいのある方、寝たきりの方に）介護にたずさわっている方は誰ですか。

次の中からいくつでもあげてください。

		回答者数	家族	親戚	知人	施設	ホームヘルパー	家政婦等の雇人	ボランティア	介護人がなく困っている
全体		17	15	0	1	3	0	0	0	1
		100.0	88.2	—	5.9	17.6	—	—	—	5.9
性別	男性	11	90.9	—	—	18.2	—	—	—	9.1
	女性	6	83.3	—	16.7	16.7	—	—	—	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—
	30歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	40歳代	1	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—
	50歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—
	60歳代	3	100.0	—	—	—	—	—	—	—
	70歳以上	11	81.8	—	9.1	18.2	—	—	—	9.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—

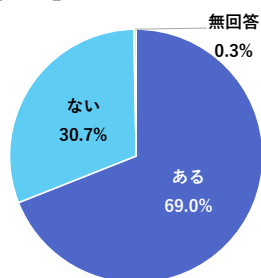
(複数回答含む)

受診率 「ある」が69%

【7】あなたは、最近1年間に健診等（「健康診断、健康診査、人間ドック」）を受けたことがありますか。

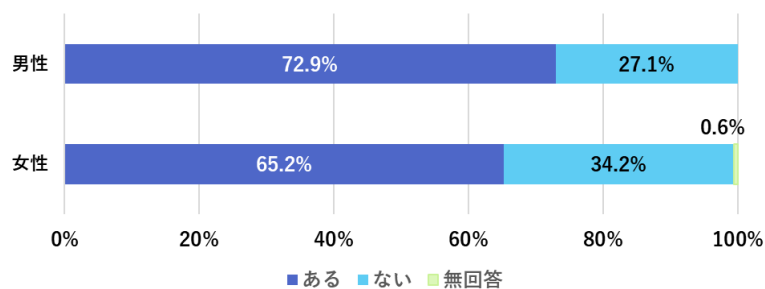
今回調査から質問が変わり、まずは健診等を受診したことがあるかどうかを尋ねている。全体としては69%が「ある」が、男女間では7.7ポイントの差があり、男性の方が受診率が高いことがわかる。また年代別では一番多かったのは20代であり、次いで40代・60代が同率であった。

【全体】

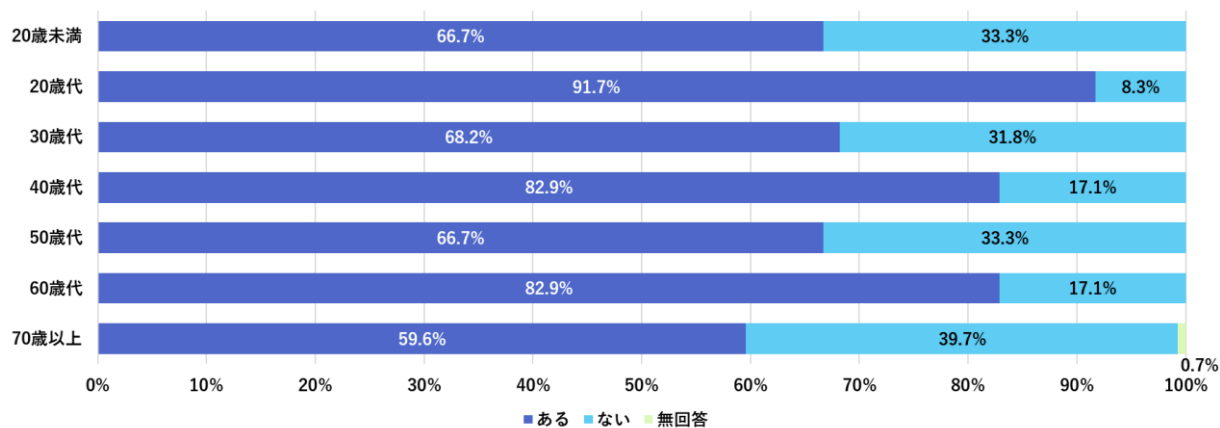


【検診等受診の有無】

【男女別】



【年代別】



【7】あなたは、最近1年間に健診等（健康診断、健康診査、人間ドック）を受けたことがありますか。 (%)

		回答者数	ある	ない	無回答
全体		313	216	96	1
		100.0	69.0	30.7	0.3
性別	男性	155	72.9	27.1	—
	女性	158	65.2	34.2	0.6
	無回答	—	—	—	—
年代	20歳未満	18	66.7	33.3	—
	20歳代	12	91.7	8.3	—
	30歳代	22	68.2	31.8	—
	40歳代	41	82.9	17.1	—
	50歳代	33	66.7	33.3	—
	60歳代	41	82.9	17.1	—
	70歳以上	146	60.3	39.0	0.7
	無回答	—	—	—	—

受診先 「勤め先または健康保険組合等」が最多

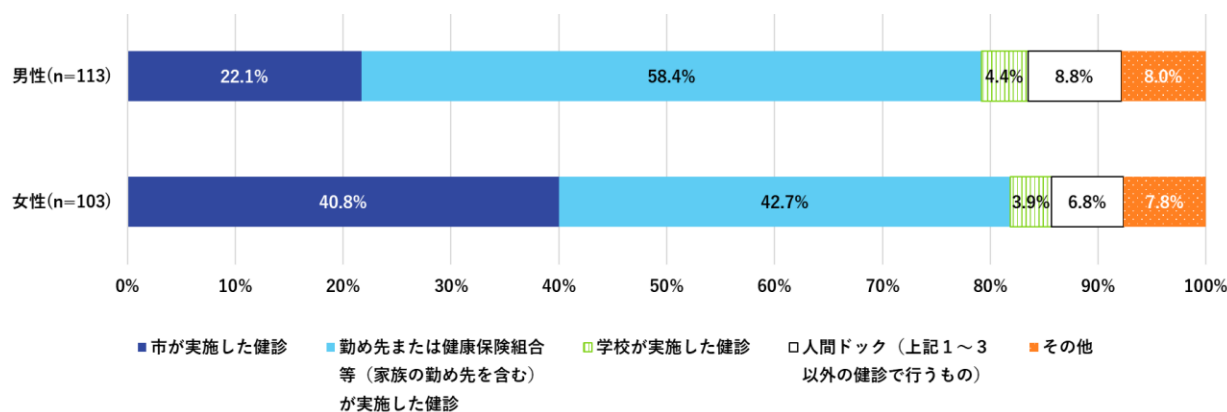
【8】※（【7】で「①ある」と答えた方へ）

受けた健診は、どこで実施した健診でしたか。

今回調査で初めて設定された設問である。最も多いのは男女ともに「勤め先または健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した健診」だが、男性は58.4%に対して女性は42.7%と男性の方が15.7ポイント多かった。

また、次いで多い「市が実施した健診」は男性が22.1%に対し女性が40.8%と、女性の方が18.7ポイント多かった。

【男女別】



【8】※（【7】で「①ある」と答えた方へ） 受けた健診は、どこで実施した健診でしたか。 (%)

		回 答 者 数	市 が 実 施 し た 健 診	勤 め 先 ま た は 健 康 保 険 組 合 等 （ 家 族 の 勤 め 先 を 含 む ） が 実 施 し た 健 診	学 校 が 実 施 し た 健 診	人 間 ド ック （ 上 記 1 ～ 3 ） 以 外 の 健 診 で 行 う も の ）	そ の 他	無 回 答
全体		216	67	110	9	17	17	0
		100.0	31.0	50.9	4.2	7.9	7.9	—
性別	男性	113	22.1	58.4	4.4	8.8	8.0	—
	女性	103	40.8	42.7	3.9	6.8	7.8	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	12	—	25.0	75.0	—	—	—
	20歳代	11	—	100.0	—	—	—	—
	30歳代	15	13.3	86.7	—	—	—	—
	40歳代	34	11.8	85.3	—	2.9	2.9	—
	50歳代	22	18.2	72.7	—	—	9.1	—
	60歳代	34	26.5	61.8	—	11.8	2.9	—
	70歳以上	88	54.5	19.3	—	13.6	14.8	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

受診しなかった理由

「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最多

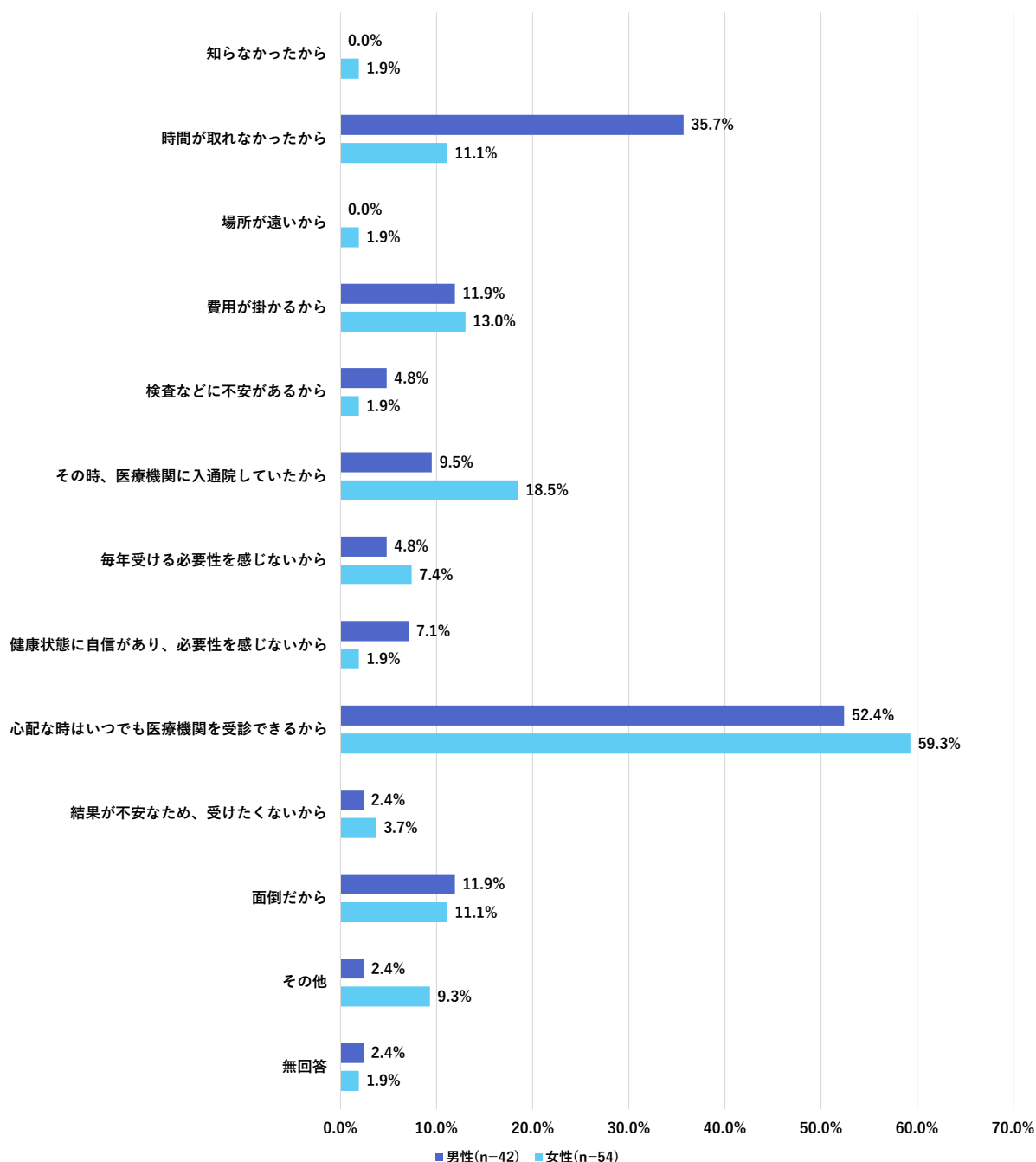
【9】※（【7】で「②ない」と答えた方へ）

どのような理由で受けなかったのですか。次の中からいくつでもあげてください。

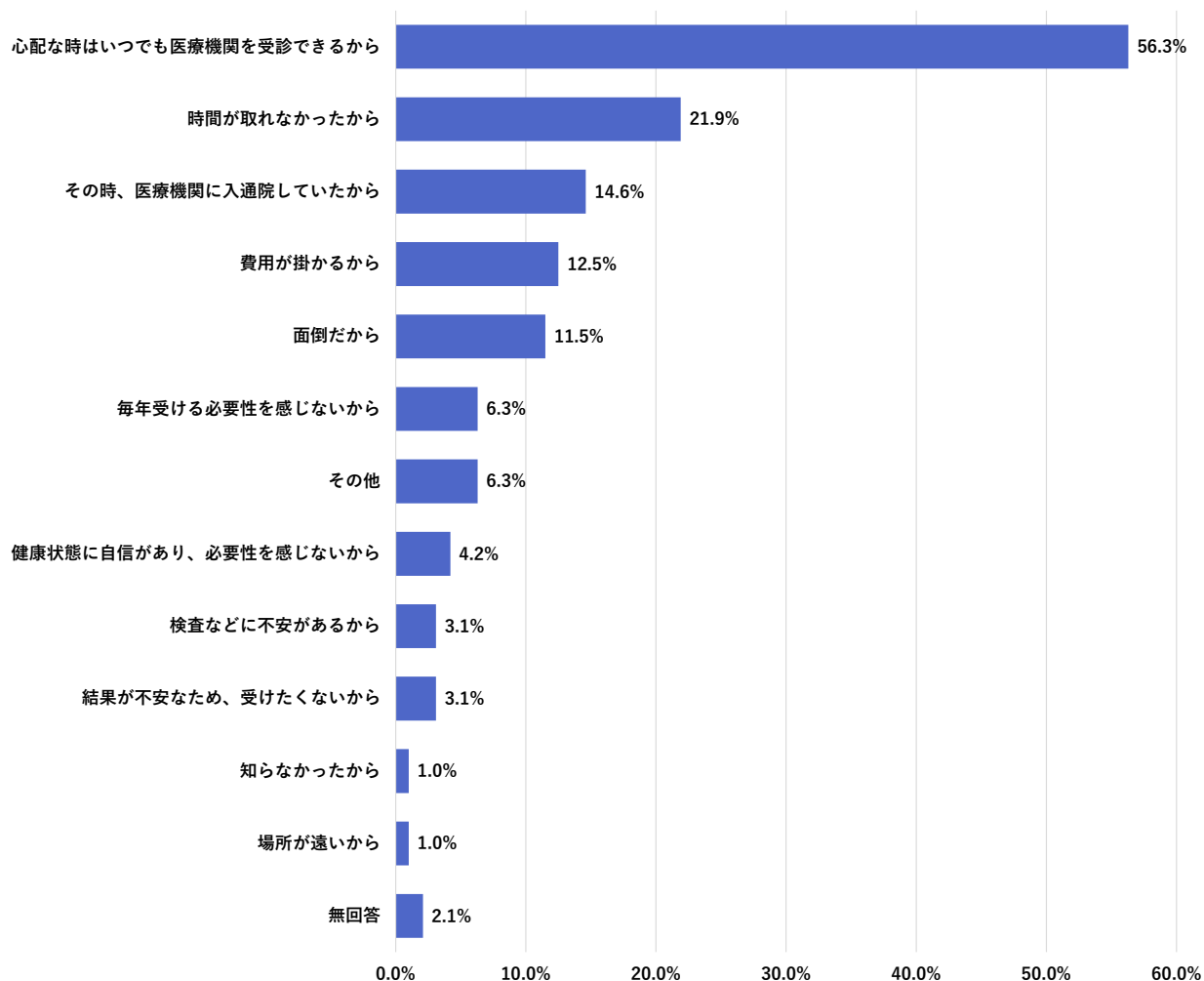
今回調査で初めて設定された設問である。最も多いのは男女ともに「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」で、男性 52.4%、女性 59.3%とともに半数を超えた。次いで多いのは男性が「時間が取れなかったから」で 35.7%、女性は「その時、医療機関に入通院していたから」で 18.5%であった。

また、「費用が掛かるから」との回答が男性 11.9%、女性 13.0%とともに 10%を超えており、男女とも 3 番目に多かった。

【男女別】



【回答の多い順の比較】



【9】※（【7】で「②ない」と答えた方へ）どのような理由で受けなかったのですか。

次の中からいくつでもあげてください。

(%)

	回答者数	知らなかったから	時間が取れなかったから	場所が遠いから	費用が掛かるから	検査などに不安があるから	その時、医療機関に入通院	いから受ける必要性を感じない	健康状態に自信があり、必要性を感じない	心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	結果が不安なため、受けたくないから	面倒だから	その他	無回答
全体	96	1	21	1	12	3	14	6	4	54	3	11	6	1
	100.0	1.0	21.9	1.0	12.5	3.1	14.6	6.3	4.2	56.3	3.1	11.5	6.3	1.0
性別	男性	42	—	35.7	—	11.9	4.8	9.5	4.8	7.1	52.4	2.4	11.9	2.4
	女性	54	1.9	11.1	1.9	13.0	1.9	18.5	7.4	1.9	59.3	3.7	11.1	9.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	6	—	—	—	—	—	—	—	66.7	—	—	33.3	—
	20歳代	1	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
	30歳代	7	—	28.6	—	—	—	14.3	—	28.6	14.3	14.3	14.3	—
	40歳代	7	—	42.9	—	—	14.3	—	—	42.9	14.3	28.6	—	—
	50歳代	11	—	54.5	—	18.2	9.1	9.1	18.2	18.2	—	18.2	9.1	—
	60歳代	7	—	42.9	—	14.3	—	14.3	—	57.1	—	14.3	—	—
	70歳以上	57	1.8	12.3	1.8	15.8	5.3	21.1	5.3	66.7	1.8	8.8	3.5	1.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

がん検診

各種検診がほぼ横並び

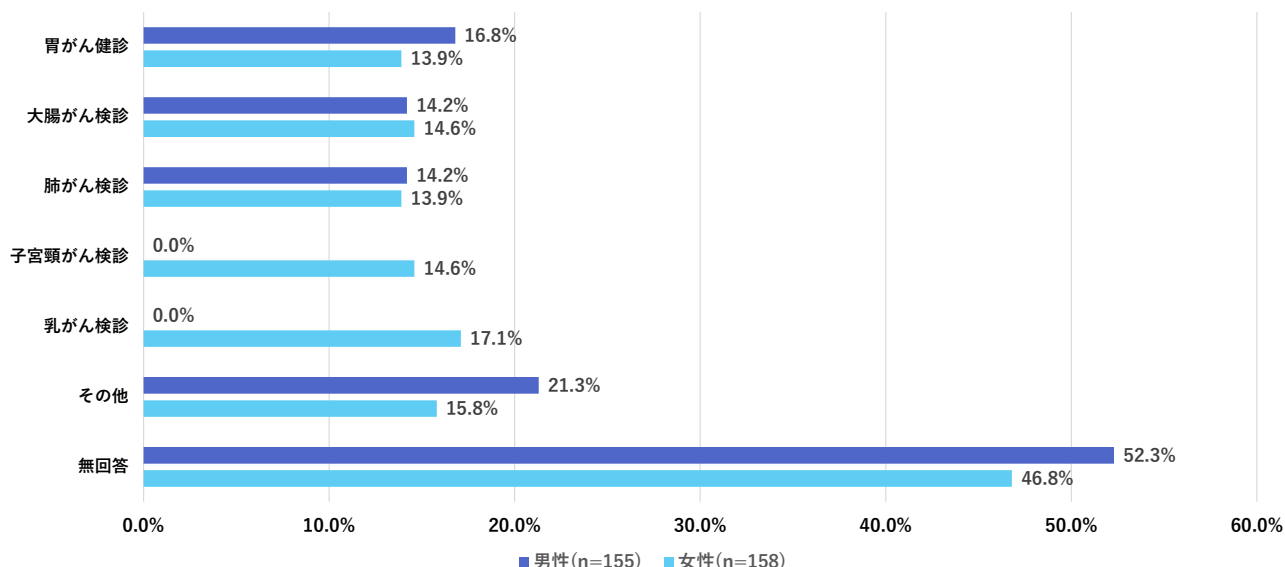
【10】あなたは、最近1年間にがん検診を受けましたか。

検診を受けた中では、「胃がん検診」が15.3%、「大腸がん検診」が14.4%、「肺がん検診」が14.1%とほぼ同じ割合であった。また女性は「子宮頸がん検診」は14.6%であったが、「乳がん検診」の方が2.5ポイント多い17.1%だった。

男女間では胃がん検診が男性16.8%に対し女性が13.9%と2.9ポイントの差があったが、大腸がん検診、肺がん検診はほぼ同じ検診率であった。

なお、「その他」の回答は多くが「受けていない」であったが、中には「前立腺がん検診」が3人いた。「無回答」は受けていないものとみられる。

【男女別】



【10】あなたは、最近1年間にがん検診を受けましたか。

(%)

		回答者数	胃がん検診	大腸がん検診	肺がん検診	子宮頸がん検診	乳がん検診	その他	無回答
全体		313	48	45	44	23	27	58	155
		100.0	15.3	14.4	14.1	7.3	8.6	18.5	49.5
性別	男性	155	16.8	14.2	14.2	—	—	21.3	52.3
	女性	158	13.9	14.6	13.9	14.6	17.1	15.8	46.8
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	18	—	—	—	—	—	16.7	83.3
	20歳代	12	—	—	—	8.3	—	33.3	58.3
	30歳代	22	13.6	13.6	18.2	13.6	18.2	9.1	59.1
	40歳代	41	12.2	7.3	12.2	4.9	9.8	19.5	48.8
	50歳代	33	6.1	9.1	6.1	15.2	15.2	12.1	57.6
	60歳代	41	24.4	26.8	22.0	7.3	12.2	17.1	39.0
	70歳以上	146	19.2	17.1	16.4	6.2	6.2	20.5	44.5
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—

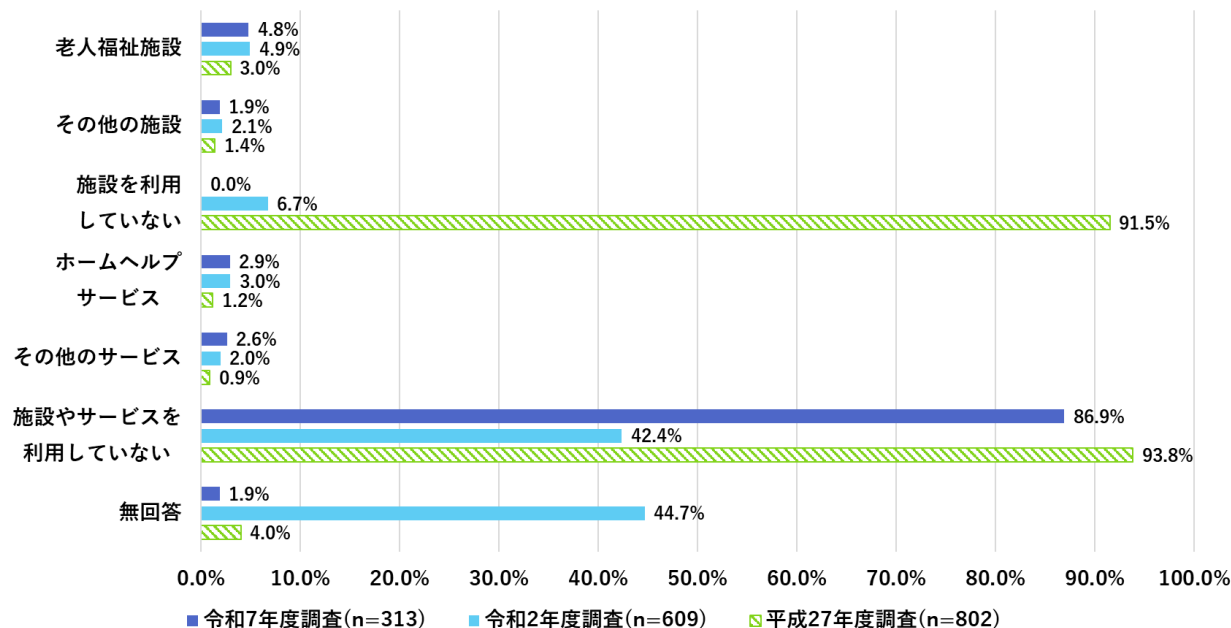
福祉施設・サービスの利用 利用者は12%

【11】あなたは、最近1年間にどんな福祉施設サービスを利用しましたか。次の中からいくつでもあげてください。

利用者は少なく、前回調査と同じく全体の12.2%となっている。

また、前回調査までの「施設を利用していない」と「サービスを利用していない」の二つの回答項目が、今回調査より「施設やサービスを利用していない」と合わせて一つの回答となっている。今回調査では「サービスを利用していない」に回答を入力している。

【過去の調査との比較】



【11】あなたは、最近1年間にどんな福祉施設サービスを利用しましたか。
次の中からいくつでもあげてください。

		回答者数	老人福祉施設	その他の施設	ホームヘルプサービス	その他のサービス	施設やサービスを利用していない	無回答
全体		313	15	6	9	8	272	6
		100.0	4.8	1.9	2.9	2.6	86.9	1.9
性別	男性	155	3.2	1.3	1.3	1.9	91.0	1.3
	女性	158	6.3	2.5	4.4	3.2	82.9	2.5
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	18	—	—	—	—	100.0	—
	20歳代	12	—	—	—	—	91.7	8.3
	30歳代	22	—	—	—	—	100.0	—
	40歳代	41	—	2.4	—	—	97.6	—
	50歳代	33	—	—	—	—	93.9	6.1
	60歳代	41	2.4	—	—	4.9	87.8	4.9
	70歳以上	146	9.6	3.4	6.2	4.1	78.1	0.7
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

2 就労の有無・形態

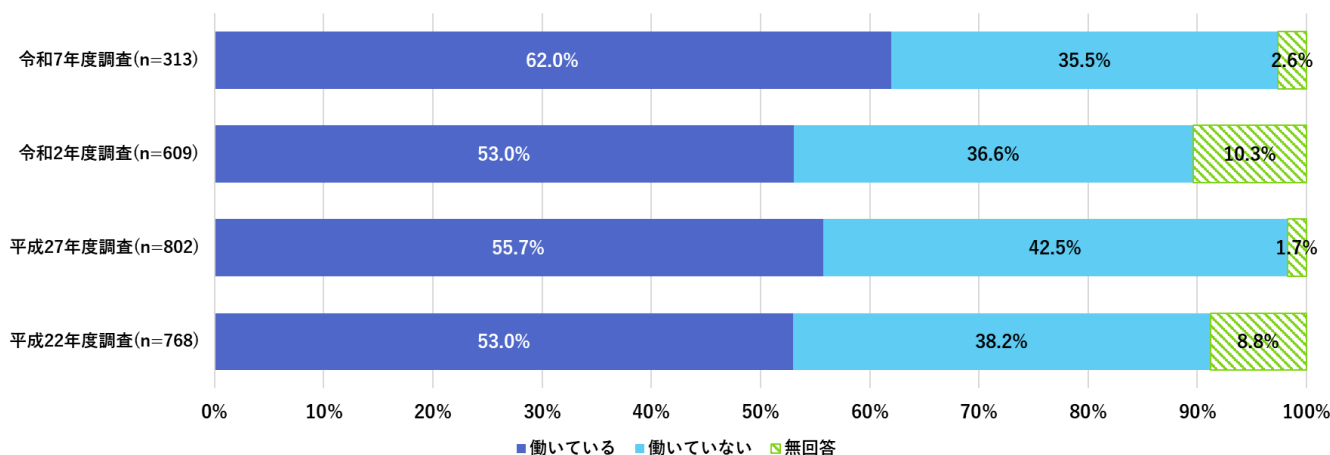
就労の有無

【13】あなたは、現在働いていますか。

「働いている」が前回調査の53.0%より9ポイント増の62.0%となったが、これは「20歳代」以上の全ての年代で「働いていない」割合がそれぞれ大きく減っているためと思われる。

特に「30歳代」は100%が「働いている」と回答しており、また「50歳代」以上の世代での「働いている」人の割合が大きく増えていることがわかる。

【過去の調査との比較】



【13】あなたは、現在働いていますか。

		回答者数	働いている (%)	働いていない (%)	無回答 (%)
全体		313	194	111	8
		100.0	62.0	35.5	2.6
性別	男性	155	71.0	25.8	3.2
	女性	158	53.2	44.9	1.9
	無回答	0	—	—	—
年代	20歳未満	18	27.8	27.8	44.4
	20歳代	12	91.7	8.3	—
	30歳代	22	100.0	—	—
	40歳代	41	87.8	12.2	—
	50歳代	33	93.9	6.1	—
	60歳代	41	85.4	14.6	—
	70歳以上	146	37.0	63.0	—
	無回答	0	—	—	—

※無回答は小中学生のみ

【令和2年度調査】

		回答者数	働いている (%)	働いていない (%)	無回答 (%)
全体		609	323	223	63
		100.0	53.0	36.6	10.3
性別	男性	292	61.3	27.1	11.6
	女性	286	44.8	46.5	8.7
	無回答	31	51.6	35.5	12.9
年代	20歳未満	40	10.0	12.5	77.5
	20歳代	26	88.5	11.5	—
	30歳代	50	88.0	8.0	4.0
	40歳代	63	85.7	9.5	4.8
	50歳代	71	81.7	14.1	4.5
	60歳代	102	64.7	33.3	2.0
	70歳以上	207	21.3	70.0	8.7
	無回答	50	60.0	32.0	8.0

※無回答に小中学生を含む

就労形態

「常雇」が40%

【14】※（【13】で「①働いている」と答えた方へ）次のいずれにあてはまりますか。

「パート・アルバイト」が前回調査の

【過去の調査との比較】

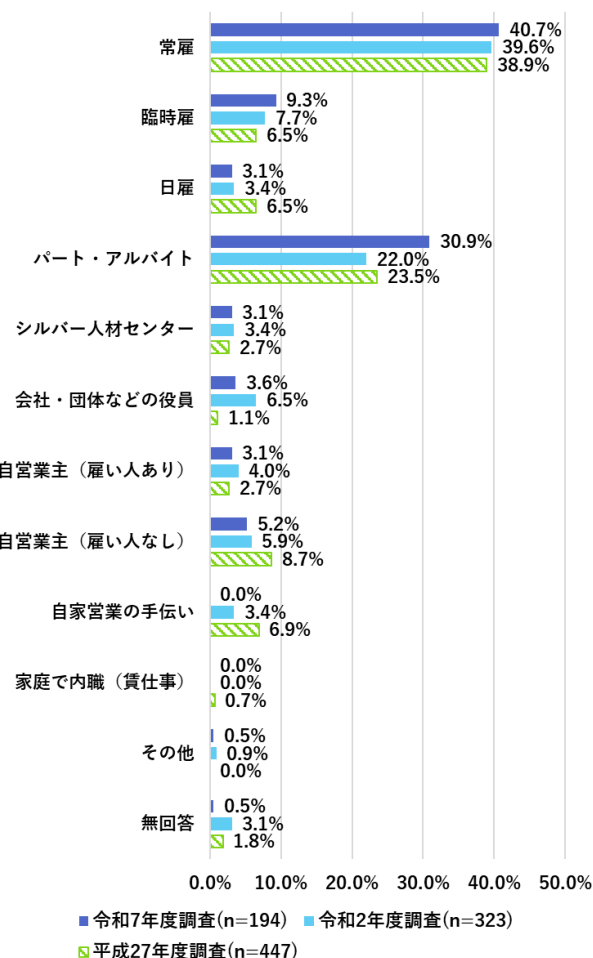
22.0%から8.9ポイント増の30.9%と大きく増えている。

40歳代まで「常雇」の割合が50%を超えて推移し、50歳代になると50%を下回っている。

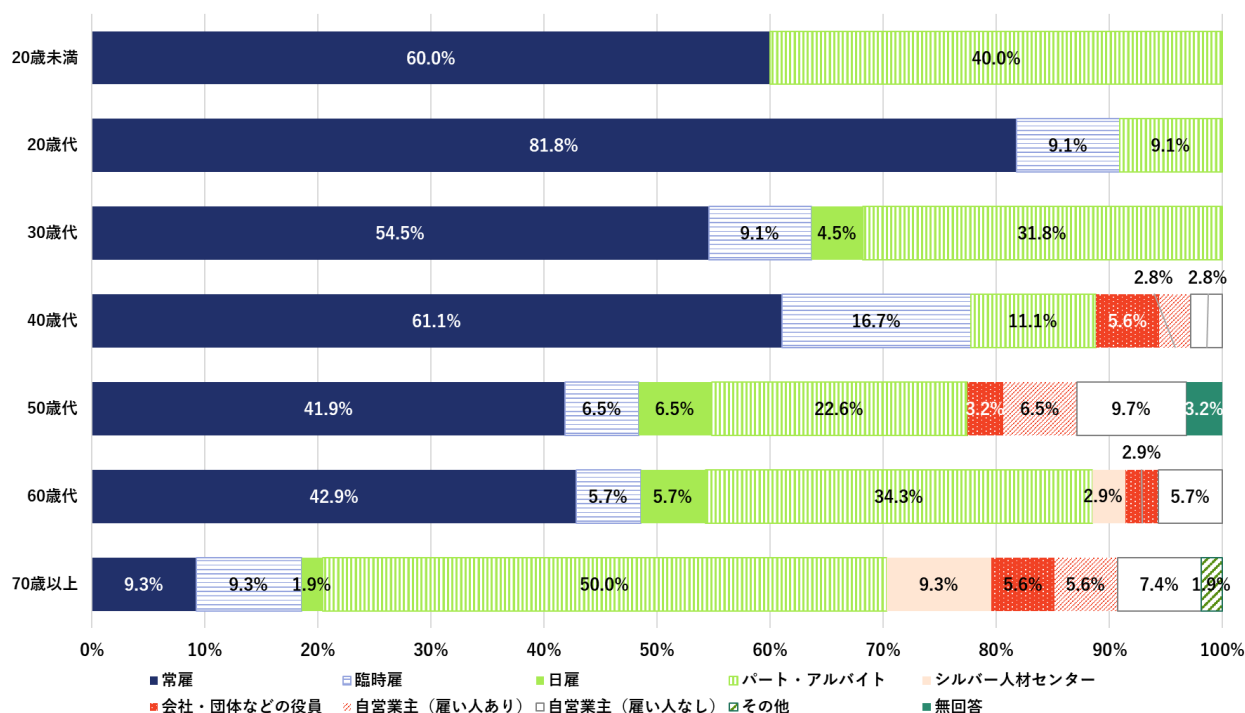
「家庭での内職（賃仕事）」は前回・今回の2調査連続で0%である。

※全国的には、総務省統計局「労働力調査（基本集計）2025年（令和7年）11月分」によると、就業者（6,862万人）のうち、正規の職員・従業員（3,756万人）が54.7%を占めている。

長野県については、「令和3年長野県雇用環境等実態調査結果」によると、調査に回答した1,694事業所の全従業員60,525人のうち、42,995人（71.0%）が正社員となっている。



【年代別】



【14】（働いている方に）次のいずれにあてはまりますか。

(%)

		回 答 者 数	常 雇	臨 時 雇	日 雇	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	シ ル バ ー 人 材 セ ン タ ー	会 社 ・ 団 体 な ど の 役 員	自 営 業 主 （ 雇 い 人 あ り ）	自 営 業 主 （ 雇 い 人 な し ）	自 家 営 業 の 手 伝 い	家 庭 で 内 職 （ 賃 仕 事 ）	そ の 他	無 回 答
全体		194	79	18	6	60	6	7	6	10	0	0	1	1
		100.0	40.7	9.3	3.1	30.9	3.1	3.6	3.1	5.2	—	—	0.5	0.5
性別	男性	110	51.8	9.1	4.5	14.5	2.7	5.5	1.8	8.2	—	—	0.9	0.9
	女性	84	26.2	9.5	1.2	52.4	3.6	1.2	4.8	1.2	—	—	—	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	5	60.0	—	—	40.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	11	81.8	9.1	—	9.1	—	—	—	—	—	—	—	—
	30歳代	22	54.5	9.1	4.5	31.8	—	—	—	—	—	—	—	—
	40歳代	36	61.1	16.7	—	11.1	—	5.6	2.8	2.8	—	—	—	—
	50歳代	31	41.9	6.5	6.5	22.6	—	3.2	6.5	9.7	—	—	—	3.2
	60歳代	35	42.9	5.7	5.7	34.3	2.9	2.9	—	5.7	—	—	—	—
	70歳以上	54	9.3	9.3	1.9	50.0	9.3	5.6	5.6	7.4	—	—	1.9	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3 就職希望

就職希望 「働きたい」は減少

【15】※（【13】で「②働いていない」と答えた方へ）

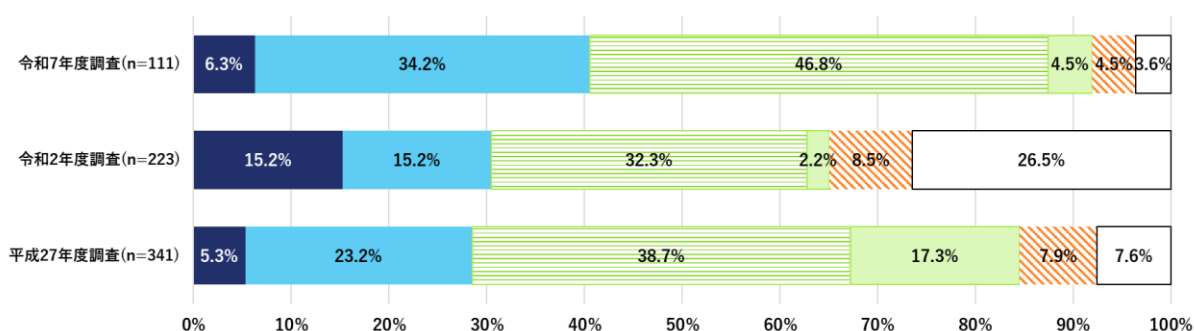
今後、働きたいとお考えですか。

「働きたい」が前回調査の 15.2%より 8.9 ポイント減の 6.3%となった。

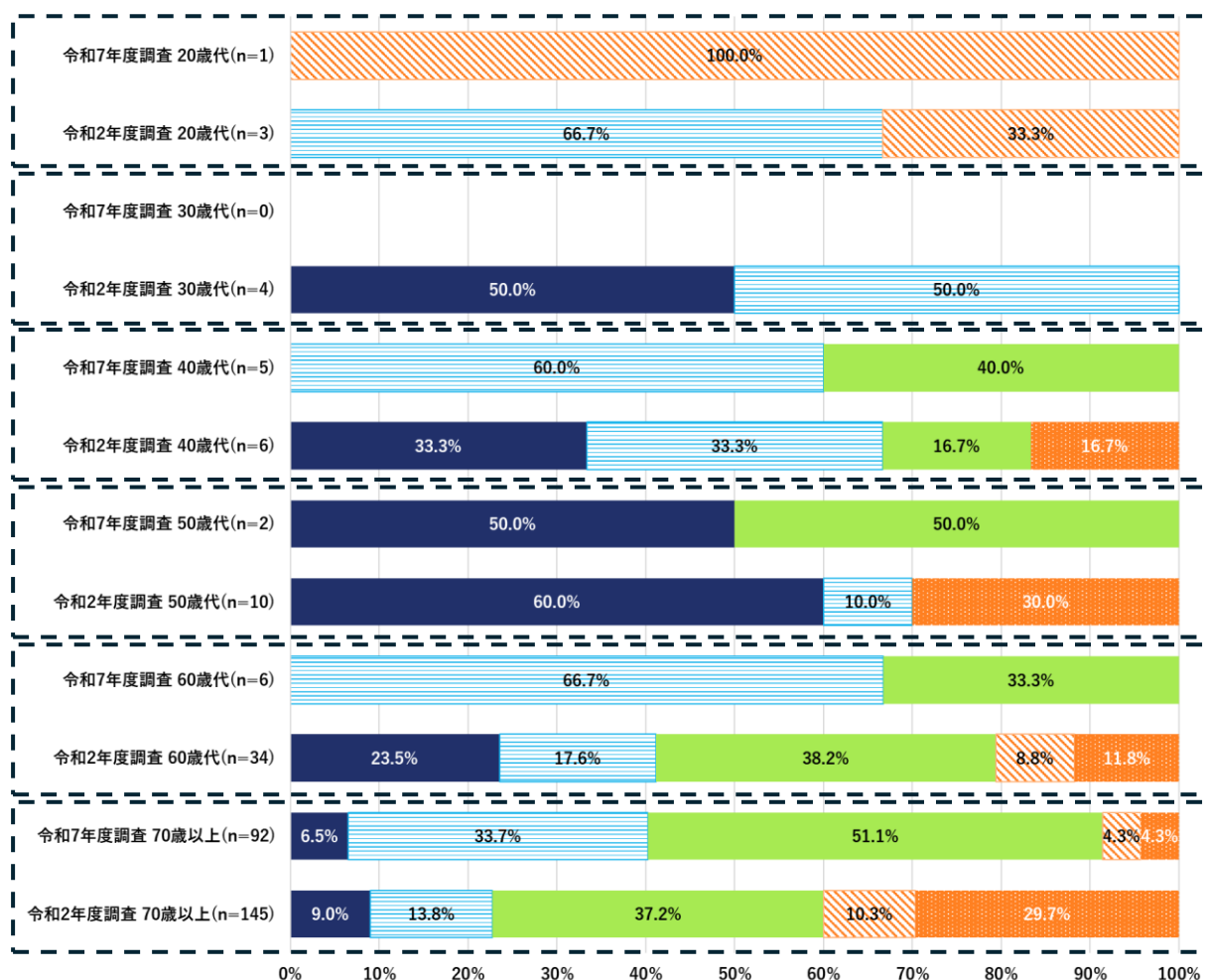
前回調査と年代別で比較すると、「60 歳代」では「働きたい」が前回調査の 23.5%から一気に 0 %となっている点が顕著である。

■ 働きたい ■ 働きたいが、働けない事情がある ■ とくに働きたいとは思わない ■ 在学中である ■ その他 □ 無回答

【全体】



【年代別】



【15】（【13】で「②働いていない」と答えた方へ）今後、働きたいとお考えですか。
(%)

		回 答 者 数	働 き た い	働 き た い が 、 働 け な い 事 情 が あ る	と く に 働 き た い と は 思 わ な い	在 学 中 で あ る	そ の 他	無 回 答
全体		111	7	38	52	5	5	4
		100.0	6.3	34.2	46.8	4.5	4.5	3.6
性別	男性	40	2.5	42.5	40.0	7.5	2.5	5.0
	女性	71	8.5	29.6	50.7	2.8	5.6	2.8
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	5	—	—	—	100.0	—	—
	20歳代	1	—	—	—	—	100.0	—
	30歳代	0	—	—	—	—	—	—
	40歳代	5	—	60.0	40.0	—	—	—
	50歳代	2	50.0	—	50.0	—	—	—
	60歳代	6	—	66.7	33.3	—	—	—
	70歳以上	92	6.5	33.7	51.1	—	4.3	4.3
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

働けない（働きたいと思わない）理由

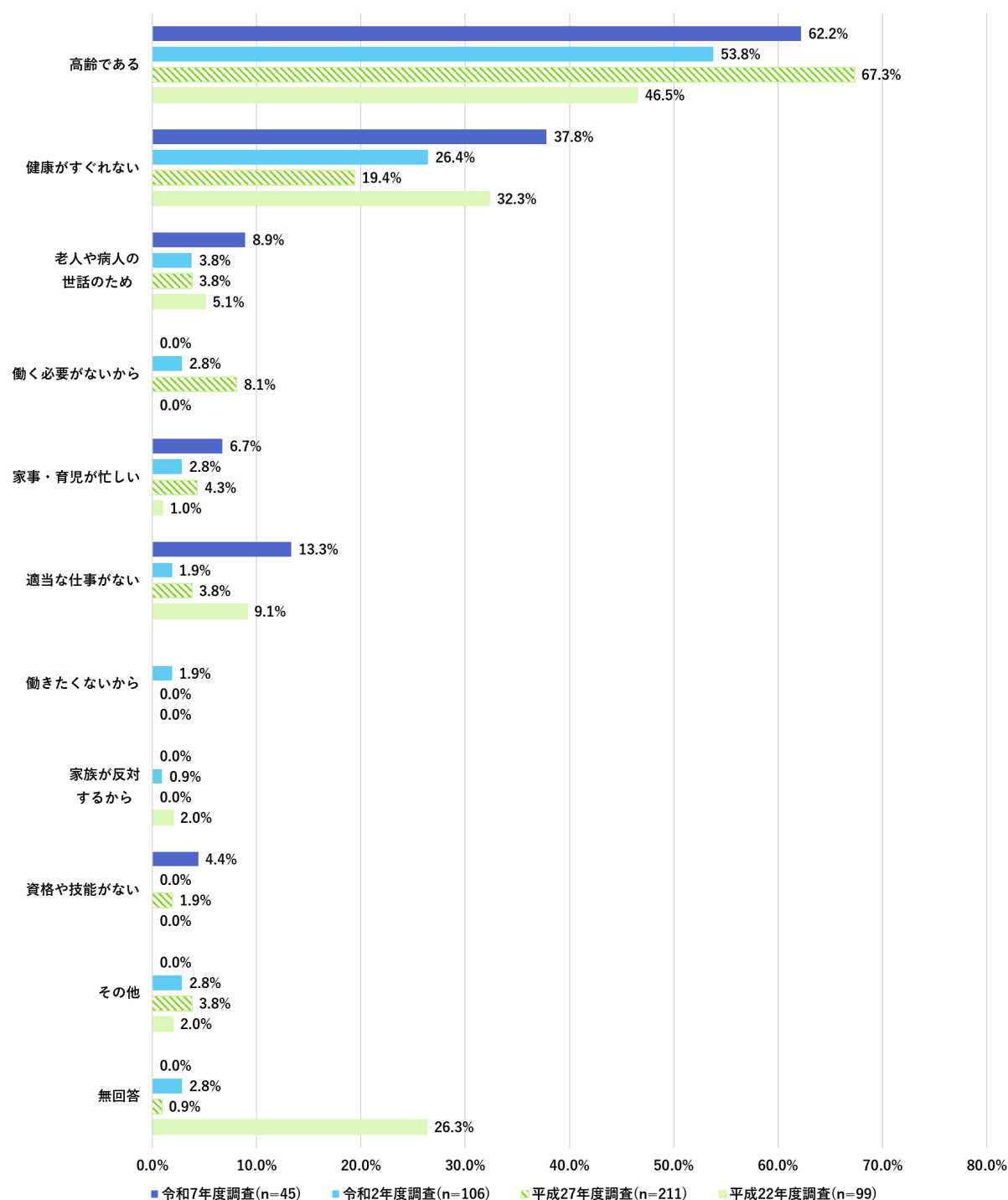
「高齢である」が60%超

【16】※（【15】で「②働きたいが、働けない事情がある」「③とくに働きたいとは思わない」と答えた方へ）その理由は何ですか。

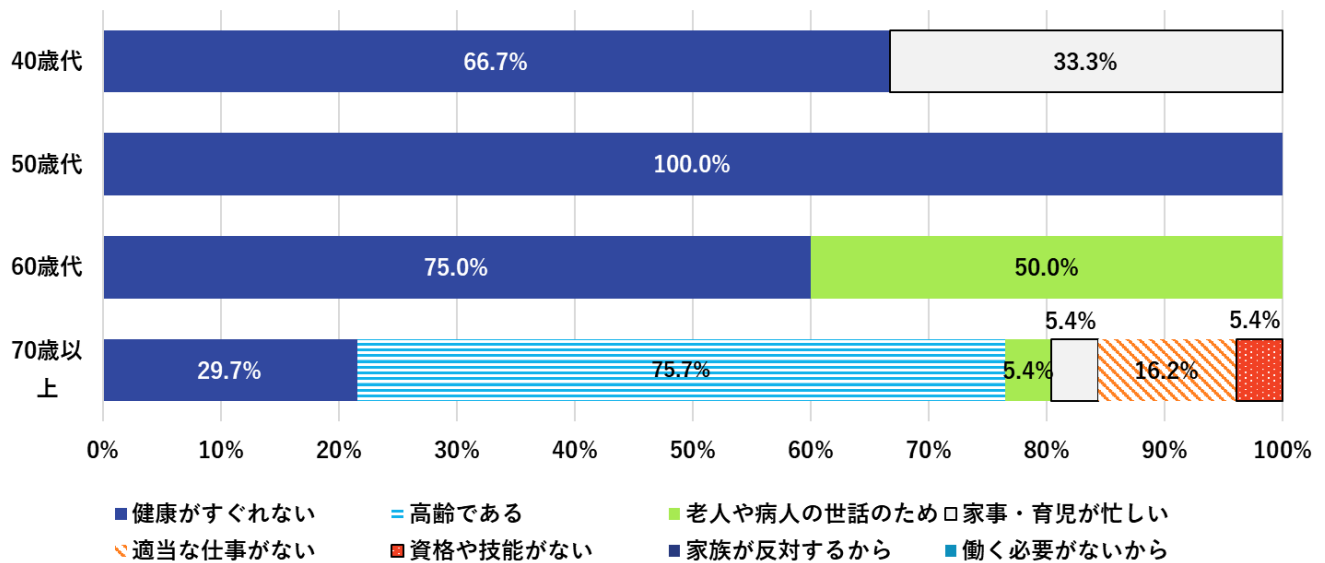
「高齢である」は前回調査の53.8%より8.4ポイント増の62.2%、「健康がすぐれない」は前回調査の26.4%から11.4ポイント増の37.8%となっており、この2つが大部分を占めている。

また、回答のあった40歳代以上を年代別で見ると、「高齢である」は「40歳代」から「60歳代」までは0%だが、「70歳以上」では75.7%と圧倒的に多くなっている。

【過去の調査との比較】



【年代別】



【16】（【15】で「①働きたい」、「②働きたいが、働けない事情がある」と答えた方へ）その理由は何ですか。

(%)

	回答者数	健康がすぐれない	高齢である	老人や病人の世話のため	家事・育児が忙しい	適当な仕事がない	資格や技能がない	家族が反対するから	働く必要がないから	その他	無回答
全体	45	17	28	4	3	6	2	0	0	0	0
	100.0	37.8	62.2	8.9	6.7	13.3	4.4	—	—	—	—
性別	男性	18	50.0	61.1	5.6	—	16.7	5.6	—	—	—
	女性	27	29.6	63.0	11.1	11.1	11.1	3.7	—	—	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	40歳代	3	66.7	—	—	33.3	—	—	—	—	—
	50歳代	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
	60歳代	4	75.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—
	70歳以上	37	29.7	75.7	5.4	5.4	16.2	5.4	—	—	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

4 年収

仕事による年間収入 「100～200万円未満」が最多

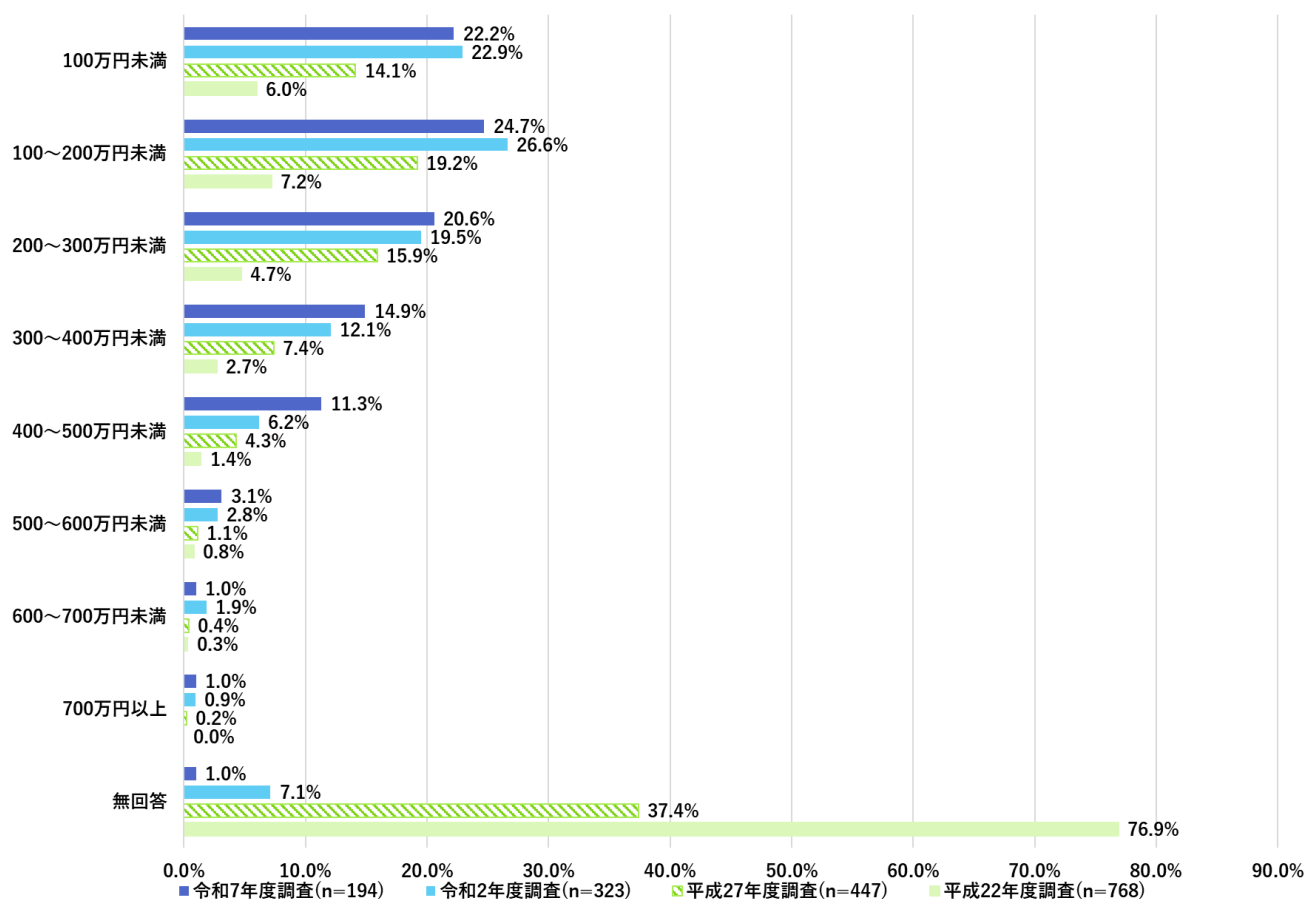
【18】※（働いている方へ）現在の仕事による年間収入はおよそどのくらいですか。

（勤め人の場合は、諸手当、賞与を含む）

「100万円未満」が前回調査より0.7ポイント減の22.2%、「100～200万円未満」が同じく前回調査より1.9ポイント減の24.7%となっているが、それ以外の200万円以上ではいずれの選択肢も割合が増えた。

厚生労働省の「令和6年賃金構造基本統計調査 結果の概況」から算出した、概算の全国年代別の賃金平均値と比較すると、20代以外はいずれの年代の値も全国平均値を下回っている。

【過去の調査との比較】

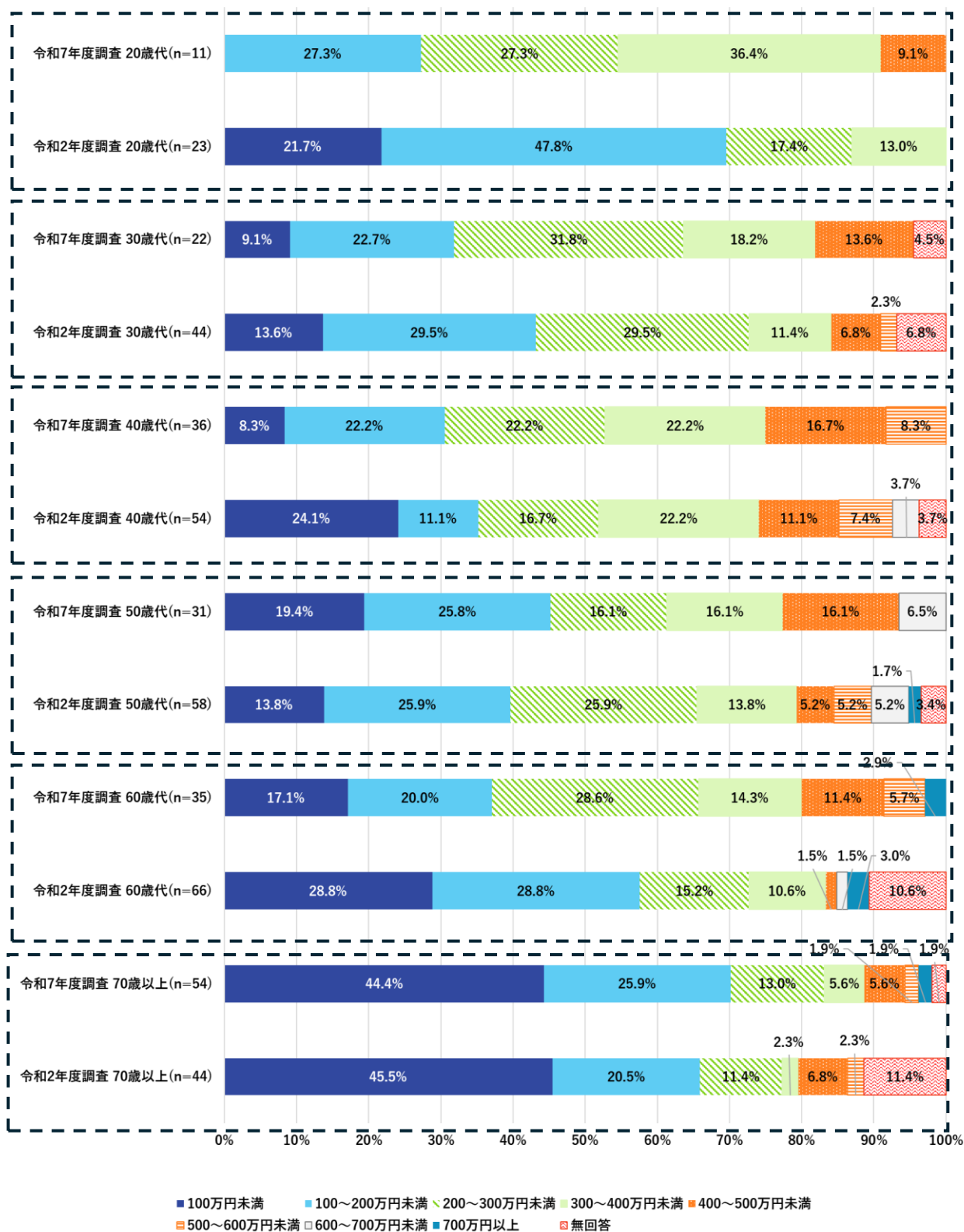


年代別年間賃金平均値 (万円)

20歳代	249.9
30歳代	314.1
40歳代	362.1
50歳代	388.0
60歳代	296.6

「令和6年賃金構造基本統計調査 結果の概況」から算出した概算値

【年代別】



【18】※（働いている方へ）

現在の仕事による年間収入はおよそどのくらいですか。（勤め人の場合は、諸手当、賞与を含む）
(%)

		回 答 者 数	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 以 上	無 回 答
全体		194	43	48	40	29	22	6	2	2	2
		100.0	22.2	24.7	20.6	14.9	11.3	3.1	1.0	1.0	1.0
性別	男性	110	16.4	16.4	21.8	17.3	19.1	5.5	0.9	1.8	0.9
	女性	84	29.8	35.7	19.0	11.9	1.2	—	1.2	—	1.2
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	5	40.0	60.0	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	11	—	27.3	27.3	36.4	9.1	—	—	—	—
	30歳代	22	9.1	22.7	31.8	18.2	13.6	—	—	—	4.5
	40歳代	36	8.3	22.2	22.2	22.2	16.7	8.3	—	—	—
	50歳代	31	19.4	25.8	16.1	16.1	16.1	—	6.5	—	—
	60歳代	35	17.1	20.0	28.6	14.3	11.4	5.7	—	2.9	—
	70歳以上	54	44.4	25.9	13.0	5.6	5.6	1.9	—	1.9	1.9
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

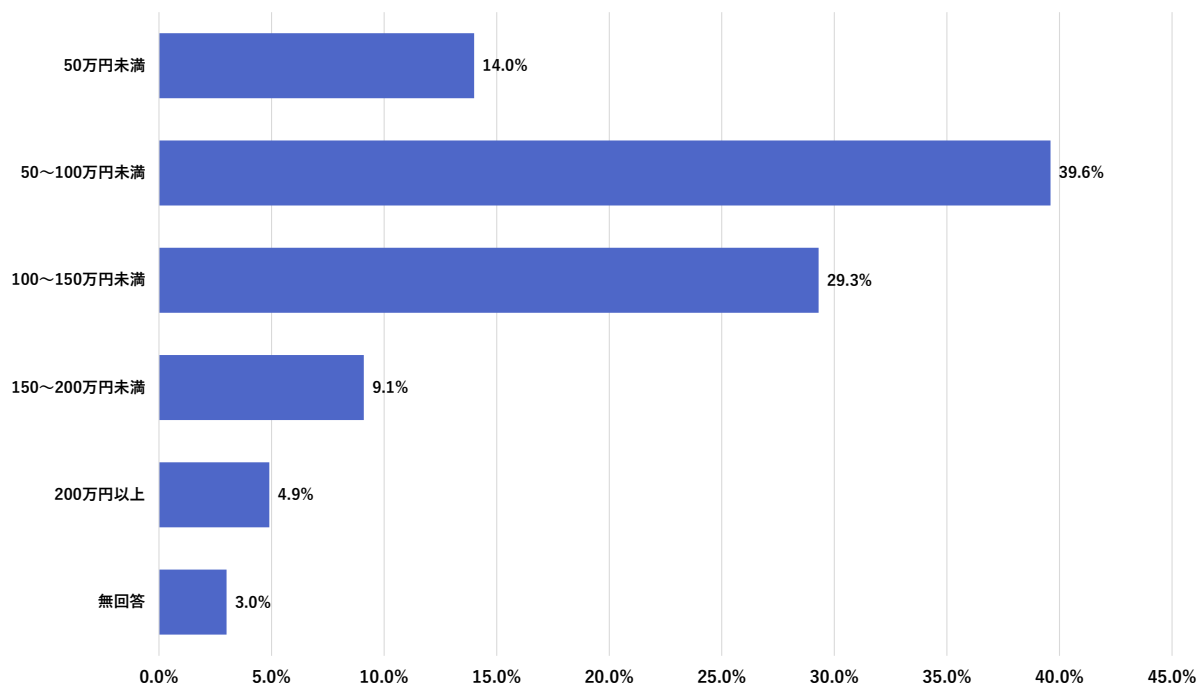
公的年金の給付額 全体的に増額傾向

【19】※（公的年金を受給している方へ）公的年金の1年間の給付額はいくらですか。

「100万円～150万円未満」が前回調査より6.8ポイント増の29.3%、「150～200万円未満」が0.8ポイント増の9.1%、「200万円以上」が2.4ポイント増の4.9%となっており、今回調査では全体的に給付額が増えているといえる。

※厚生労働省「令和5年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」によると、厚生年金保険（第1号）受給権者の平均年金月額が14.6万円（年額にして175.2万円）である。

【全体】



【今までの調査】

		回答者数	50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200万円以上	無回答
令和7年度調査	(人)	164	23	65	48	15	8	5
	(%)	100.0	14.0	39.6	29.3	9.1	4.9	3.0
令和2年度調査	(人)	315	61	133	71	26	8	16
	(%)	100.0	19.4	42.2	22.5	8.3	2.5	5.1

		回 答 者 数	3 0 万 円 未 満	3 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満	7 0 万 円 未 満	9 0 万 円 未 満	1 2 0 万 円 未 満	1 5 0 万 円 未 満	1 8 0 万 円 以 上	無 回 答
平成27年度調査	(人)	301	59	44	28	44	61	25	9	7	24
	(%)	100.0	19.6	14.6	9.3	14.6	20.3	8.3	3.0	2.3	8.0
平成22年度調査	(人)	260	44	39	27	39	38	32	12	5	24
	(%)	100.0	14.6	13.0	9.0	13.0	12.6	10.6	4.0	1.7	8.0

【19】※（公的年金を受給している方へ）公的年金の1年間の給付額はいくらですか。
(%)

		回 答 者 数	5 0 万 円 未 満	5 0 万 円 未 満	1 0 万 円 未 満	1 0 万 円 未 満	2 0 万 円 以 上	無 回 答
全体		164	23	65	48	15	8	5
		100.0	14.0	39.6	29.3	9.1	4.9	3.0
性別	男性	71	15.5	33.8	26.8	14.1	8.5	1.4
	女性	93	12.9	44.1	31.2	5.4	2.2	4.3
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—
	20歳代	0	—	—	—	—	—	—
	30歳代	0	—	—	—	—	—	—
	40歳代	3	33.3	33.3	—	—	—	33.3
	50歳代	1	100.0	—	—	—	—	—
	60歳代	19	10.5	31.6	42.1	5.3	—	10.5
	70歳以上	141	13.5	41.1	28.4	9.9	5.7	1.4
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

5 結婚

配偶者について 「同和地区の人」との結婚が増加

【20】※（結婚している方へ）配偶者についてお答えください。

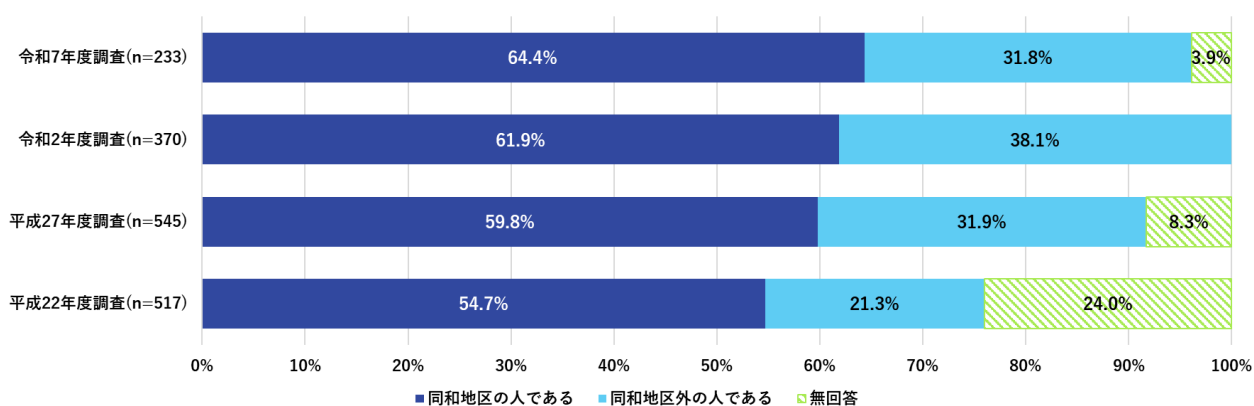
配偶者について「①同和地区の人である」「②同和地区外の人である」から選択して回答していただいた。全体では「同和地区外の人である」が前回調査の38.1%から6.3ポイント減の31.8%と、同和地区外の人との結婚が減少した。

男女別では、男性は前回調査より「同和地区外の人である」の割合が増えたが、女性は「同和地区の人である」が7.5ポイント増えて76.0%と、全体の四分之三を超えた。

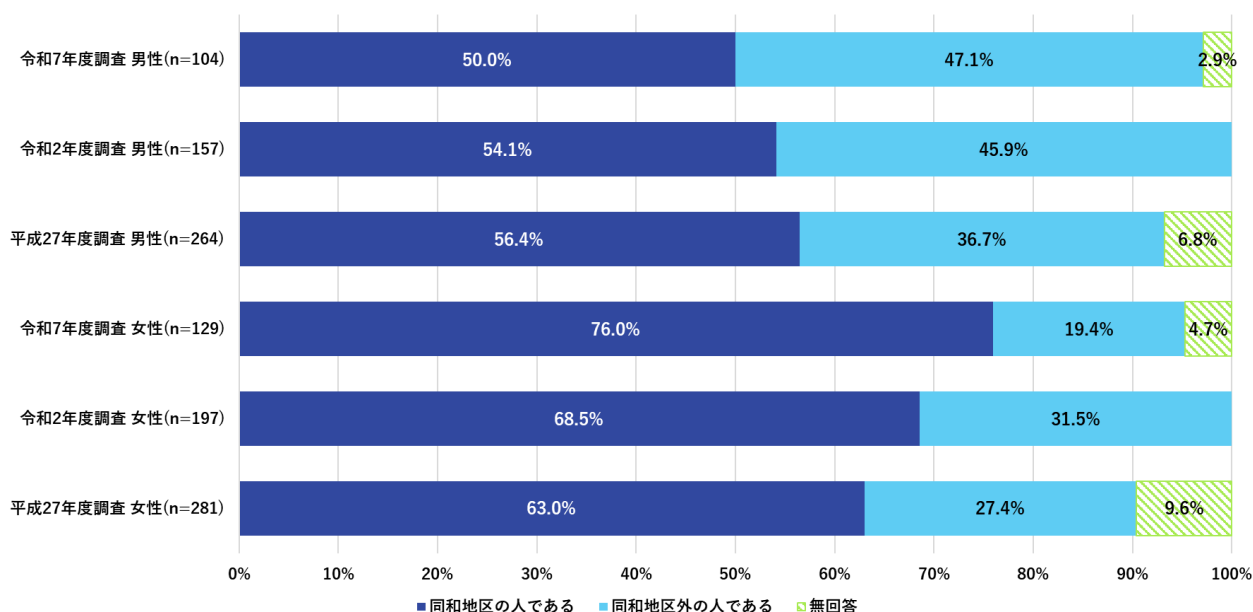
年代別では、20歳代では「同和地区外の人である」が40.4ポイント増の83.3%とほぼ倍増したが、その他の年代では「同和地区の人である」が減少または微増であり、「同和地区外の人である」が50%を超えたのは40歳代のみであった。

【過去の調査との比較】

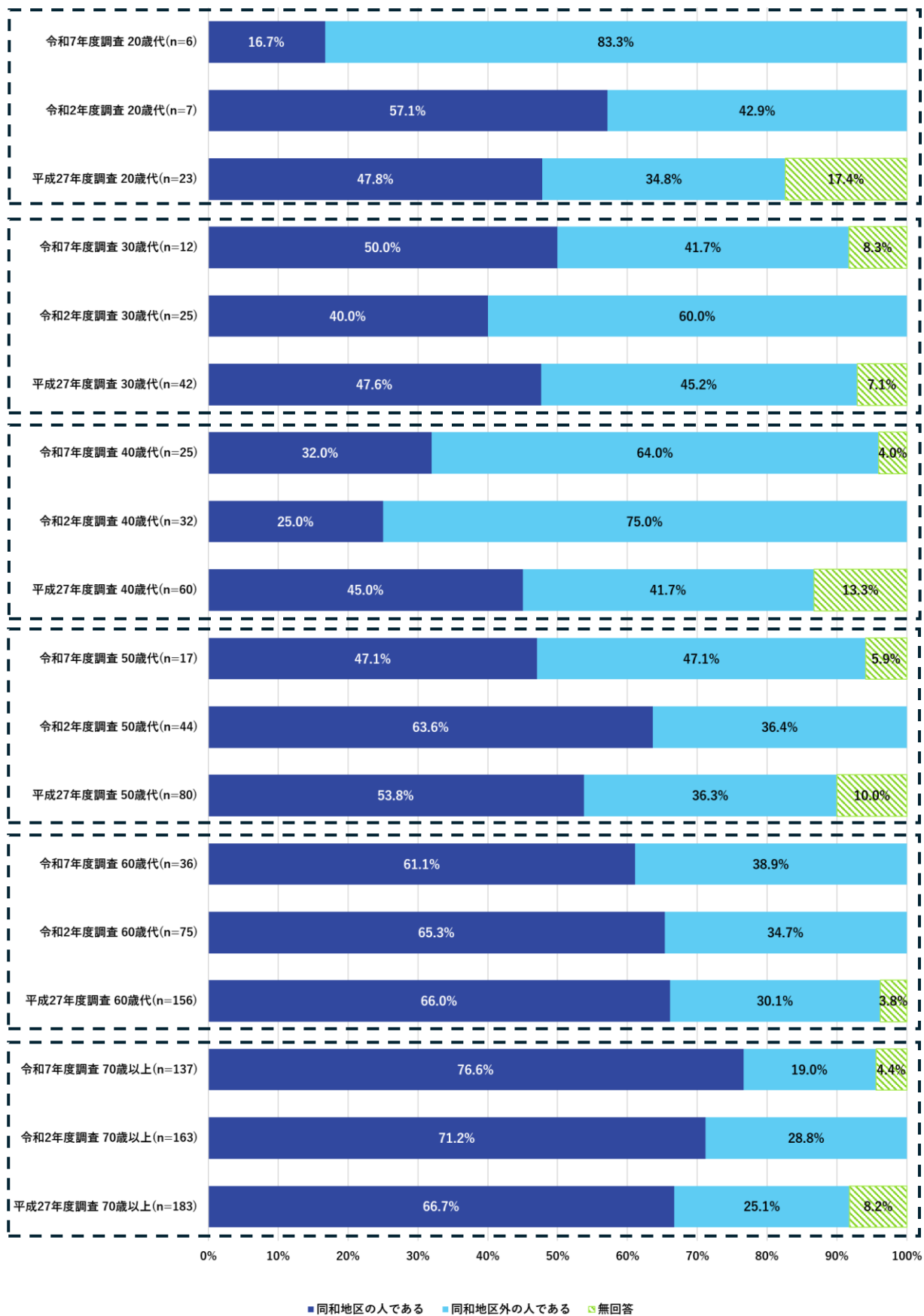
【全体】



【男女別】



【年代別】



【20】（結婚している方へ）配偶者についてお答えください。

(%)

		回 答 者 数	同 和 地 区 の 人 で あ る	同 和 地 区 外 の 人 で あ る	無 回 答
全体		233	150	74	9
		100.0	64.4	31.8	3.9
性別	男性	104	50.0	47.1	2.9
	女性	129	76.0	19.4	4.7
	無回答	0	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—
	20歳代	6	16.7	83.3	—
	30歳代	12	50.0	41.7	8.3
	40歳代	25	32.0	64.0	4.0
	50歳代	17	47.1	47.1	5.9
	60歳代	36	61.1	38.9	—
	70歳以上	137	76.6	19.0	4.4
	無回答	0	—	—	—

結婚するときの差別・反対の経験

「差別も反対もなかった」が60%超

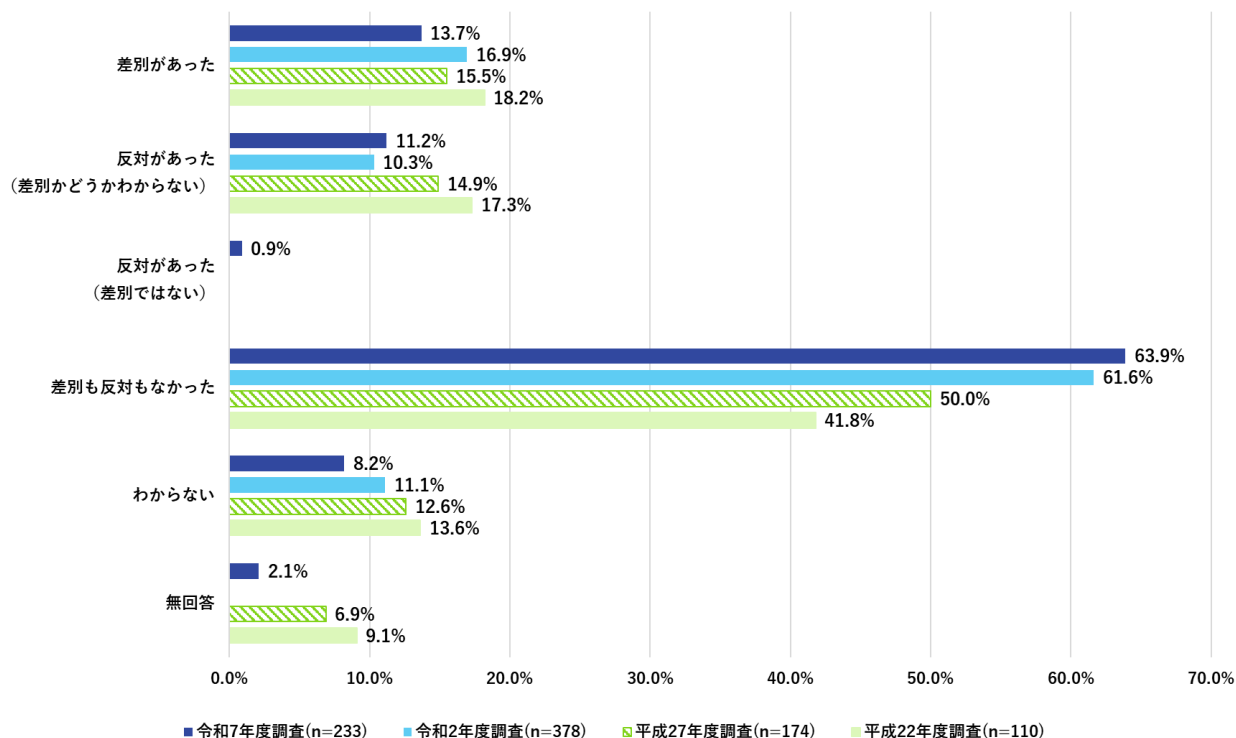
【21】（既婚者または結婚しようとしたことのある方に）

結婚するときに差別・反対はありましたか。

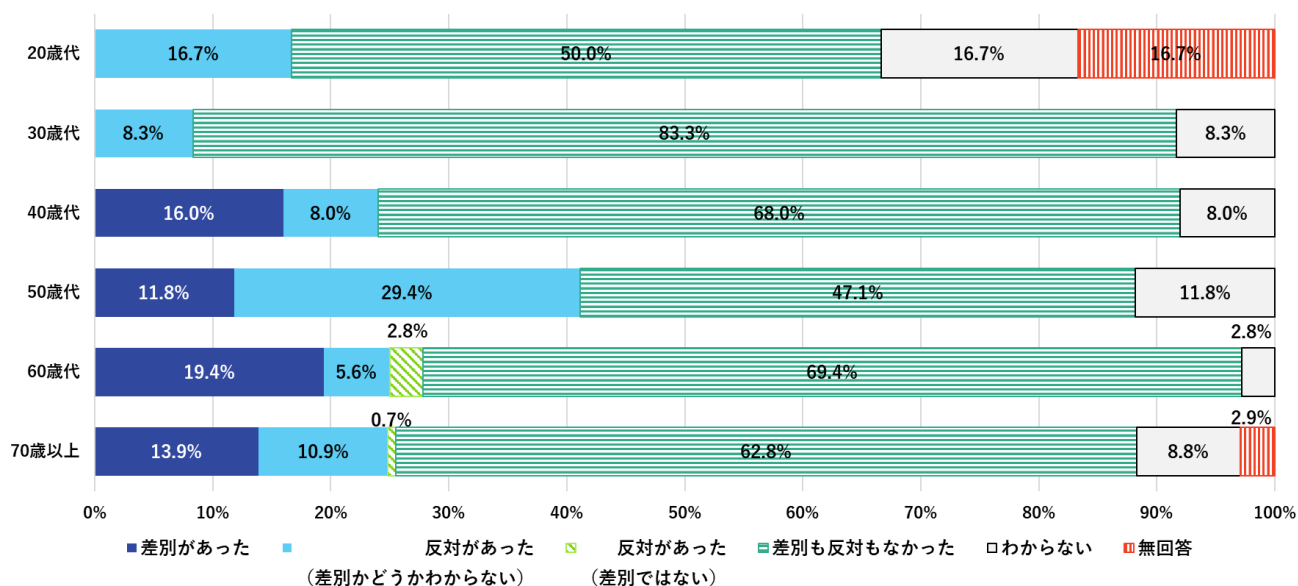
今回の調査から、「反対があった」に「差別かどうかわからない」に加え「差別ではない」も選択肢に加わった。

「差別も反対もなかった」が前回調査の61.6%から2.3ポイント増えて63.9%となり、「差別があった」も前回調査の16.9%より3.2ポイント減の13.7%となった。

【過去の調査との比較】



【年代別】



【21】（既婚者または結婚しようとしたことのある方に）

結婚するときに差別・反対はありましたか。

(%)

		回 答 者 数	差 別 が あ っ た	（ 差 別 が あ っ た か わ か ら な い ）	（ 反 対 が あ っ た は な い ）	差 別 も 反 対 も な か っ た	わ か ら な い	無 回 答
全体		233	32	26	2	149	19	5
		100.0	13.7	11.2	0.9	63.9	8.2	2.1
性別	男性	104	14.4	10.6	1.9	67.3	4.8	1.0
	女性	129	13.2	11.6	—	61.2	10.9	3.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—
	20歳代	6	—	16.7	—	50.0	16.7	16.7
	30歳代	12	—	8.3	—	83.3	8.3	—
	40歳代	25	16.0	8.0	—	68.0	8.0	—
	50歳代	17	11.8	29.4	—	47.1	11.8	—
	60歳代	36	19.4	5.6	2.8	69.4	2.8	—
	70歳以上	137	13.9	10.9	0.7	62.8	8.8	2.9
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

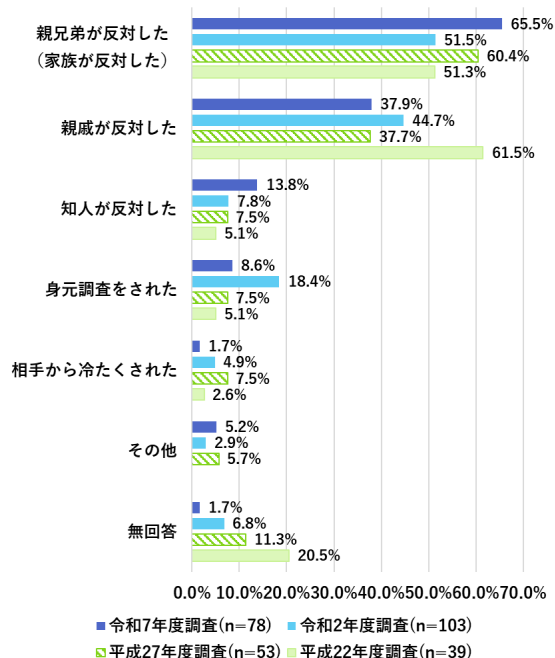
【22】※（【21】で「①差別があった」、「②反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）
どのような差別・反対を受けましたか。次の中からいくつでもあげてください。

「親兄弟が反対した」が前回調査の51.5%から

【過去の調査との比較】

65.5%へと14ポイント増加した。また「親戚が反対した」は前回調査の44.7%から6.8ポイント減少して37.9%となったが、どちらも依然として多いという結果となった。

一方、「身元調査をされた」が前回調査では18.4%あったが、今回の調査では9.8ポイント減って8.6%となった。特に、30歳代以下の若い世代では「身元調査をされた」との回答はない。



【22】（【21】で「①差別があった」、「②反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）
どのような差別・反対を受けましたか。次の中からいくつでもあげてください。

(%)

		回答者数	家族が反対した	親戚が反対した	知人が反対した	身元調査をされた	相手から冷たくされた	その他	無回答
全体		58	38	22	8	5	1	3	1
		100.0	65.5	37.9	13.8	8.6	1.7	5.2	1.7
性別	男性	26	57.7	38.5	11.5	19.2	—	3.8	3.8
	女性	32	71.9	37.5	15.6	—	3.1	6.3	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	1	100.0	—	100.0	—	—	—	—
	30歳代	1	—	100.0	—	—	—	—	—
	40歳代	6	50.0	33.3	16.7	16.7	—	—	16.7
	50歳代	7	57.1	42.9	14.3	—	—	—	—
	60歳代	9	88.9	22.2	—	—	—	—	—
	70歳以上	34	64.7	41.2	14.7	11.8	2.9	8.8	—
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

差別・反対への対処の有無

「対処した」と「対処しなかった」の差は13.8ポイント

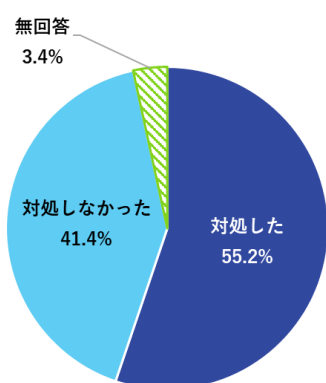
【23】※（【21】で「①差別があった」、「②反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）

差別・反対をされたとき、対処をしましたか。

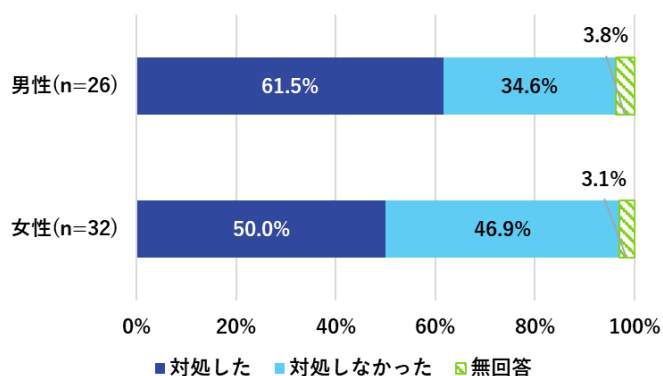
今回調査から、「対処した」か「対処しなかった」かの設問が単独となった。全体でみると、「対処しなかった」(41.4%)よりも「対処した」(55.2%)の方が13.8ポイント多かった。男女別では、女性(50.0%)より男性(61.5%)の方が11.5ポイント多かった。

また年代別では、おおよその年代で「対処した」が「対処しなかった」を上回る結果となったが、唯一50歳代では「対処しなかった」が57.1%で「対処した」(42.9%)を14.2ポイント上回る結果となった。

【全体】

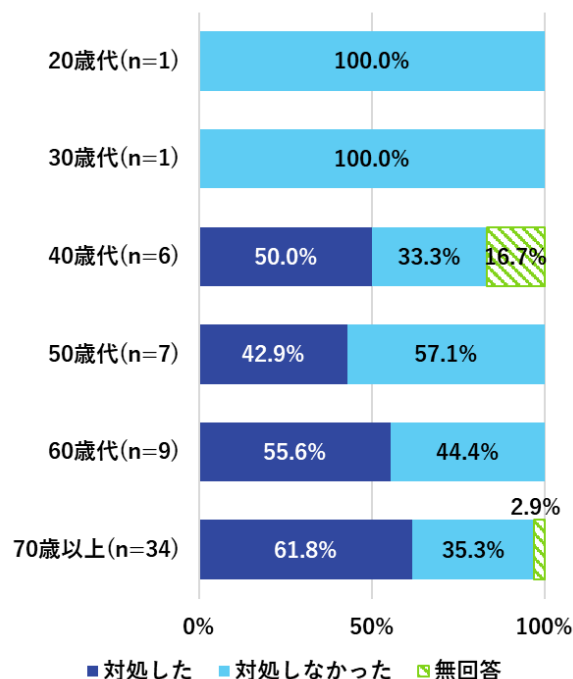


【性別】



【23】（【21】で「①差別があった」、「②反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）差別・反対されたとき、対処をしましたか。

【年代別】



(%)

		回答者数	対処した	対処しなかった	無回答
全体		58	32	24	2
		100.0	55.2	41.4	3.4
性別	男性	26	61.5	34.6	3.8
	女性	32	50.0	46.9	3.1
	無回答	0	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—
	20歳代	1	—	100.0	—
	30歳代	1	—	100.0	—
	40歳代	6	50.0	33.3	16.7
	50歳代	7	42.9	57.1	—
	60歳代	9	55.6	44.4	—
	70歳以上	34	61.8	35.3	2.9
	無回答	0	—	—	—

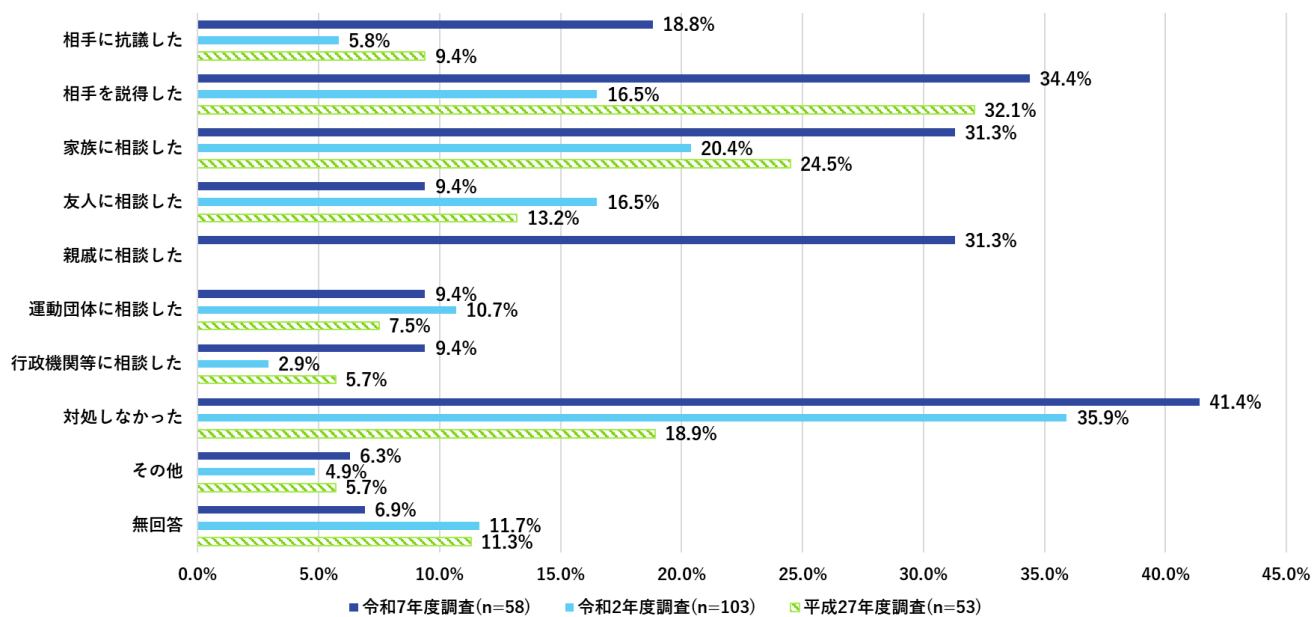
差別・反対への対処

「相手を説得した」が最多の34.4%

【24】※（【23】で「①対処した」と答えた方へ）差別・反対をされたとき、どのような対処をしましたか。次の中からいくつかでもあげてください。

今回調査から「親戚に相談した」という選択肢が増えた。これは31.3%となっており、「相手を説得した」の34.4%に次ぐ回答数である。前回同率2位だった「友人に相談した」は16.5%から7.1ポイント減の9.4%であった。

【過去の調査との比較】



【24】（【23】で「①対処した」と答えた方へ）

差別・反対されたとき、どのような対処をしましたか。次の中からいくつかでもあげてください。
(%)

		回 答 者 数	相 手 に 抗 議 し た	相 手 を 説 得 し た	家 族 に 相 談 し た	友 人 に 相 談 し た	親 戚 に 相 談 し た	運 動 団 体 に 相 談 し た	行 政 機 関 に 相 談 し た	そ の 他	無 回 答
全体		32	6	11	10	3	10	3	3	2	2
		32.0	18.8	34.4	31.3	9.4	31.3	9.4	9.4	6.3	6.3
性別	男性	16	31.3	56.3	12.5	12.5	18.8	12.5	6.3	—	6.3
	女性	16	6.3	12.5	50.0	6.3	43.8	6.3	12.5	12.5	6.3
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30歳代	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	40歳代	3	66.7	66.7	—	—	—	—	—	—	—
	50歳代	3	—	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—
	60歳代	5	20.0	40.0	40.0	—	40.0	—	—	20.0	—
	70歳以上	21	14.3	33.3	33.3	9.5	33.3	14.3	14.3	4.8	9.5
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(複数回答含む)

親元への行き来

「あまり行き来していない」が40%超に

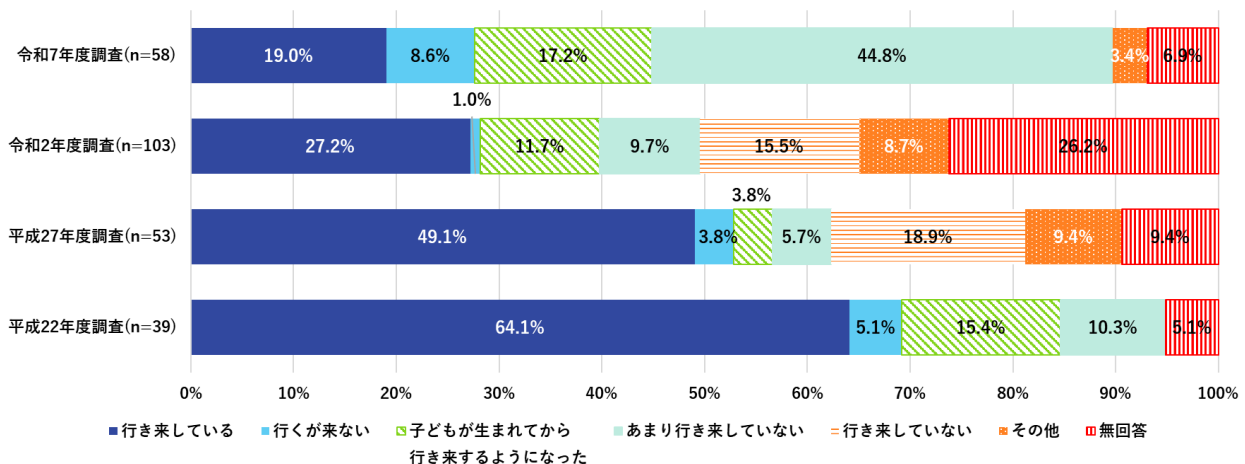
【25】※（【21】で「①差別があった」、「②反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）

親元には現在どの程度行き来がありますか。

今回調査では「行き来していない」の選択肢がなくなった。前回調査で15.5%あったその回答が「あまり行き来していない」に回ったとみられ、そのためか「あまり行き来していない」は前回調査の9.7%から44.8%へと35.1ポイントも増えた。

また、「行き来している」は調査の回を追うごとに減少しており、今回調査では前回27.2%よりも8.2ポイント減の19.0%であった。

【過去の調査との比較】



【25】（【21】で「①差別があった」、「②反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）

親元には現在どの程度行き来がありますか。

(%)

		回答者数	行き来している	行かない	子どもが生まれてから行き来するようになった	あまり行き来していない	その他	無回答
全体		58	11	5	10	26	2	4
		100.0	19.0	8.6	17.2	44.8	3.4	6.9
性別	男性	26	19.2	11.5	11.5	42.3	3.8	11.5
	女性	32	18.8	6.3	21.9	46.9	3.1	3.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—	—	—	—
	20歳代	1	—	—	—	100.0	—	—
	30歳代	1	—	100.0	—	—	—	—
	40歳代	6	—	—	16.7	50.0	16.7	16.7
	50歳代	7	28.6	—	—	57.1	—	14.3
	60歳代	9	33.3	—	33.3	22.2	—	11.1
	70歳以上	34	17.6	11.8	17.6	47.1	2.9	2.9
	無回答	0	—	—	—	—	—	—

差別による離婚

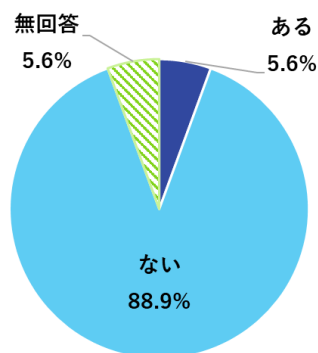
全体の5%

【26】※（結婚経験のある方へ）差別が原因で、離婚されたことがありますか。

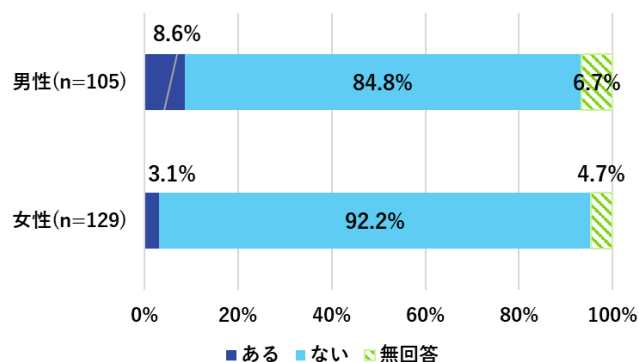
差別が原因の離婚経験は全体の5.6%という結果だった。

30歳代以下では「ある」と回答した人がおらず、逆に50歳代では23.5%と突出して多い。

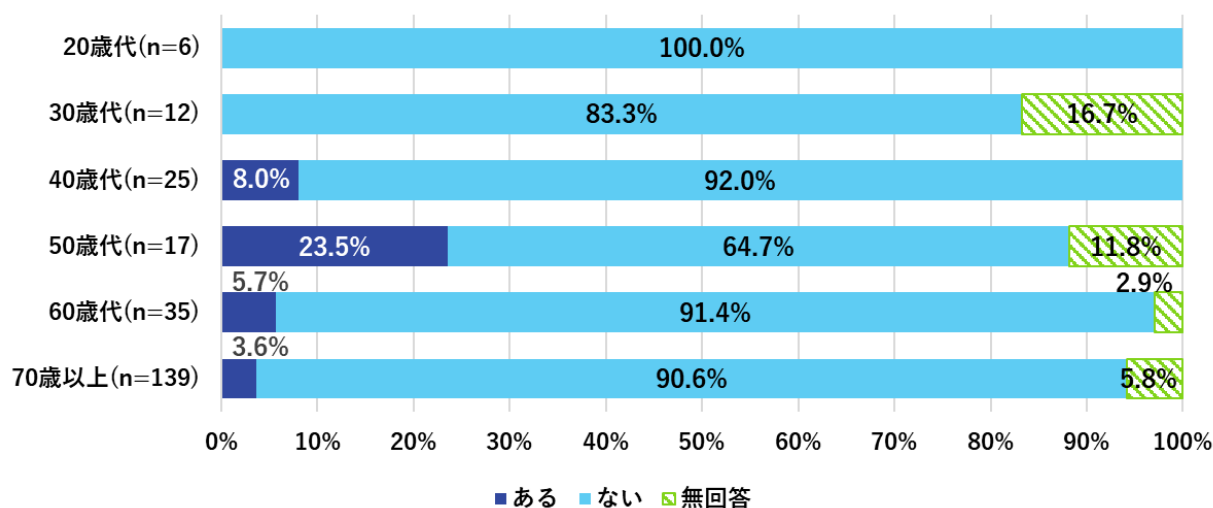
【全体】



【性別】



【年代別】



【26】（結婚経験のある方へ）差別が原因で、離婚されたことがありますか。

(%)

		回答者数	ある	ない	無回答
全体		234	13	208	13
		100.0	5.6	88.9	5.6
性別	男性	105	8.6	84.8	6.7
	女性	129	3.1	92.2	4.7
	無回答	0	—	—	—
年代	20歳未満	0	—	—	—
	20歳代	6	—	100.0	—
	30歳代	12	—	83.3	16.7
	40歳代	25	8.0	92.0	—
	50歳代	17	23.5	64.7	11.8
	60歳代	35	5.7	91.4	2.9
	70歳以上	139	3.6	90.6	5.8
	無回答	0	—	—	—

6 インターネット環境

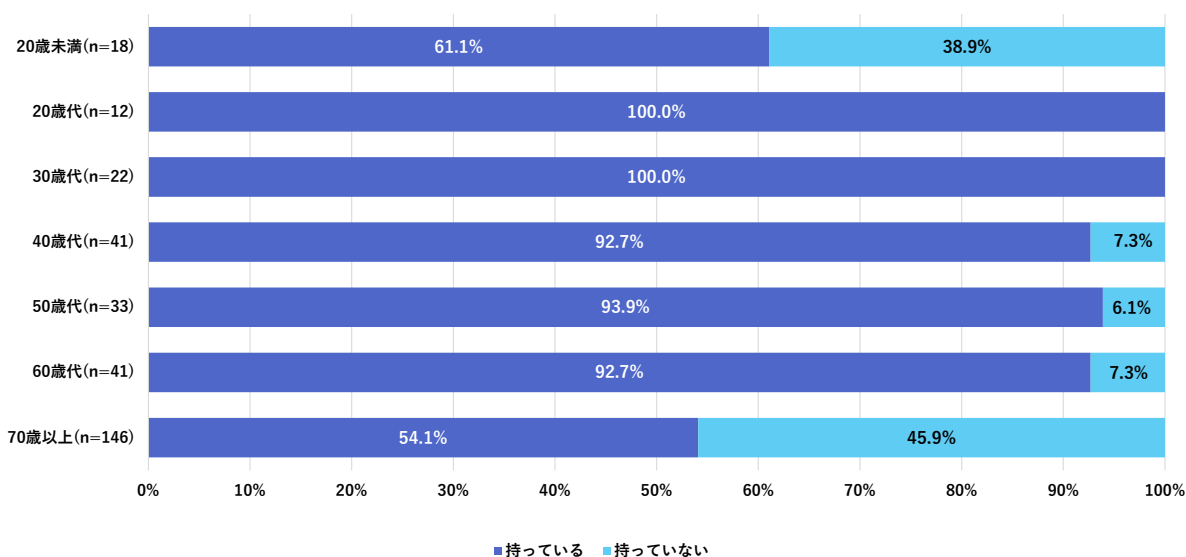
インターネットの利用

【27】 パソコンやスマートフォン等の情報通信機器はお持ちですか。

20 歳代、30 歳代が 100%となっており、40 歳代から 60 歳代も 90%超と多くの人が持っているという結果となった。

70 歳以上になると 54.1%だったが、前回調査の 40.6%からは 13.5 ポイント増えた。

【年代別】



【27】 パソコンやスマートフォン等の情報通信機器はお持ちですか。

(%)

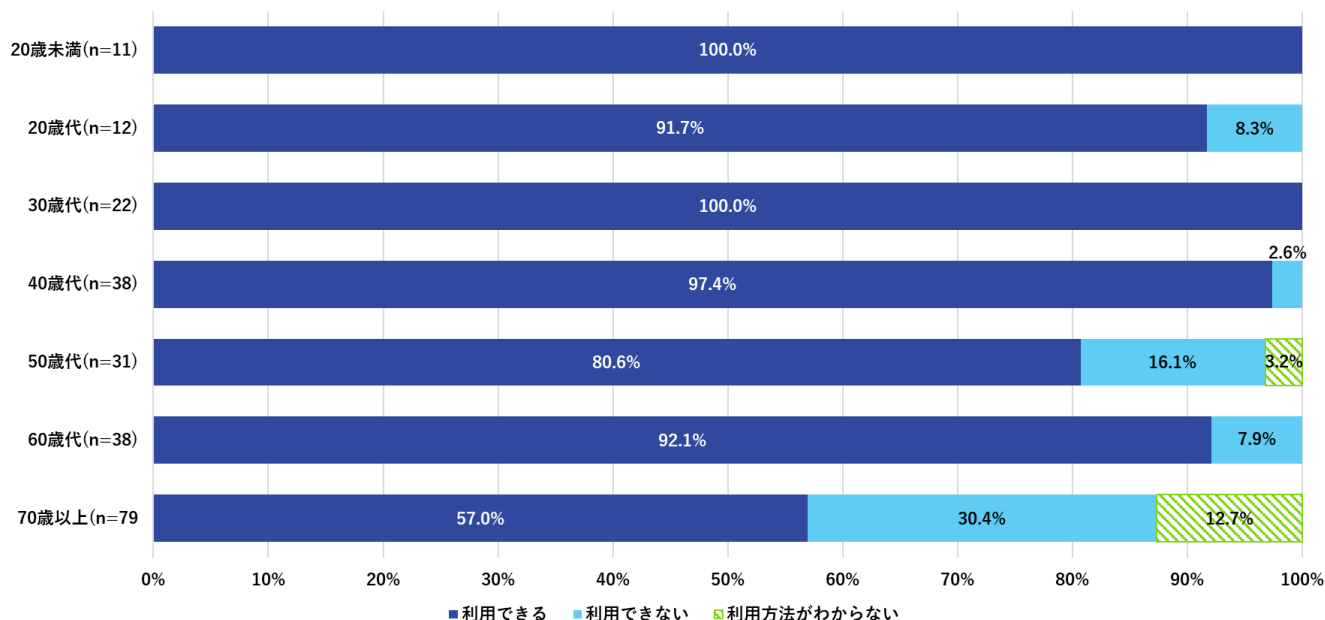
		回答者数	持っている	持っていない	無回答
全体		313	231	82	0
		100.0	73.8	26.2	0.0
性別	男性	155	75.5	24.5	—
	女性	158	72.2	27.8	—
	無回答	0	—	—	—
年代	20歳未満	18	61.1	38.9	—
	20歳代	12	100.0	—	—
	30歳代	22	100.0	—	—
	40歳代	41	92.7	7.3	—
	50歳代	33	93.9	6.1	—
	60歳代	41	92.7	7.3	—
	70歳以上	146	54.1	45.9	—
	無回答	0	—	—	—

【28】※（【27】で「①持っている」と答えた方へ）

インターネットは利用できますか。

60歳代までは、非常に高い割合で利用できるとの回答だった。「利用方法がわからない」は50歳代で3.2%、70歳以上で12.7%と少数であった。

【年代別】



【28】（【27】で「①持っている」と答えた方へ）インターネットは利用できますか。
(%)

		回答者数	利用できる	利用できない	利用方法がわからない	無回答
全体		231	186	34	11	0
		100.0	80.5	14.7	4.8	—
性別	男性	117	81.2	13.7	5.1	—
	女性	114	79.8	15.8	4.4	—
	無回答	0	—	—	—	—
年代	20歳未満	11	100.0	—	—	—
	20歳代	12	91.7	8.3	—	—
	30歳代	22	100.0	—	—	—
	40歳代	38	97.4	2.6	—	—
	50歳代	31	80.6	16.1	3.2	—
	60歳代	38	92.1	7.9	—	—
	70歳以上	79	57.0	30.4	12.7	—
	無回答	0	—	—	—	—

7 隣保館（人権文化センター）活動

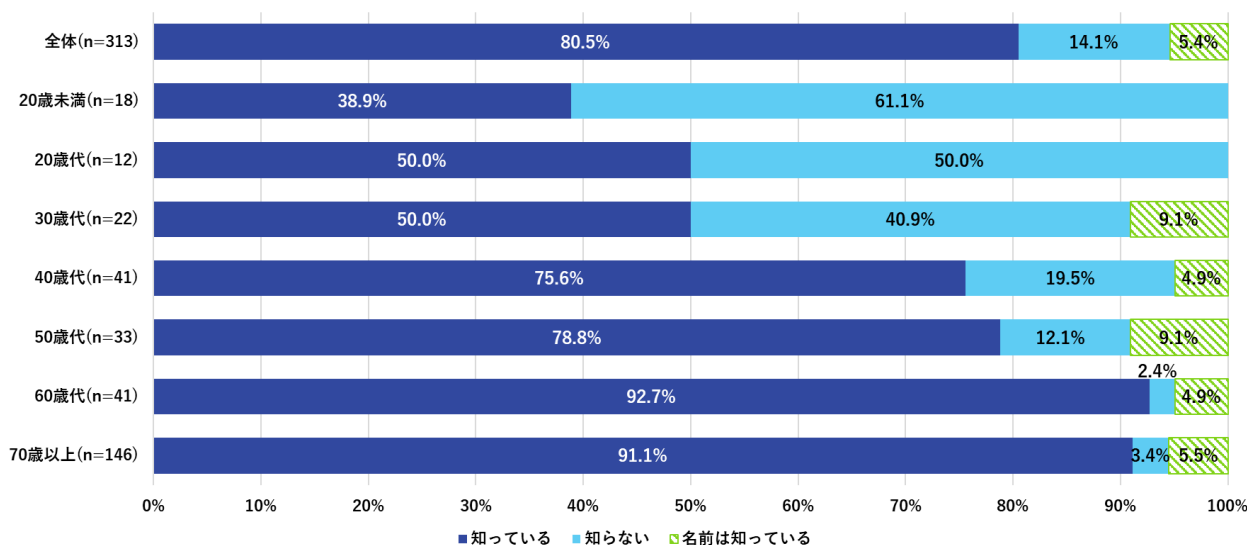
隣保館（人権文化センター）の認知度

【29】隣保館（人権文化センター）を知っていますか。

全体で「知っている」が80.5%という結果だった。

60歳代以上では90%超えの認知度で、20歳代、30歳代でも50%となっている。

【年代別】



【29】隣保館（人権文化センター）を知っていますか。

(%)

		回答者数	知っている	知らない	名前は知っている	無回答
全体		313	252	44	17	0
		100.0	80.5	14.1	5.4	—
性別	男性	155	76.8	15.5	7.7	—
	女性	158	84.2	12.7	3.2	—
	無回答	0	—	—	—	—
年代	20歳未満	18	38.9	61.1	—	—
	20歳代	12	50.0	50.0	—	—
	30歳代	22	50.0	40.9	9.1	—
	40歳代	41	75.6	19.5	4.9	—
	50歳代	33	78.8	12.1	9.1	—
	60歳代	41	92.7	2.4	4.9	—
	70歳以上	146	91.1	3.4	5.5	—
	無回答	0	—	—	—	—

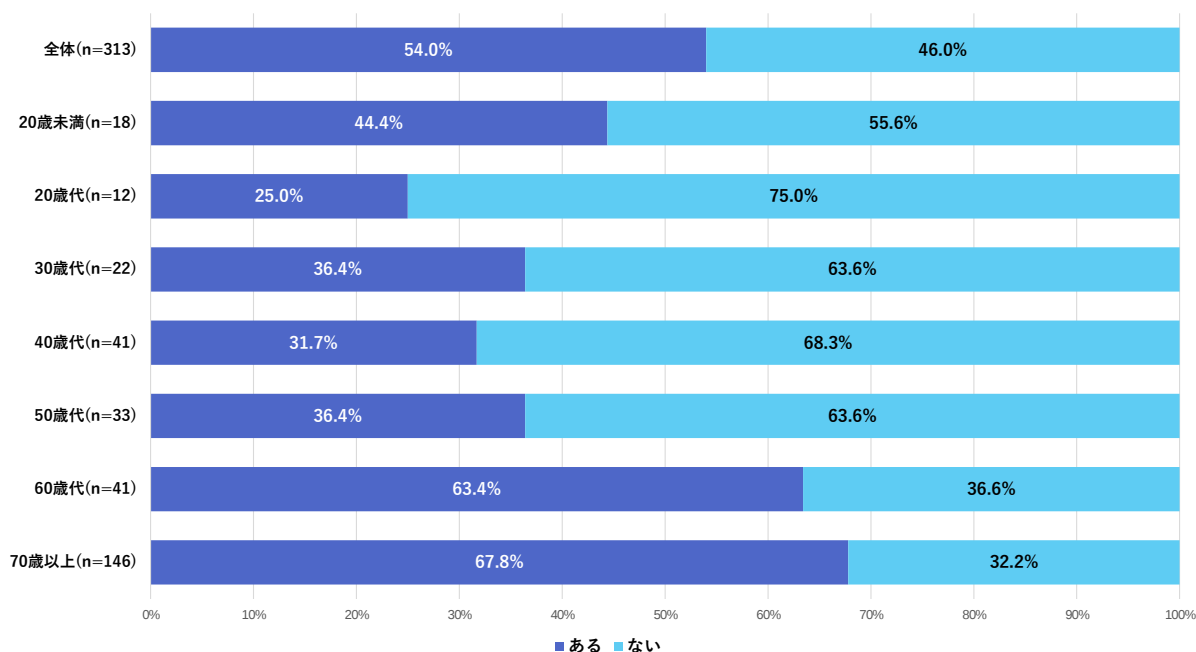
隣保館（人権文化センター）の利用

【30】 隣保館（人権文化センター）を利用したことや事業に参加したことがありますか。

全体で「ある」は54.0%という結果だった。

年代別で見ると、60歳代以上は60%を超えているが、50歳代以下では50%に満たない。

【年代別】



【30】 隣保館（人権文化センター）を利用や事業に参加したことがありますか。

(%)

		回答者数	ある	ない	無回答
全体		313	169	144	0
		100.0	54.0	46.0	0.0
性別	男性	155	49.7	50.3	—
	女性	158	58.2	41.8	—
	無回答	0	—	—	—
年代	20歳未満	18	44.4	55.6	—
	20歳代	12	25.0	75.0	—
	30歳代	22	36.4	63.6	—
	40歳代	41	31.7	68.3	—
	50歳代	33	36.4	63.6	—
	60歳代	41	63.4	36.6	—
	70歳以上	146	67.8	32.2	—
	無回答	0	—	—	—

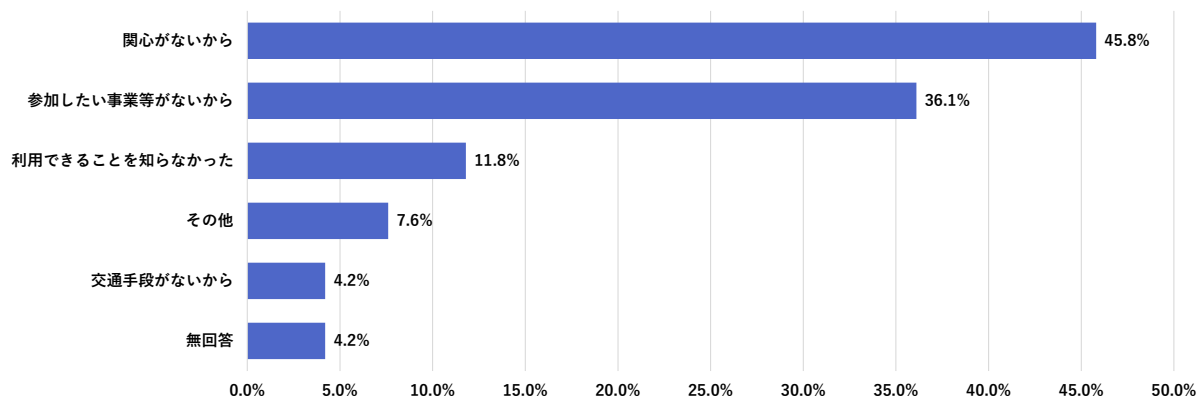
利用したことがない理由

【31】※（【30】で「②ない」と答えた方へ）

その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。

「関心がないから」が45.8%で最も多く、次いで「参加したい事業等がないから」が36.1%で、この2つで80%を超える回答となった。

【回答の多い順の比較】



【31】（【30】で「②ない」と答えた方へ）その理由は何ですか。

次の中からいくつでもあげてください。

(%)

	回答者数	関心がないから	利用できることを知らなかった	交通手段がないから	参加したい事業等がないから	その他	無回答
全体	144	66	17	6	52	11	6
	100.0	45.8	11.8	4.2	36.1	7.6	4.2
性別	男性	78	53.8	10.3	2.6	32.1	6.4
	女性	66	36.4	13.6	6.1	40.9	9.1
	無回答	0	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	10	40.0	30.0	10.0	10.0	30.0
	20歳代	9	66.7	22.2	11.1	22.2	11.1
	30歳代	14	50.0	14.3	14.3	21.4	7.1
	40歳代	28	57.1	17.9	—	17.9	7.1
	50歳代	21	33.3	9.5	—	57.1	4.8
	60歳代	15	46.7	—	—	46.7	6.7
	70歳以上	47	40.4	6.4	4.3	46.8	8.5
	無回答	0	—	—	—	—	—

8 被差別体験

被差別体験の有無

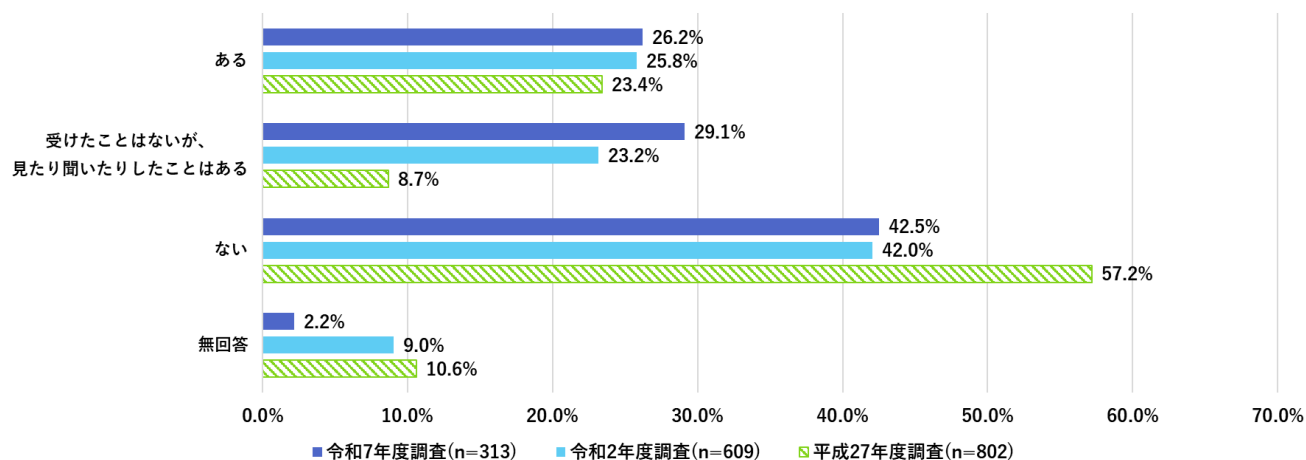
「ある」と「ない」はほぼ横ばい

【33】差別を受けたことがありますか。

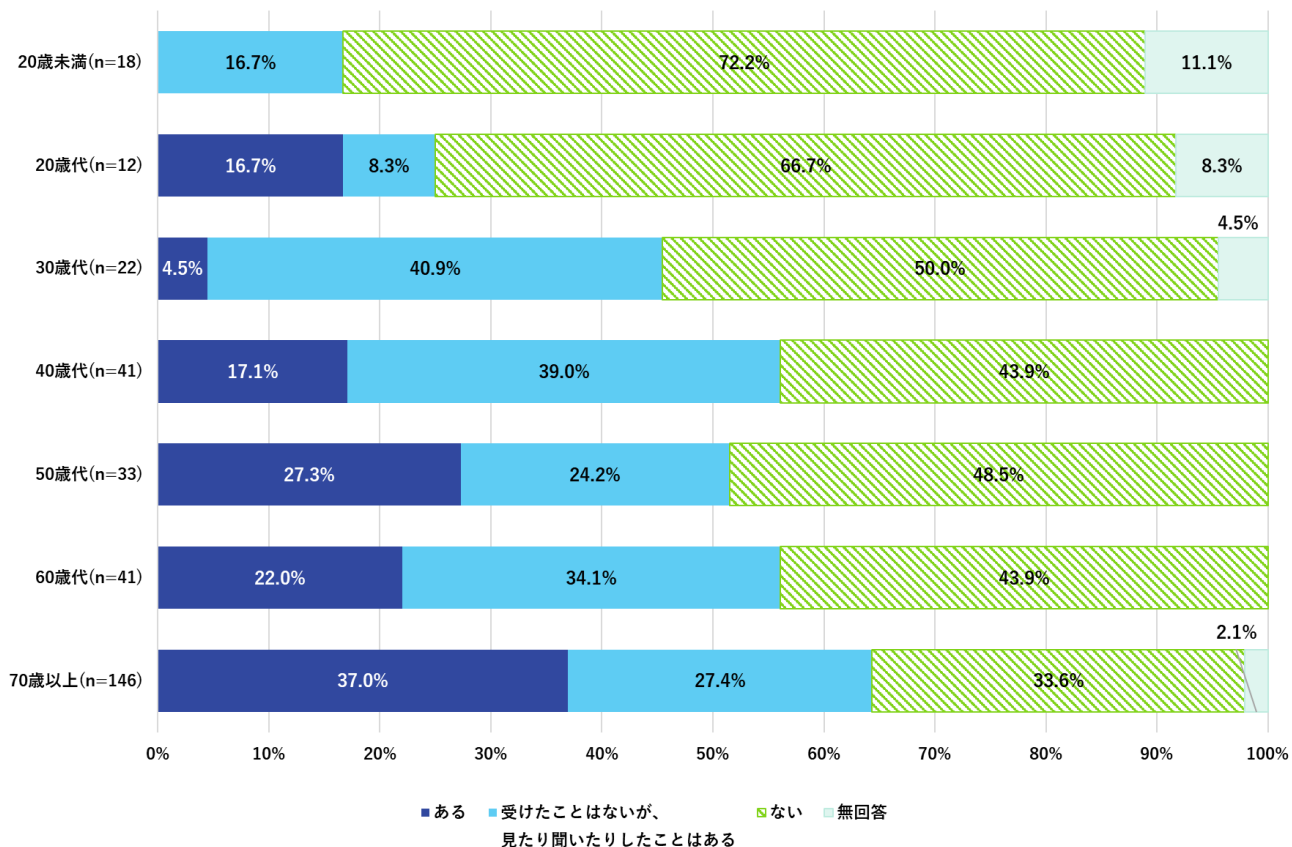
前回調査に比べて「ある」は0.4ポイント増の26.2%、「ない」も0.5ポイント増の42.5%とほぼ変わらなかったが、「受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」は5.9ポイント増の29.1%となった。

年代別で見ると「ある」が20歳未満は0%、20歳代から40歳代は10%台で推移しているが、50歳代以上は20%超えとなっている。

【過去の調査との比較】



【年代別】



【33】差別を受けたことがありますか。

(%)

		回 答 者 数	あ る	こ と は あ る	見 た り あ い た り な し た が 、	受 け た こ と は な い が 、	な い	無 回 答
全体		313	82	91	133	7		
		100.0	26.2	29.1	42.5	2.2		
性別	男性	155	28.4	24.5	45.2	1.9		
	女性	158	24.1	33.5	39.9	2.5		
	無回答	0	—	—	—	—		
年代	20歳未満	18	—	16.7	72.2	11.1		
	20歳代	12	16.7	8.3	66.7	8.3		
	30歳代	22	4.5	40.9	50.0	4.5		
	40歳代	41	17.1	39.0	43.9	—		
	50歳代	33	27.3	24.2	48.5	—		
	60歳代	41	22.0	34.1	43.9	—		
	70歳以上	146	37.0	27.4	33.6	2.1		
	無回答	0	—	—	—	—		

被差別体験の場面

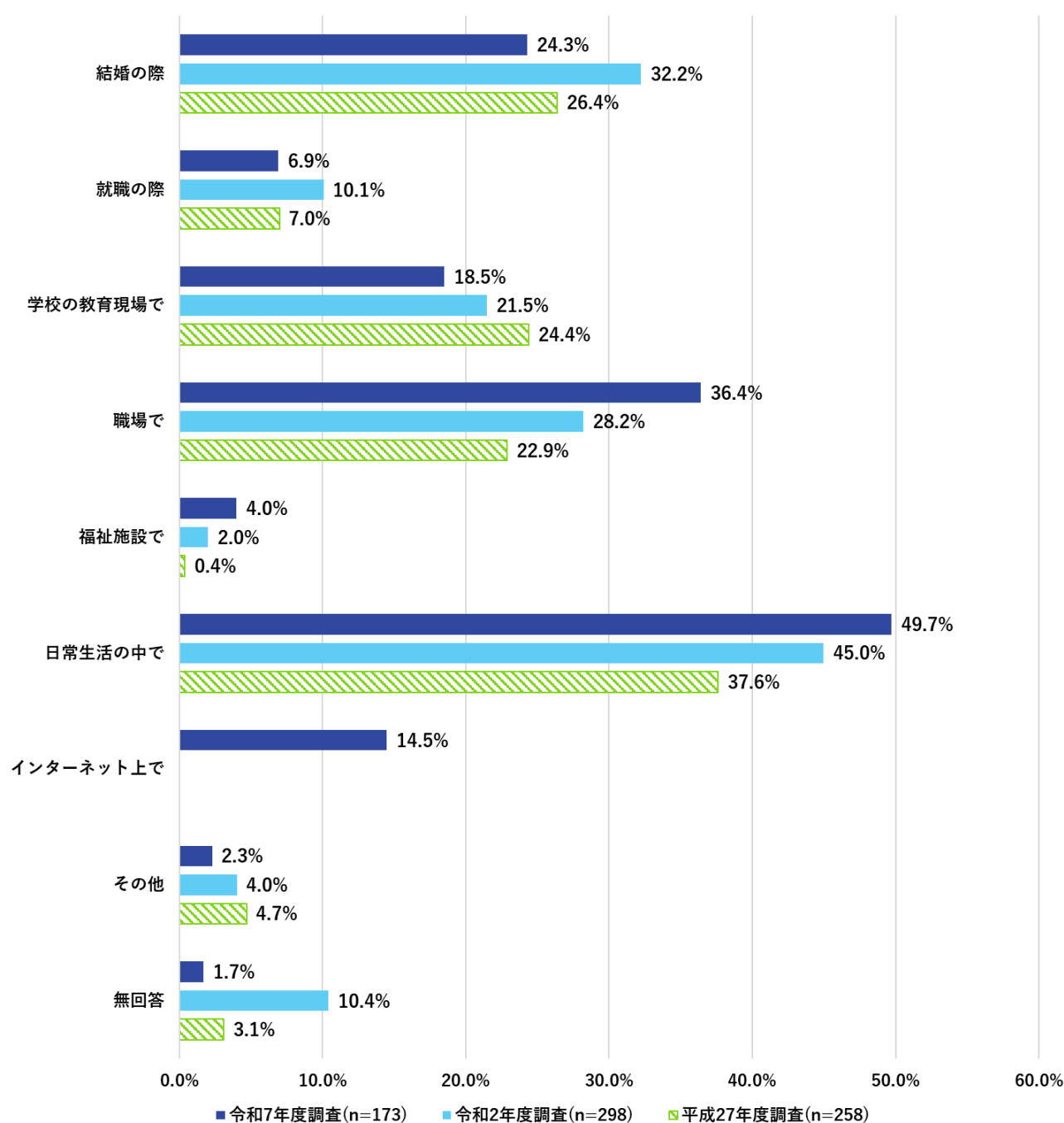
「日常生活の中で」が約50%

【34】※（【33】で「①ある」、「②受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）どのような場面で差別を受け（見たり聞いたりし）ましたか。次の中からいくつでもあげてください。

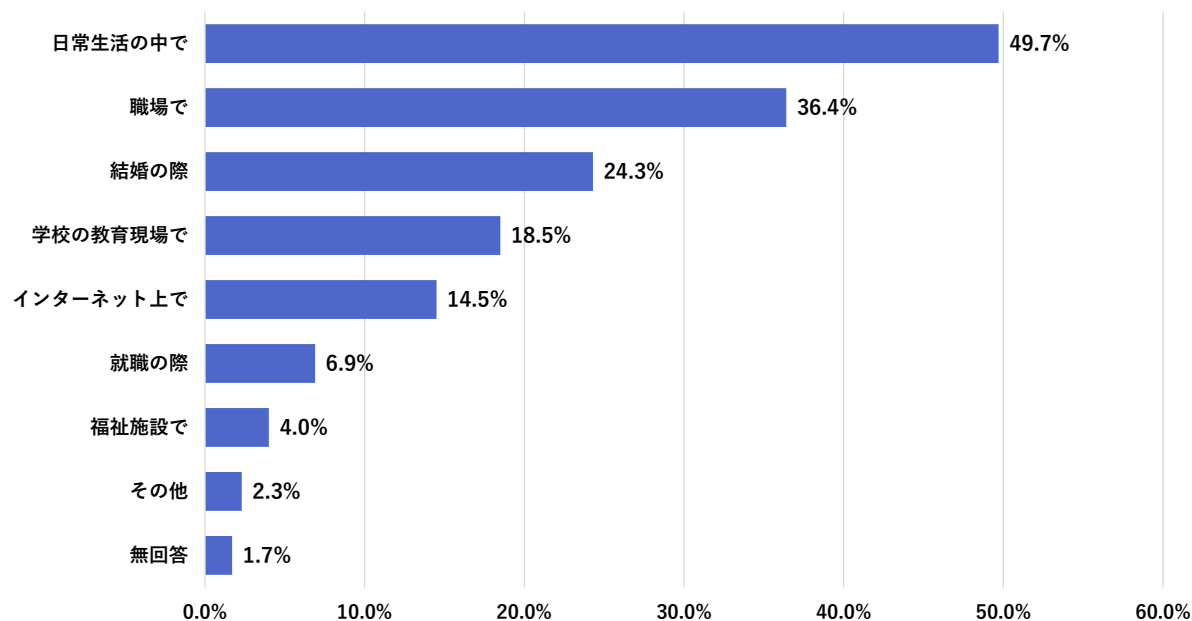
「日常生活の中で」が前回調査より4.7ポイント増の49.7%と約半数になった一方で、「結婚の際」が7.9ポイント減の24.3%、「学校の教育現場で」が3ポイント減の18.5%となり、主に若い世代が経験する場面では減ってきていることがわかる。

また今回調査から「インターネット上で」という選択肢ができたが、これは14.5%と5番目に多い結果となった。

【過去の調査との比較】



【回答の多い順の比較】



【34】（【33】で「①ある」、「②受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）
 どのような場面で差別を受け（見たり聞いたりし）ましたか。次の中からいくつでもあげてください。

(%)

		回答者数	結婚の際	就職の際	学校の教育現場で	職場で	福祉施設で	日常生活の中で	インターネット上で	その他	無回答
全体		173	42	12	32	63	7	86	25	4	3
		100.0	24.3	6.9	18.5	36.4	4.0	49.7	14.5	2.3	1.7
性別	男性	82	25.6	8.5	22.0	34.1	3.7	47.6	15.9	2.4	2.4
	女性	91	23.1	5.5	15.4	38.5	4.4	51.6	13.2	2.2	1.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	3	—	—	—	—	33.3	33.3	100.0	—	—
	20歳代	3	—	33.3	33.3	33.3	—	66.7	33.3	—	—
	30歳代	10	—	—	40.0	50.0	—	50.0	20.0	—	—
	40歳代	23	13.0	—	21.7	30.4	—	39.1	30.4	—	—
	50歳代	17	29.4	—	5.9	29.4	5.9	41.2	17.6	—	5.9
	60歳代	23	43.5	4.3	8.7	39.1	—	30.4	8.7	—	4.3
	70歳以上	94	25.5	10.6	20.2	38.3	5.3	58.5	7.4	4.3	1.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

被差別体験の対処

「対処しなかった」が約44%

【35】※（【33】で「①ある」、「②受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）

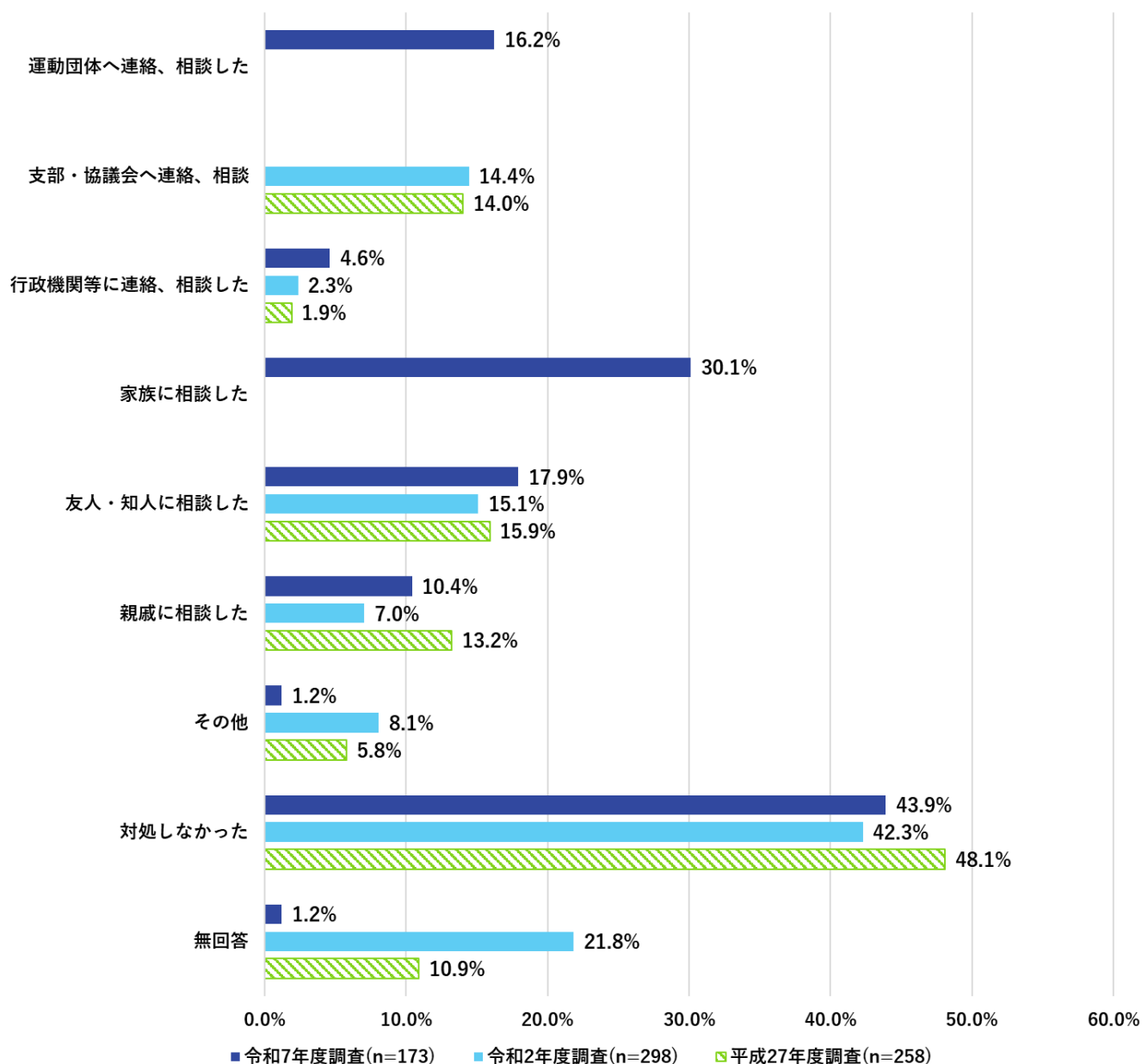
どのように対処しましたか。次の中からいくつでもあげてください。

今回調査から「支部・協議会へ連絡、相談」がなくなり、「運動団体へ連絡、相談した」「家族に相談した」の選択肢ができた。

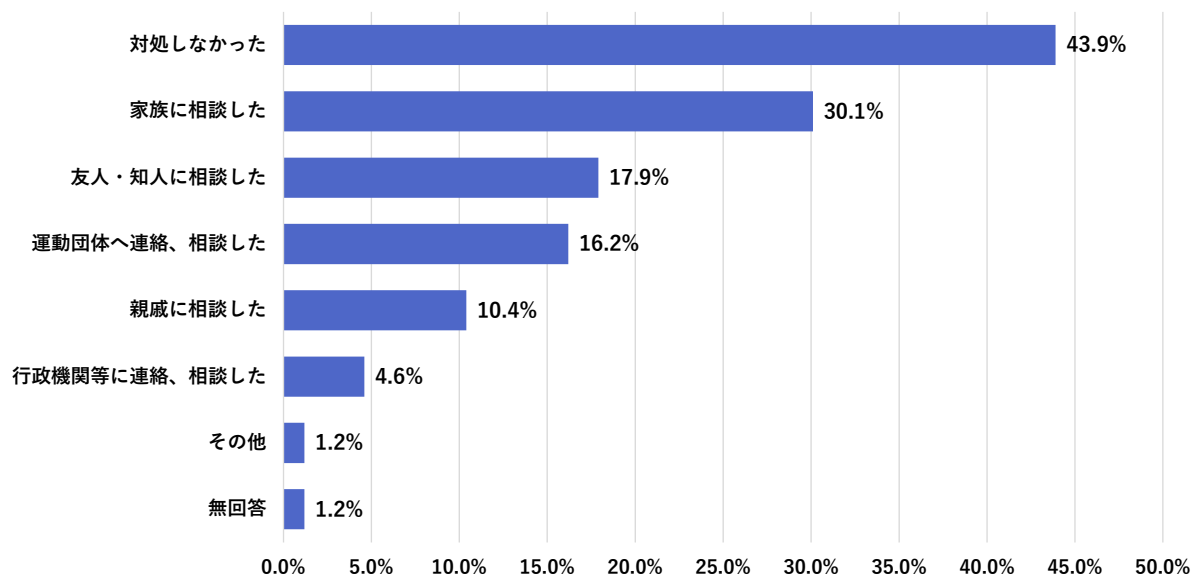
過去の調査と変わらず「対処しなかった」が43.9%と一番多かったが、次いで「家族に相談した」が30.1%、「友人・知人に相談した」が17.9%と続いた。

差別を受けても『対処しなかった（相談しなかった）』人が約44%いる実態については、胸にしまい込んで耐えている当事者の心理的負担が推察される。速やかな問題解決だけでなく『心のケア』を重視した寄り添う支援と、行政機関や運動団体がこれまで以上に気軽に相談できる場所であることを周知していくことが重要である。

【過去の調査との比較】



【回答の多い順の比較】



【35】（【33】で「①ある」、「②受けたことはないが、見たたり聞いたたりしたことはある」と答えた方へ）
どのように対処しましたか。次の中からいくつでもあげてください。

(%)

		回答者数	運動団体へ連絡、相談した	行政機関等に連絡、相談した	家族に相談した	友人・知人に相談した	親戚に相談した	その他	対処しなかった	無回答
全体		173	28	8	52	31	18	2	76	2
		100.0	16.2	4.6	30.1	17.9	10.4	1.2	43.9	1.2
性別	男性	82	19.5	6.1	31.7	25.6	11.0	1.2	36.6	1.2
	女性	91	13.2	3.3	28.6	11.0	9.9	1.1	50.5	1.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—
年代	20歳未満	3	—	—	—	33.3	—	—	66.7	—
	20歳代	3	—	—	33.3	33.3	—	—	66.7	—
	30歳代	10	10.0	—	40.0	10.0	—	—	50.0	—
	40歳代	23	8.7	4.3	34.8	26.1	8.7	—	39.1	—
	50歳代	17	5.9	—	35.3	17.6	11.8	—	47.1	—
	60歳代	23	21.7	4.3	43.5	13.0	13.0	—	39.1	—
	70歳以上	94	20.2	6.4	24.5	17.0	11.7	2.1	43.6	2.1
	無回答	0	—	—	—	—	—	—	—	—

被差別体験の時期

過去5年以内に「受けた」が前回調査より増加

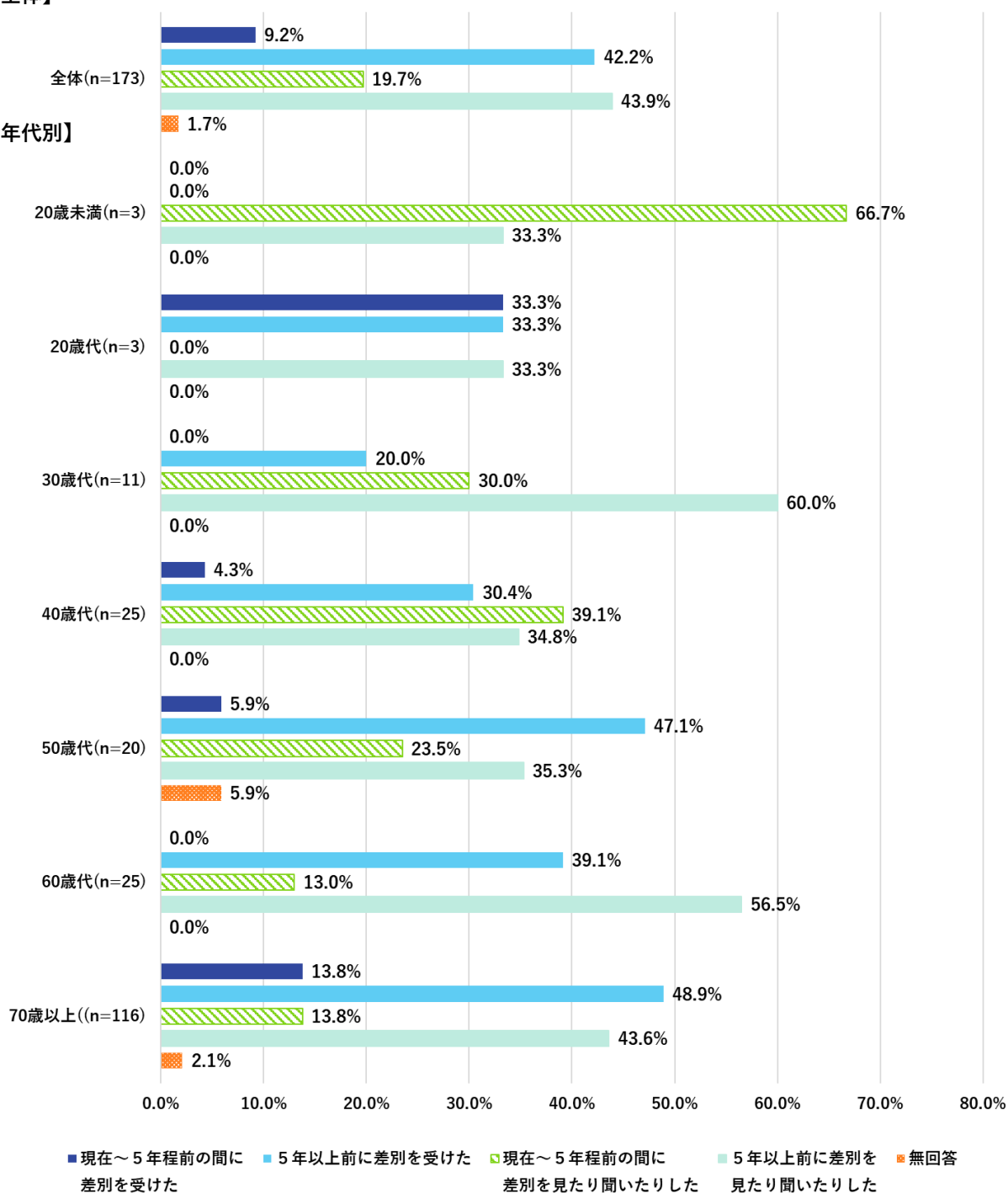
【36】※（【33】で「①ある」、「②受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）およそいつ頃に、差別を受けた、または見たり聞いたりしましたか。次の中からいくつでもあげてください。

過去5年間で差別を受けたと回答した人は9.2%で前回調査より3.8ポイント増え、20歳代でも該当者がいた。

過去5年間で差別を見聞きした人は19.7%で、こちらも前回調査より6.6ポイント増えた。20歳代を除く全ての年代で該当者がおり、差別を受けた人も差別を見聞きした人も、5年以上前に体験した人の割合からは減っているものの、依然として体験する人がいることがわかる。

【全体】

【年代別】



【36】（【33】で①、②と答えた方に）およそいつ頃に、差別を受け（見たり聞いたりし）
 ましたか。次の中からいくつでもあげてください。

(%)

		回 答 者 数	差 別 を 受 け た	現 在 を 5 年 程 前 の 間 に	5 年 以 上 前 に 差 別 を 受 け た	差 別 を 受 け た	現 在 を 5 年 程 前 の 間 に	見 た り 聞 いた り し た	5 年 以 上 前 に 差 別 を	無 回 答
全体		173	16	73	34	76	3			
		100.0	9.2	42.2	19.7	43.9	1.7			
性別	男性	82	11.0	46.3	20.7	40.2	2.4			
	女性	91	7.7	38.5	18.7	47.3	1.1			
	無回答	0	—	—	—	—	—			
年代	20歳未満	3	—	—	66.7	33.3	—			
	20歳代	3	33.3	33.3	—	33.3	—			
	30歳代	11	—	20.0	30.0	60.0	—			
	40歳代	25	4.3	30.4	39.1	34.8	—			
	50歳代	20	5.9	47.1	23.5	35.3	5.9			
	60歳代	25	—	39.1	13.0	56.5	—			
	70歳以上	115	13.8	48.9	13.8	43.6	2.1			
	無回答	0	—	—	—	—	—			

9 自由記述欄の回答

【12】健康に関して、困っていること、不安なことがあれば、ご自由にお書きください。

足腰に痛みがある
透析治療のため、調子が良くない
現在は健康ですが、この先どうなるか不安でもある。
今は自分で車を運転して通院しているが、今後の交通機関が心配。
運転ができなくなった
高齢のため、色々心配はある
持病があるが、定期的に病院に通っている
一人暮らしが辛い
介護してくれる夫も高齢
狭窄症ヘルニアで畑作業も1時間もたない。
医療費がかかること、少しぐらいでは行かないが、後で大きな事になったらと思う。
医療費がかかる事。できるだけ行かないようにしているが、それが悪い方向になったとき。
お手洗いが近い
足、腰が痛い
癌
心臓部に異常があること、前立腺。通院はしているが不安がある。
年を重ねるごとに体力が落ちてきている。
頭痛
足腰が弱い

【17】転職を希望している方のみお答えください。

【転職希望理由】

給料が安い
常用で勤務できるところへ

【希望の業種があればお書きください】

現在派遣→正社員にしてみたい
事務関係

【32】隣保館（人権文化センター）の活動についてご意見やご要望をお書きください。

何をしている場所なのか具体的にわからない。イベントなどの情報が伝わってこない。
安全な駐車場に整備してほしい。
人権に関する資料や本を充実させてほしい。福祉トイレを新設してほしい。
特に50歳代以上の差別意識改革の研修をしてもらいたい。
啓発の拠点として様々な事業があり、地区外からの人たちも大勢参加している。これからも多くの人に利用してもらえるようにしてほしい。
ネット差別等がある限り、人権文化センター等を引き続き置いてほしいです。
現在も同和の人達以外使っているが、もっとスポーツ、サークル、講演等で使用していただきたい。野沢会館が凄いのので、そちらに移動してしまうか？
生活相談員とは何をしているのですか？
もう少し活動（料理教室など）を増やしてほしい。
今までの活動でいいと思う。
同和地区以外の人でも気軽に行ける活動ができたらいいと思います。
もっと地域の人が利用しやすいようにしてください。
現在の活用内容はわからないが、特に昔と違うのであれば（解放運動）運営費を掛けて、存続はいらないと思われます。
今まで通り、色々な事をやってほしい。応援しています。
なるべく協力はしますので、がんばってください。

Ⅳ. 調査結果の考察とテーマ分析

本調査の目的は「Ⅰ 調査の概要」にある通り、「同和地区住民の生活実態の現状を把握し、今後の人権同和教育・啓発活動の課題を明らかにするための基礎資料として、「第五次佐久市部落差別撤廃と人権擁護に関する総合計画」策定に活用する」ことを目的としている。

また、「部落差別の解消の推進に関する法律」（平成 28 年法律第 109 号）においても、部落差別の実態に係る調査を行うこととされている。

「同和地区住民の生活実態の現状を把握」することとは、昭和 40 年（1965 年）に出された同和対策審議会答申（同対策答申）によるところの「実体的差別」を明らかにし、把握していくことである。同対策答申では、「実態的差別」とは「同和地区住民の生活実態に具現されている差別」とされており、同和地区における格差や劣悪な環境等の減少は、就職・教育をはじめとしたさまざまな場面における「機会の不平等」の結果として現れたものであり、差別が具象化したものであるという考え方である。

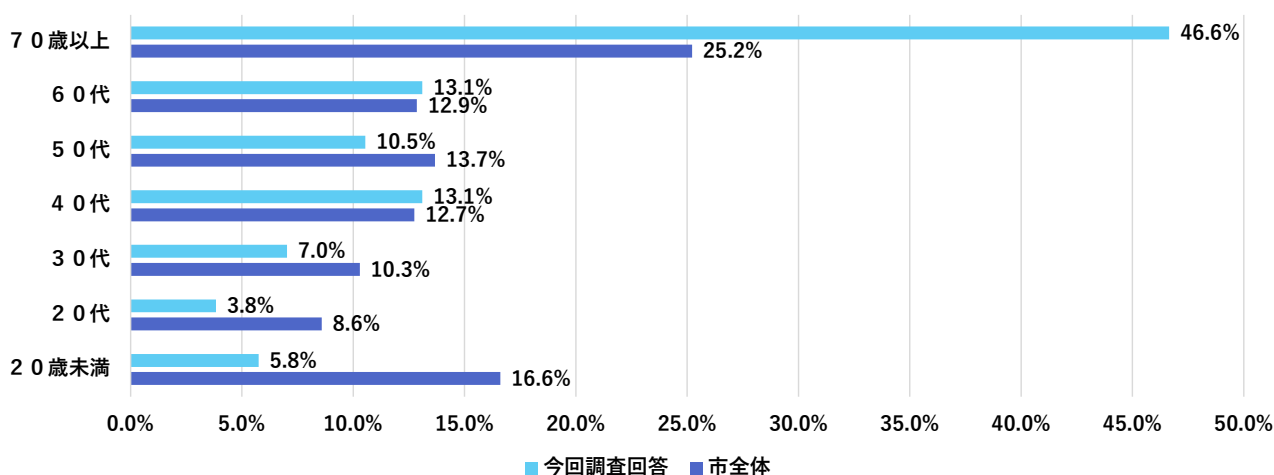
令和 2 年度（R2）の調査から 5 年が経過し、社会情勢は「コロナ禍後の生活変化」「急激な物価高騰」「デジタル化の加速」と大きく変容した。今回の報告書ではこれらの背景が地区住民にどのような影を落としているか、特に市・県・国の最新統計との比較を通じ、今回の調査結果との間にある格差を捉えることに努めた。

1. 調査結果の考察

今回の調査で最も顕著な数値は、地区内の急激な高齢化である。

同和地区全 140 世帯のうち、60 歳以上の世帯員が約 6 割を占め、高齢化率（65 歳以上人口比率）は約 51.8%に達している。これは佐久市全体の高齢化率（31.8%）や全国平均（29.3%）を 20 ポイント近く上回る超高齢社会の姿である。

同和地区と市全体との人口構成を比較してみても、「40 代」「60 代」「70 歳以上」では上回っており、それ以外の全ての年代で下回っていることがわかる。特に「70 歳以上」と「20 歳未満」の乖離が激しい。（下図）



今回の調査結果から、同和地区の少子高齢化の一段の進行と、それに伴う健康・福祉の課題や、不安定な就労状況、生活の困窮等が特徴としてみられる。

今回の調査結果として現れた格差等の背景にある「実体的差別」を把握するため、調査項目ごとに個別に掘り下げたテーマ分析を行う。

2. テーマ分析

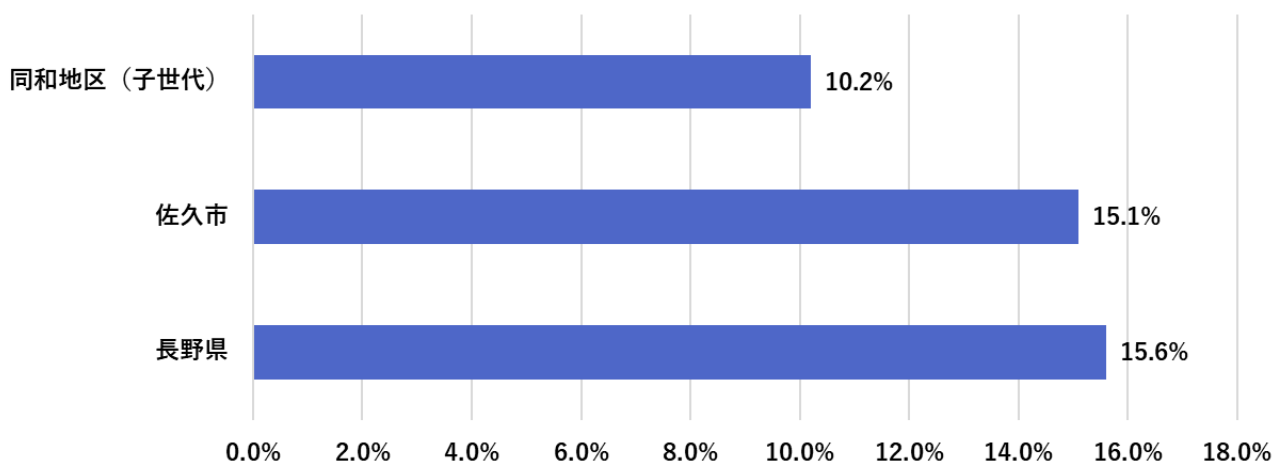
教育

今回の調査結果によると同和地区の子世代における大学・大学院卒比率は10.2%であり、令和2年国勢調査の結果による佐久市全体（15.1%）および長野県全体（15.6%）の結果と比較して、4ポイント以上低い水準にある。このことは、同和地区において高等教育への進学・修了に至る機会が、市および県の平均水準と比べて相対的に限定されている状況を示している。

特に、佐久市全体と長野県全体の大学・大学院卒比率がほぼ同水準で推移している一方、同和地区のみが明確に低い値を示している点は、地域内における教育機会の不均等の存在を示唆するものであるといえる。すなわち同和地区の子世代は、進学を選択・実現する以前の段階において、家庭環境や学習環境、進学情報へのアクセス等に関し、構造的に不利な条件下に置かれている可能性がある。

以上のことから、同和地区における大学等への進学機会が、佐久市および長野県の平均と比較して十分に保障されていない現状を示す基礎的資料であり、教育施策や進学支援策の検討において、教育機会の格差是正を重要な課題として位置付ける必要性を示している。

大学・大学院卒比率の比較



住宅

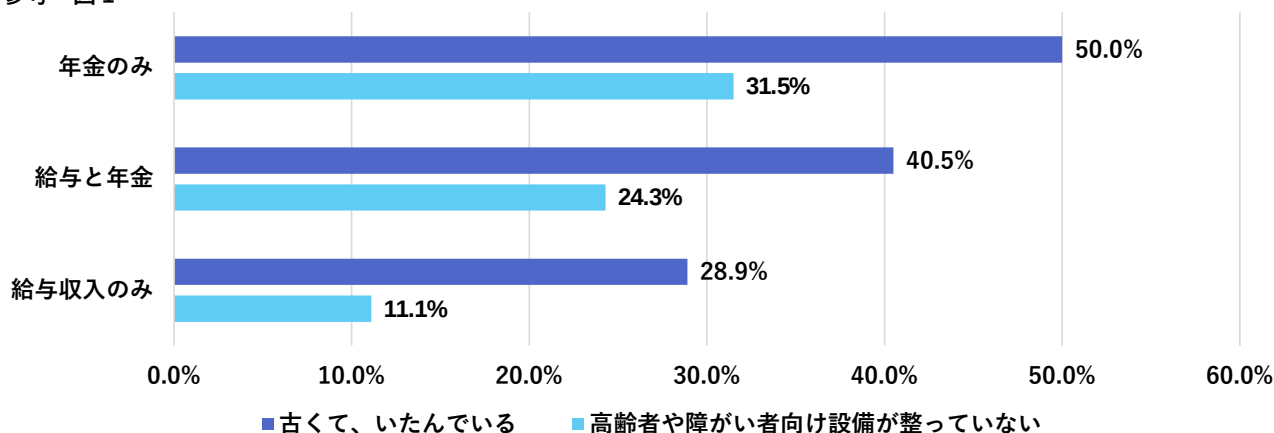
住宅の状況について、今回の調査結果では87.2%と県や市全体の持ち家率と比較して高めの数値となっており、前回調査から比較しても16.7ポイント上昇している。（6ページ 問【4】）

持ち家に住む世帯数の増加の要因としては、この5年間で住宅の変化があったかについての設問で「新築」が4世帯と増えていることや、古くなった自宅を「改築・改装」するなど維持している世帯が6世帯あること（8ページ 問【5】）、また逆に「市営住宅」に住んでいる世帯が前回調査の9.5%から2.1%まで減少した（6ページ 問【4】）結果といえる。

一方で、持ち家に暮らす世帯においては老朽化の問題に直面している。特に今回調査の結果のグラフ（参考 図1）によると、給与収入のみの世帯よりも年金世帯ほど住環境の維持が困難になっている実態が明らかになった。

水洗化する予定がない理由（11 ページ 問【10】）でも「高齢につき家を継ぐ人がいない為」との意見があるなど、これらの状況の背景には経済的な困窮や、若者世代の流出が推察される。

参考 図1



環境

まわりの環境について感じていることを選択肢から選んで回答してもらったところ「特にない」が26.4%と前回調査の41.7%よりも15.3%減少している一方で、「道路舗装、幅、条件が悪い」が前回調査の18.0%から30.7%へと増加し最多の回答となった。その他の選択肢は前回調査から大きな変化は見られず、同和地区内の生活環境の問題の解消に至っていない現状が見受けられる。（16 ページ 問【15】）

また、「その他」の回答には「空き家がそのままになっている」といった意見も複数見られている。

空き家問題は全国的に増加傾向であり、同和地区内の状況が県や市の状況と比較して、特に問題となっているかは今回の調査結果だけでは判断出来ないが、一般的に空き家が増える要因として、高齢化と核家族化（若者世代の流出）や経済的負担が挙げられている。

これらの要因は、まさに今回の調査結果として現れている同和地区の特徴的な問題点の一つであり、今後同和地区において空き家問題が大きな課題となりうる環境にあると推測される。

空き家問題は、住宅の倒壊による周辺住民への危険はもちろん、環境衛生、景観、治安の維持など地域全体の環境に与える影響が大きいため、同和地区における空き家の実態が把握できるよう、今後も調査を継続し対策を講じる必要性を感じる。

健康

健康状態について、全体の割合としては前回調査からほとんど変化が見られないが、70歳以上では

「普通」が前回調査の57.0%から2.6ポイント増の59.6%、「弱い方である」が前回調査の13.0%から1.4ポイント減の11.6%、「病気がち」が前回調査の23.7%から0.3ポイント増の24.0%と、高齢者の健康状態にやや改善が見られる。（2 ページ 問【4】）

福祉施設・サービスの利用状況（31 ページ 問【11】）でも、ほぼすべてのサービスの利用者が微減しており、「施設やサービスを利用していない」が全体の 86.9%となっている。また、回答者を「障害のある方、寝たきりの方」に限定した設問（25 ページ 問【6】）をみても、前回調査（令和 2 年度）では回答者が 45 人だったのに対し、今回の調査では 17 人と大幅に減っており、高齢者の健康状態が改善していることがここでもわかる。

しかし、実際介護に携わっているのは「家族」が調査の回を追うごとに割合を伸ばしており、「施設」は前回調査の 20.0%から 2.4 ポイント減の 17.6%、ホームヘルパーに至っては今回調査では 0%と、「公助」としてある福祉・介護サービスの提供が行き届いていない現状が推測される。

今後、さらなる高齢化の進展が見込まれるため、各種サービスの提供体制の充実を図るほか、利用しやすい仕組みづくりの必要性を感じる。

また、寝たきりにならない生活習慣の普及や今回の調査結果で前回と比較して改善しているものの、疾病の早期発見のための健診受診率のさらなる向上（26 ページ 問【7】）が必要になってくると考えられる。

就労、収入

就労形態については、いわゆる正規の職員・従業員である「常雇」の割合が 40%を超えており、年代別にみると特に 40 歳代以下の世代では 50%を超えている。総務省の「労働力調査（基本集計）令和 7 年 11 月分」における、全国の就業者のうちの正規職員・従業員の割合（54.7%）と比べると、30 歳代（54.5%）ではほぼ一致しており、20 歳未満（60.0%）、40 歳代（61.1%）で上回り、20 歳代では 81.8%と大きく超えている。（33 ページ 問【14】）。

一方、収入については厳しい実態が見られる。公的年金の受給額では「100 万円未満」が 50%を超えており、「50 万円未満」も 14%いることがわかる。（42 ページ 問【19】）

この結果は、現在年金を受給している世代は国民年金（基礎年金）のみの受給となっており、厚生年金の受給が無い（企業に正規の職員・従業員として雇われていなかった）ことを現わしていると考えられる。また一部に受給額が「50 万円未満」の方もいることから国民年金（基礎年金）分の保険料を納めるのにも苦勞していた厳しい当時の生活の実態が推察される。

（※国民年金（基礎年金）の年間給付額は約 83 万円）

そのような当時の実態が、現在においても年金受給額の低さとして現れていることは、まさに差別による「機会の不平等」から招かれる結果としての格差が現実表れている「実体的差別」の具体例であるといえる。当時の差別が今なお個人の暮らしに影響を与えているという事実、差別解消までの道のりの長さを改めて考えさせられる。

経済的に困窮した家庭で育った子供が、学業、就職、基本的な生活習慣等に悪影響を受け、自身も困窮に陥ってしまう「貧困の連鎖」が全国的な問題として生じているとし、国では平成 25 年に「子どもの貧困対策に関する法律（平成 25 年法律第 64 号）」を制定し、子どもの貧困対策に取り組み始めたところである。

一方、同和地区においては同和教育や基礎学習、大勢で過ごすことによる基本的な生活習慣の習得等を目的とした「解放子ども会」が 40 年以上前の昭和 49 年（1974 年）から活動している。（※同和教育推進教員が配置された時期を始期とする）

この活動は、「解放子ども会」という形式になる以前から、地区内の子どもの将来を案じた青年たちが自発的に学習会を組織したことが起源といわれており、数十年以上前からいち早く機材的に困窮した家庭の子どもに潜む「貧困の連鎖」の可能性と連鎖を断ち切るための手段としての「学習機会の提供」や家庭、学校以外の第3の居場所づくりの重要性に気付いて取り組みを行ってきた歴史的経緯がある。

就労形態で40歳代以下では「常雇」が50%を上回っているのは、こうした同和地区の先進的な取り組みの成果が表れたものとみることができる。

しかしながら、収入においては年金賃金平均値（概算値）を全国と同和地区とで比較すると、20歳代以外はいずれの年代も同和地区の方が全国を下回っている状況である。（39 ページ 問【18】）

生活苦や賃金格差といった貧困問題が、『自分より立場の弱いものを見つけ差別をする』という心理的要因や、差別意識の拡大に繋がっているとの指摘も審議会でなされた。

経済的格差による生活の困窮が「貧困の連鎖」につながらないようにするためにも、収入面において改善が図られるよう、これらの取組の推進、強化が必要であると考えられる。

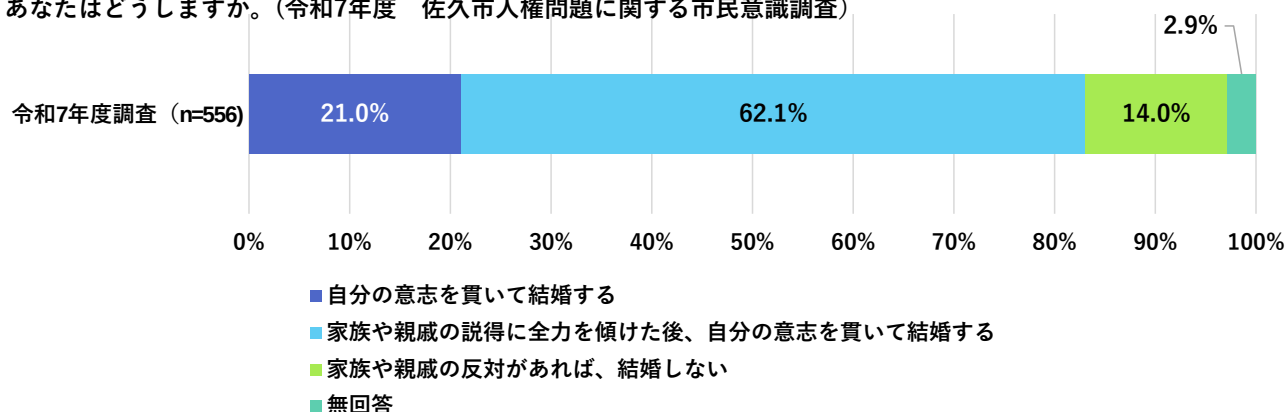
結婚

配偶者について質問したところ「同和地区外の人である」が前回調査の38.1%から6.3ポイント減の31.8%となった。前回調査（R2：38.1%）ではその前の調査（H27：31.9%）より増えていたが、今回は再び減少した。

また既婚者と結婚しようとしたことのある方に聞いた「結婚するときに差別・反対があったか」の質問には、「差別も反対もなかった」が60%を超えトップとなり「差別があった」の回答も減少した（R2：16.9%→R7：13.7%）一方で、「反対があった（差別かどうかわからない）」は微増（R2：10.3%→R7：11.2%）している。（47 ページ 問【21】）

同時期に実施した「令和7年度 佐久市人権問題に関する市民意識調査」において、「同和地区出身の人との結婚に反対されたら」（既婚者も未婚と仮定して回答）の質問に対し、「結婚する」と「家族や親せきの説得に全力を傾けた後、自分の意志を貫いて結婚する」を合計して83.1%に対し、「結婚しない」回答の合計が14.0%となっている。

仮にあなたが、同和地区（被差別部落）出身の方と結婚しようとするとき、家族や親戚から反対をされたら、あなたはどうしますか。（令和7年度 佐久市人権問題に関する市民意識調査）

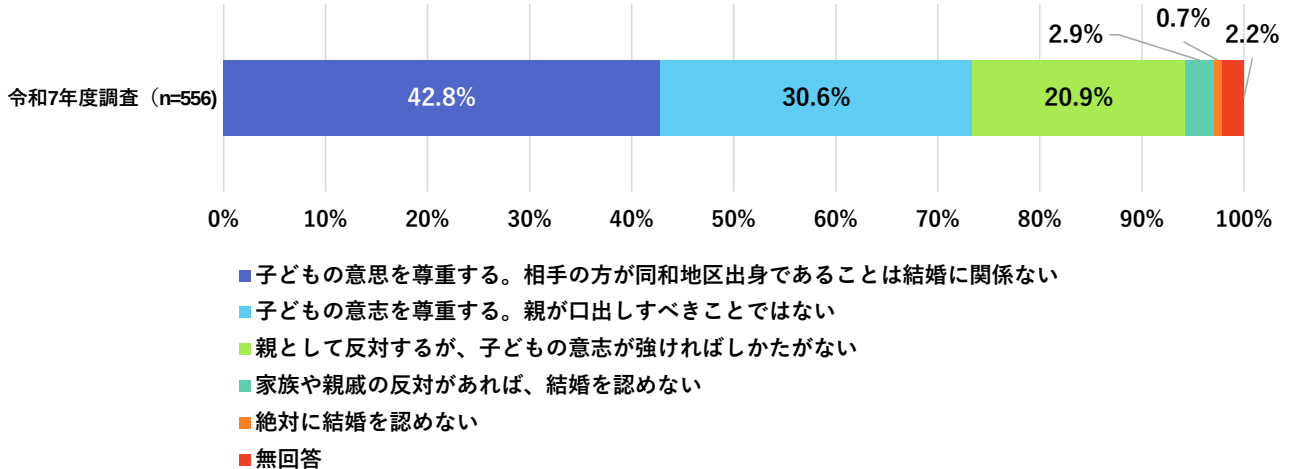


さらに「仮にお子さんが同和地区出身の方と結婚しようとするとき、あなたはどのようにしますか」（いない方も仮定で回答）の質問に対しては、「子どもの意思を尊重する。相手の方が同和地区出身であることは結婚に関係ない」が42.8%、「子どもの意思を尊重する。親が口出しすべきことではない」が30.6%と積極的に容認する回答が73.4%となった。

一方で「親として反対するが、子どもの意志が強ければ仕方がない」と消極的に容認する姿勢は20.9%となっており、同和地区出身の人との結婚に対して忌避意識を持っているといえる。「結婚を認めない」とする回答と合わせると24.5%の方に、依然として結婚の場面における差別意識があるという実態が浮き彫りとなっている。

お子さんが、同和地区（被差別部落）出身の方と結婚しようとするとき、あなたはどのようにしますか。

（令和7年度 佐久市人権問題に関する市民意識調査）



また、「（結婚経験のある方へ）差別が原因で、離婚されたことがありますか」の質問に対して、5.6%の13人が「ある」と回答しており、結婚した後も差別が存在している実態が伺える。（53 ページ 問【26】）

「（結婚するときに差別・反対があったと答えた方に）どのような対処をしましたか」の質問の回答は「対処しなかった」（41.4%）よりも「対処した」（55.2%）がかろうじて上回っており、改善の様子が見られる。（50 ページ 問【23】）

20代・30代において『差別があった』という回答がゼロであった事実は、これまでの啓発活動や世代交代による確実な意識変化を示すポジティブな兆候として捉えることができる。しかし、結婚時に差別を経験した層において『親元への行き来をしている』割合が減少していることから、差別の件数自体は減っていても、関係断絶に至るなどの深刻なケースの割合が増加している可能性も危惧される。

この結果より、結婚差別は減少傾向にあるものの、結婚相手を考える際の忌避意識は依然として根強く残っているという事実を受け止め、「差別をさせない・許さない」人権同和教育・啓発活動を今後も継続していくことが重要と考えられる。また、結婚差別があった際の相談体制の充実とともに、相談機関等の周知も同時に求められてるといえる。

V. 調査様式

同和地区生活実態調査のお願い

令和7年10月
佐久市長 柳田 清二

市民の皆様には、日頃から市政運営につきましてご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

佐久市では、「佐久市部落差別撤廃と人権擁護に関する総合計画」に基づき、部落差別をはじめとしたあらゆる差別の解消と、人権が尊重される社会の実現に向け、人権施策を推進してきました。

本調査は、来年度予定している「人権に関する総合計画」の改訂にあたり、市民の皆様の人権についてのお考えをお聞きするために実施するものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、是非ともご協力お願いいたします。

調査は、無記名で回答し、統計的に集計を行いますので、個人が特定されることはございません。

ご安心のうえ、率直なご意見をご記入ください。

〈ご記入等にあたってのお願い〉

- 1 調査票は世帯全体についてお伺いする「世帯調査票」と、小学生以上の世帯員全員にお伺いする「世帯員調査票」の2種類が同封してあります。
- 2 原則としてご本人（実際にお住まいの方）がお答えください。ただし、ご高齢、ご病気、障がいがあるなどの理由により、ご本人様がお答えになれない場合は、ご家族の方が代筆してお答えください。
また、小学生の方は保護者の方にご協力いただき、ご記入をお願いします。
- 3 ご回答は、用意された項目の中から当てはまる番号または項目に○をし、記述を要する項目は、[]のなかに必要事項をご記入ください。お答えが「その他」の場合には、()のなかに具体的な内容をご記入ください。
- 4 ご記入後、封筒に入れ、調査員までお渡しください。
調査票の郵送は出来ませんのでご了承ください。

〈この調査についてのお問い合わせ先〉

佐久市役所 人権同和課 人権同和係
電話：0267-62-3135(直通)

同和地区生活実態調査（世帯調査票）

1. 家族構成

【1】家族構成をお伺いします。

・あなたの世帯の構成（同居している家族）についてお答えください。（○は一つ）

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 夫婦 | 3. 自分と親の二世帯 |
| 4. 自分と子どもの二世帯 | 5. 自分と親と子どもの三世帯 | |
| 6. 自分と親と祖父母の三世帯 | 7. その他（ | ）. |

【2】あなた（世帯主）に子どもはいますか。（同居していない子どもを含みます。）

1. いる → 【3】へ進む
2. いない → 【4】へ進む

【3】子どもがいる世帯主の方にお伺いします。

・あなた（世帯主）の子どもの最終学歴と現在の居住地をお答えください。

	年代	最終学歴	居住地
子ども 1人目	20歳未満、20代、30代、40代、 50代、60代、70代以上	小学校・中学校・高等学校 各種専門学校・短大・高専 大学・大学院以上 その他（ ） 在学中・卒業	同居、市内、 佐久市以外の県内、県外
子ども 2人目	20歳未満、20代、30代、40代、 50代、60代、70代以上	小学校・中学校・高等学校 各種専門学校・短大・高専 大学・大学院以上 その他（ ） 在学中・卒業	同居、市内、 佐久市以外の県内、県外
子ども 3人目	20歳未満、20代、30代、40代、 50代、60代、70代以上	小学校・中学校・高等学校 各種専門学校・短大・高専 大学・大学院以上 その他（ ） 在学中・卒業	同居、市内、 佐久市以外の県内、県外
子ども 4人目	20歳未満、20代、30代、40代、 50代、60代、70代以上	小学校・中学校・高等学校 各種専門学校・短大・高専 大学・大学院以上 その他（ ） 在学中・卒業	同居、市内、 佐久市以外の県内、県外
子ども 5人目	20歳未満、20代、30代、40代、 50代、60代、70代以上	小学校・中学校・高等学校 各種専門学校・短大・高専 大学・大学院以上 その他（ ） 在学中・卒業	同居、市内、 佐久市以外の県内、県外

2. 住 宅

【4】あなたの住宅についてお答え下さい。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|----------|-----------------------|
| 1. 厚生住宅 | 2. 市営住宅 | 3. 民間借家 (アパート・一戸建てなど) |
| 4. 社宅、寮など | 5. 借間 | 6. 持家 (土地も家も) |
| 7. 持ち家 (家だけ) | 8. その他 (|) |

【5】この5年間で、あなたの住居に変化 (新築、改築、転居等) はありましたか。

- | | |
|---------|---------|
| 1. あった | →【6】へ進む |
| 2. なかった | →【7】へ進む |

【6】(【5】で「1. あった」とお答えの方に)

具体的にどのような変化があったか、お書きください。

例：民間借家 (アパート) から、宅地購入し新築した。同じ場所で (一部) 改築した。

[]

【7】借家等に住んでおられる方は家賃をお書きください。

月額 _____ 円

【8】現在の住宅は水洗化されていますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

【9】(【8】で2と答えた方に) 今後水洗化する予定はありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

【10】(【9】で2と答えた方に) 水洗化する予定がない理由をお答えください。

- | | |
|---------------|---|
| 1. 経済的理由 | |
| 2. 持ち家でないから | |
| 3. 近くに下水がないから | |
| 4. その他 (|) |

【11】現在の住宅について、何か困っていることがありますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1. 立ち退きを求められている | 2. 古くて、いたんでいる |
| 3. 便所、風呂、台所などの設備が不十分 | 4. 狭くて困っている |
| 5. 他の世帯と同居している | 6. 家賃が高い |
| 7. 日当たりや風通しが悪い | 8. 湿気が多く、水はけが悪い |
| 9. 騒音がひどい | 10. プライバシーがたもてない |
| 11. 通学・通勤に不便である | 12. 庭がない、庭が狭い |
| 13. 高齢者や障がい者向け設備が整っていない | 14. 困っていない |
| 15. その他 (|) |

【12】今後の住まいについて、どのようにお考えですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 建て替えたい | 2. リフォームしたい |
| 3. 取り壊したい | 4. 市営住宅に入居したい |
| 5. 売却したい | 6. 空き家バンクへ登録したい |
| 7. 特に考えていない | 8. その他 () |

【13】国や県、市では、耐震改修や省エネ化など住宅リフォームに関する支援制度がありますが、利用したことはありますか。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 利用したことはない |
|--------------|--------------|

市の住宅リフォームに関する支援制度の一例

- ・耐震診断事業：古い木造住宅の無料耐震診断事業。
- ・耐震補強工事補助金：上記の耐震診断の結果に基づき、耐震補強工事やそれに付随する耐震改修促進リフォーム工事を行う場合の補助制度。

【14】(【13】で2と答えた方に) 利用したことがない理由をお答えください。

1. 制度を知らなかった
2. 制度が複雑で理解するのが難しかった
3. 制度の条件に合わなかった
4. 支援があっても費用が高額で断念した
5. その他

3. 環 境

【15】お住まいのまわりの環境について、感じていることがありますか。

(○はいくつでも)

- | | | | |
|-------------------|------------|---------------------|------------|
| 1. 大気汚染 | 2. 騒音 | 3. 振動 | 4. 悪臭 |
| 5. 遊び場が少ない | 6. 緑が少ない | 7. 街灯がない | 8. 路上駐車が多い |
| 9. 交通が不便 | 10. 買い物に不便 | 11. ごみの保管、後始末がよくない | |
| 12. 住宅が密集している | | 13. 道路の舗装、幅などの条件が悪い | |
| 14. 水道の設備や水質がよくない | | 15. 火災の危険がある | |
| 16. 特にない | | 17. その他 () | |

4. 生活費の源泉

【16】あなたの世帯の収入はどれに該当しますか。(○は3つまで)

- | | | | |
|-----------|----------------|--------------|------------|
| 1. 世帯主の給与 | 2. 配偶者の給与 | 3. その他世帯員の給与 | |
| 4. 農林業収入 | 5. 農林業以外の事業収入 | | |
| 6. 内職など | 7. 年金、恩給 | 8. 仕送り金 | 9. 家賃、地代収入 |
| 10. 生活保護 | 11. その他の収入 () | | |

世帯員調査

用意された項目への回答は、当てはまる「番号」に○をしてください。

※小学生の方は、保護者の方にご協力いただき、ご記入ください。

※小学生および中学生の方は、【1】～【1 2】、【2 7】～【3 6】の質問にお答えください。

※小中学生を除いた未成年の方は、【1】～【19】、【27】～【36】の質問にお答えください。

世帯構成

- 【1】 世帯主との続柄をお書きください。 _____
- 【2】 年齢をお書きください。 _____ 歳
- 【3】 性別をお答えください。 _____

- ① 男性 ② 女性 ③ その他※

※「③その他」とは、性的マイノリティ（性的少数者）を考慮した選択肢です。

戸籍上の区分とは別に、ご自身の主観により選んでください。

健康の状態

- 【4】 現在の健康状態をお答えください。
- ① 非常に健康
② 普通
③ 体は弱い方である
④ 病気がち（よく病気にかかる、入通院など）
⑤ 寝たきり
- 【5】 ※（【4】で「③ 体は弱い方である」、「④ 病気がち」、「⑤ 寝たきり」と答えた方へ）
治療方法は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。
- ① 病院、診療所への入院
② 病院、診療所への通院（往診を含む）
③ 歯科への入通院
④ 処方箋の調剤薬
⑤ マッサージ、はり、灸、柔道整復師
⑥ 市販薬
⑦ 治療していない
⑧ その他（ ）

【6】※（障がいのある方、寝たきりの方へ）

介護にたずさわっている方は誰ですか。次の中からいくつでもあげてください。

- ① 家族 ② 親戚
- ③ 知人 ④ 施設の職員
- ⑤ ホームヘルパー ⑥ 家政婦等の雇人
- ⑦ ボランティア ⑧ 介護人がなく困っている

【7】あなたは、最近1年間に健診等（健康診断、健康診査、人間ドック）を受けたことがありますか。

- ① ある ② ない

【8】※ (【7】で「① ある」と答えた方へ)

受けた健診は、どこで実施した健診でしたか

- ① 市が実施した健診
- ② 勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した健診
- ③ 学校が実施した健診
- ④ 人間ドック（上記１～３以外の健診で行うもの）
- ⑤ その他（ ）

【9】(【7】で、「② ない」と答えた方へ)

どのような理由で受けなかったのですか。次の中からいくつでもあげてください。

- ① 知らなかったから
- ② 時間が取れなかったから
- ③ 場所が遠いから
- ④ 費用がかかるから
- ⑤ 検査などに不安があるから
- ⑥ その時、医療機関に入通院していたから
- ⑦ 毎年受ける必要性を感じないから
- ⑧ 健康状態に自信があり、必要性を感じないから
- ⑨ 心配な時はいつでも医療機関を受診できるから
- ⑩ 結果が不安なため、受けたくないから
- ⑪ めんどうだから
- ⑫ その他

【10】あなたは、最近1年間にがん検診を受けましたか。

- ① 胃がん検診
- ② 大腸がん検診
- ③ 肺がん検診
- ④ 子宮頸がん検診
- ⑤ 乳がん検診
- ⑥ その他（ ）

【11】あなたは、最近1年間にどんな福祉施設サービスを利用しましたか。次の中からいくつでもあげてください。

- ① 老人福祉施設
- ② その他施設
- ③ ホームヘルプサービス
- ④ その他のサービス
- ⑤ 施設やサービスを利用していない（理由： ）

【12】健康に関して、困っていること、不安なことがあれば、ご自由にお書きください

就労の有無・形態

※小学生、中学生の方は回答不要です

【13】あなたは、現在働いていますか

- ① 働いている ② 働いていない

【14】※ (【13】で「① 働いている」と答えた方へ)

次のいずれにあてはまりますか。

雇われている人

- ① 常雇 ② 臨時雇
③ 日雇 ④ パート・アルバイト
⑤ シルバー人材センター

上記以外の方

- ⑥ 会社・団体などの役員 ⑦ 自営業主（雇い人あり）
⑧ 自営業主（雇い人なし） ⑨ 自家営業の手伝い
⑩ 家庭で内職（賃仕事） ⑪ その他（ ）

就職希望

※小学生・中学生の方は回答不要です

【15】※（【13】で「② 働いていない」と答えた方へ）

今後、働きたいとお考えですか。

- ① 働きたい
- ② 働きたいが、働けない事情がある
- ③ とくに働きたいと思わない
- ④ 在学中である
- ⑤ その他 ()

【16】※（【15】で「②働きたいが、働けない事情がある」「③とくに働きたいとは思わない」と答えた方へ）その理由は何ですか。

- ① 健康がすぐれない
- ② 高齢である
- ③ 老人や病人の世話のため
- ④ 家事・育児が忙しい
- ⑤ 適当な仕事がない
- ⑥ 資格や技能がない
- ⑦ 家族が反対するから
- ⑧ 働く必要がないから
- ⑨ その他（ ）

【17】 転職を希望している方のみお答えください。

轉職希望理由

希望の業種があればお書きください

年収

※小学生・中学生の方は回答不要です

【18】※（働いている方へ）

現在の仕事による年間収入はおよそどのくらいですか。（勤め人の場合は、諸手当、賞与を含む）

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 100万円未満 | ② 100~200万円未満 |
| ③ 200~300万円未満 | ④ 300~400万円未満 |
| ⑤ 400~500万円未満 | ⑥ 500~600万円未満 |
| ⑦ 600~700万円未満 | ⑧ 700万円以上 |

【19】※（公的年金を受給している方へ）

公的年金の1年間の給付額はいくらですか。

- ① 50万円未満
- ② 50~100万円未満
- ③ 100~150万円未満
- ④ 150~200万円未満
- ⑤ 200万円以上

結婚

※未成年の方は回答不要です

【20】※（結婚している方へ）

配偶者についてお答えください。

- | | |
|------------|-------------|
| ①同和地区の人である | ②同和地区の人ではない |
|------------|-------------|

【21】※（既婚者または結婚しようとしたことのある方へ）

結婚するときに相手方から差別・反対はありましたか。

- ① 差別があった
- ② 反対があった（差別かどうかわからない）
- ③ 反対があった（差別ではない）
- ④ 差別も反対もなかった
- ⑤ わからない

【22】※（【21】で「① 差別があった」、「② 反対があった（差別かどうかわからない）」と答えた方へ）

- ① 家族が反対した ② 親戚が反対した
③ 知人が反対した ④ 身元調査をされた
⑤ 相手から冷たくされた ⑥ その他（ ）

差別・反対されたとき、対処をしましたか。

- ① 対処した ② 対処しなかった

差別・反対されたとき、どのような対処をしましたか。次の中からいくつでもあげてください。

- ① 相手に抗議した ② 相手を説得した
③ 家族に相談した ④ 友人に相談した
⑤ 親戚に相談した ⑥ 運動団体に相談した
⑦ 行政機関に相談した
⑧ その他（ ）

相手方の親元には現在どの程度行き来がありますか。

- ① 行き来している
- ② 行くが来ない
- ③ 子どもが生まれてから行き来するようになった
- ④ あまり行き来していない
- ⑤ その他（ ）

差別が原因で、離婚されたことがありますか。

(該当する番号に○を付けてください)

- ① ある ② ない

インターネット環境

【27】パソコンやスマートフォン等の情報通信機器はお持ちですか。

- ① 持っている ② 持っていない

【28】※（【27】で「① 持っている」と答えた方へ）
インターネットは利用できますか。

- ① 利用できる
- ② 利用できない
- ③ 利用方法がわからない

隣保館（人権文化センター）活動

【29】隣保館（人権文化センター）を知っていますか。

- ① 知っている
- ② 知らない
- ③ 名前は知っている

【30】隣保館（人権文化センター）を利用したことや事業に参加したことがありますか。

- ① ある ② ない

【31】※（【30】で「② ない」と答えた方へ）
その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。

- ① 関心がないから
② 利用できることを知らなかった
③ 交通手段がないから
④ 参加したい事業等がないから
⑤ その他（ ）

【32】隣保館（人権文化センター）の活動についてご意見やご要望をお書きください。

$$[\quad]$$

被差別的體驗

【33】差別を受けたことがありますか。

- ① ある
② 受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある
③ ない

【34】※（【33】で「① ある」、「② 受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）

どのような場面で差別を受け（見たり聞いたりし）ましたか。

次の中からいくつでもあげてください。

- ① 結婚の際 ② 就職の際
- ③ 学校の教育現場で ④ 職場で
- ⑤ 福祉施設で ⑥ 日常生活の中で
- ⑦ インターネット上で ⑧ その他（ ）

【35】※（【33】で「① ある」、「② 受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）

どのように対処しましたか。次の中からいくつかもあげてください。

- ① 運動団体へ連絡、相談した
- ② 行政機関等に連絡、相談した
- ③ 家族に相談した
- ④ 友人・知人に相談した
- ⑤ 親戚に相談した
- ⑥ その他（ ）
- ⑦ 対処しなかった

【36】※（【33】で「① ある」、「② 受けたことはないが、見たり聞いたりしたことはある」と答えた方へ）

およそいつ頃に、差別を受けた、または見たり聞いたりしましたか。

次の中からいくつでもあげてください。

- ① 現在～5年ほど前の間に差別を受けた
- ② 5年以上前に差別を受けた
- ③ 現在～5年ほど前の間に差別を見たり聞いたりした
- ④ 5年以上前に差別を見たり聞いたりした

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

令和7年度
同和地区生活実態調査報告書

発行年月日 令和8年3月

佐久市 市民健康部 人権同和課

〒385-8501
長野県佐久市中込3056番地
TEL (0267) 62-3135
FAX (0267) 64-1157